



福島県立博物館

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 TEL0242(28)6000

福島県立博物館

令和4年度

年報 第37号

福島県立博物館

ごあいさつ

令和4年度は新型コロナウイルスの感染拡大から3年目を迎え、感染対策を徹底しながら、全国的に社会経済活動が段階的に再開されていきました。

当館においても、ご来館いただいたお客さまには、入場制限やマスク着用、手指消毒、体温測定などの感染対策に引き続きご協力いただきながら、職員一同、安全・安心な博物館運営に努め、計画していた展示、行事など予定どおりに開催することができました。

展示については、常設展示室における7回のテーマ展、16回のポイント展に加え、春・夏・秋・冬に4本の企画展を開催しました。春の企画展「アンモナイト合戦」では、県内外で発見された数多くのアンモナイトや同時代の生き物を展示し、アンモナイトの謎と魅力を紹介しました。夏の企画展「新選組展2022」では、新選組と会津藩との関係性にも注目しながら、隊士の書簡や所持品、当時を伝える絵画・古文書などの豊富な資料を展示し、実に4万人以上もの多くの方々にご来館いただきました。秋の企画展「名君の大名文化」では、西国を代表する大名家・岡山藩主池田家伝来の甲冑、能装束、絵画など、大名文化の文武を伝える名品を一挙公開し、岡山藩と会津藩の関わりを多角的に探りました。冬の企画展「写真展 福島、東北」では、国際交流基金から当館に寄贈された日本を代表する写真家の東北の魅力、特徴を広く世界に紹介した作品などを展示し、福島、東北の魅力と歴史、震災から10年を経た福島の姿を紹介しました。

企画展や教育旅行による来場者が増えたことなどにより、令和4年度の常設展・企画展の入館者数は15万5,379人と、平成16年度以来、18年ぶりに1年間の入館者数が15万人を超え、職員一同嬉しい限りです。

調査研究事業については、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存科学・災害の各分野がテーマを設定して継続的な調査活動を実施しており、展示や各種講座、紀要などを通じた研究成果の公開に努めています。令和4年度の明るい話題としては、当館自然分野の学芸員を中心とする日米の研究グループチームがモンゴルで発掘した恐竜ピナコサウルスから、世界で初めて恐竜の喉頭骨の化石を発見したことが大きく脚光を浴びました。

教育普及事業については、各種講座・講演会の開催、ゲストティーチャーの派遣のほか、関係機関や地域の方々との連携し、「こどもミニミニはくぶつかん」や読み聞かせ、会津磐梯山市民盆踊り、クリスマスコンサートなどのイベントを積極的に展開しました。

また、当館を拠点とした文化観光の取組「三の丸からプロジェクト」は3年目を迎え、部門展示室(民俗)、「雪国ものづくり広場 なんだべや」、雪国ものづくり食堂「つきない」のリニューアルや展示解説資料の多言語化を進めるとともに、雪国ものづくりマルシェ、会津若松市内の歴史的建造物との連携展示、武家文化・ものづくり文化の体験プログラムの実施などに取り組みました。これらの取組を通し、「三の丸からプロジェクト」が地域の皆さまに認知・期待されてきていることを実感しています。

今後も、より地域や県民の方々に広く愛される施設となるよう、「誰もが利用できる博物館」「みなさんをつくる博物館」を目指し、職員一同、全力を尽くしてまいります。

結びになりますが、当館の運営及び諸事業の推進にあたり御協力いただいた関係者の皆さま、そして、ご来館いただいたお客さまに心から感謝を申し上げます。

令和5年9月

福島県立博物館長 川名 義則

目 次

ごあいさつ

目次

福島県立博物館の使命と活動方針	1
福島県立博物館第3期中期目標	3
1. 重点目標	
2. 数値目標	
3. 令和4年度までの進捗状況について	
新型コロナウイルス感染拡大への対応	9
I 事業の概要	11
1. 資料収集事業	11
(1) 収集展示委員会	11
(2) 受贈・受託	11
(3) 購入	12
(4) 制作	12
2. 保存管理事業	13
(1) 資料の収蔵	13
(2) 登録・整理	14
(3) 貸出	16
(4) 保存	16
3. 展示事業	17
(1) 常設展示	17
(2) 企画展示	19
(3) 博物館資料展示活用アウトリーチ事業	24
(4) 指定文化財の公開	24
(5) 展示解説	24
(6) 体験学習室（なんだべや）	25
(7) リニューアルの検討	26
4. 調査研究事業	27
(1) 展示資料調査研究	27
(2) その他の調査研究事業	29
(3) 職員の研究活動	29
5. 教育普及事業	33
(1) 講座・講演会	33
(2) けんぱくミュージアムイベント	38
(3) 学校・文化施設等との連携	38
(4) 生涯学習・研究支援・家庭教育	46
(5) 動画の作成と配信	48
(6) 博物館友の会活動への支援	48
6. 広報公聴活動および出版事業	51
(1) 広報活動	51
(2) 公聴活動	57
7. 福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」	59
(1) 事業の概要	59
(2) 事業内容	59

8.	地域連携とネットワークの拠点	63
	(1) 福島県博物館連絡協議会	63
	(2) 磐梯山ジオパーク推進事業	63
	(3) ふくしまサイエンスぶらっとフォーム	63
	(4) 福島芸術計画	64
	(5) ふくしま歴史資料保存ネットワーク	65
	(6) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会	65
9.	震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承	66
10.	新たな博物館の役割・機能の創出	67
	(1) 文化財・自然資料レスキュー	67
II	管理運営	68
	1. 組織・職員	68
	2. 予算	69
	3. 運営協議会の開催	70
	(1) 福島県立博物館運営協議会	70
III	利用状況	71
	1. 入館者統計	71
	(1) 令和4年度入館者統計	71
	(2) 入館者の推移	72
	(3) 企画展入館者統計	75
	2. 出版物販売	78
IV	法規	80
	福島県立博物館条例	80
	福島県立博物館運営協議会条例	81
	福島県立博物館条例施行規則	82
	福島県立博物館組織規則	85
	福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	86
	福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	86
	福島県立博物館資料所在調査要領	87
	福島県立博物館資料調査員設置要綱	87
	福島県立博物館友の会規約	87
V	施設の概要	89
	1. 建築概要	89
	2. 設備	89
	3. 平面図・各室一覧	90
	4. 施設の修理・改築	92
	5. 沿革	93
VI	利用案内	95

福島県立博物館の使命と活動方針

平成19年7月公表 平成25年4月・平成26年6月・平成28年3月・平成31年3月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。博物館をとりまく社会情勢が変化する中で、多様化する要請に配慮しながら、社会に対する当館の責務を使命として明示し、新しい時代の博物館として目指すべき活動方針をとりまとめ、その内容を公表します。

◆使命

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故は、福島県に大きな被害を及ぼしました。博物館では、この震災を契機として、従来からの活動に加えて、新たな試みを始めてきました。それらを、未来に向けての取り組みとして定着、発展させてゆきます。

これらを基本に、福島県立博物館が担う3つの使命を掲げます。

I ふくしま発見 博物館

ふくしまの歴史・文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、利用者の皆さまとともに、地域文化の価値を学び、新たな文化を創り出します。

II 出合いふれあい 博物館

文化の多様性を尊重し、地域とすべての人に開かれ、人と人々が自由に交流し語り合える博物館を目指します。そのため、皆さまの心の拠り所となり、自ら学び体験できる場を創出します。

III 明日に向かう 博物館

震災の継承や博物館相互の連携強化を軸にした未来志向の取り組みを通して、発信力のある力強い博物館を目指します。災害や社会情勢の変化に対応し、行政や文化施設・諸団体と連携して、様々な課題に取り組みます。

◆活動方針

使命を果たすため、以下の10項目の活動を実践します。活動方針に沿って、とくに重点的に進める具体的な目標は、期間を定めて策定する「福島県立博物館中期目標」として公表します。

〈 使命 I 「ふくしま発見 博物館」 関連 〉

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を表す歴史・文化遺産と自然史資料および震災遺産を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。資料情報はデータベースとして整備し、可能な限り公開・活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。地域の課題と関係したテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示・講座

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できるようにします。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、ニーズに応じて、さらに詳しい情報を準備し提供します。

〈 使命 II 「出合いふれあい 博物館」 関連 〉

4. 楽しめて出合いのある場の創出

居心地がよく、いろいろなことを体験・創造・表現できる博物館を目指します。人と人が出会う文化的なコミュニケーションの場を設けます。未来を担う子どもたちとともに文化の創造力を育みます。

5. 利用者との協働

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館を運営します。幅広く館外からの協力を得ながら、誰にも開かれた博物館の事業を推進します。博物館の機能を生かした事業の実施を利用者の皆さまとともに目指します。

6. 博物館情報の公開と発信

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、時代の変化に応じた効果的な広報活動により展示など館活動の情報を広く伝え、博物館イメージと認知度の向上を図ります。

7. 地域連携とネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換・共同研究や利用者への相互紹介、事業の共同実施を行います。会津という観光地に立地することを踏まえ、地元会津の市町村や文化・観光施設・団体等と連携、協働し、新しいタイプのニーズに対応できるよう努めます。

〈 使命Ⅲ「明日に向かう 博物館」関連 〉

8. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

東日本大震災による多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくため、震災に関連するモノと震災を示すバシヨの資料化を行い、常設展示による公開とともに広く利活用することを目指します。

9. 新たな博物館の役割・機能の創出

これまでの博物館活動による蓄積を基盤にしつつ、自由な発想によって博物館の役割や機能を拡張していきます。博物館ならではの新たな広がりのある活動を検討することで、社会の課題やニーズに向き合います。

〈 3つの使命に共通する基盤として 〉

10. 管理運営

利用者の安全確保と快適性に配慮し、施設や設備を保全します。優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

福島県立博物館第3期中期目標（令和元年～令和5年度）

1. 重点目標

令和4年度の計画と実績・自己評価

使命	活動方針	重点目標	上：令和4年度の計画
			下：実績・自己評価
I ふくしま発見 博物館	1 地域の文化遺産の収集と継承	① 検索が楽しめるデータベースの構築と公開方法の改善	テーマ型データベースの一般公開の試行開始
			一般公開の試行開始に向けて、収蔵資料データベース（DB）の資料項目に「震災遺産類」を追加し、テーマのひとつである震災遺産を資料登録できるようにした。また、テーマ型DBをwebサイトで表示させるための準備としてデータベースの設定変更を行った。3月に「学芸員のおすすめ資料」として5テーマの資料紹介ページを公開し一般公開の試行を開始した。
		計画どおり実施	
	② 図書利用環境の整備	博物館の図書データベースを外部に公開する。一般来館者の図書利用要項を策定し、閉架図書の一般利用に必要なシステム（物品、人員、手順など）を検討する。	
		博物館図書データベースの外部公開対象とする図書を選定し、登録済み書誌データの書式統一作業を実施した。その後、当館ホームページより、図書データベースの外部公開を試行的に開始した。閉架図書の一般来館者への供用について、これに必要な図書利用要項の草案を作成し、学芸員会議に諮って内容を検討した。	
	計画どおり実施		
③ 資料の安全な保存	環境モニタリングや環境調査結果から現状の環境リスクを検討・共有し、課題解決のための方策を実践していく。		
	環境モニタリングや環境調査結果を集計し、館内環境動向について資料を管理する各分野と共有した。集計結果をもとに収蔵庫の環境整備や展示室の温湿度調整を行うことで、館内環境の維持・改善をはかった。		
計画どおり実施			
2 最新の研究による新たな資料価値の発見	④ 多様な連携による新たな研究活動	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。	
		国立歴史民俗博物館（民俗分野）、北海道大学総合博物館、モンゴル国立古生物学研究所（自然分野）、国立環境研究所・筑波大学（災害分野）、明治大学（考古分野）、帝塚山大学（歴史分野）など幅広い分野で、国内外の多様な機関と共同研究ネットワークを拡げた。また会津大学や会津学鳳高校など地元機関との共同研究も順調に継続している。	
計画どおり実施			
3 来るたびに発見がある展示・講座	⑤ 何度でも足を運びたい展示づくり	常設展の一部（部門展示室・レストコーナー等）について、情報通信技術を活用し、来館者の世代を問わず映像や音声で体感できる展示手法を導入する。	
		部門展示室「民俗」について、これまでの展示コンセプトを継承しつつ、テーマを文化観光に関連付けた「雪国のくらしとものづくり文化」へ拡充するため情報通信技術を活用した企画・設計を進め、実物大模型や映像・音声で雪国を体感できる展示を新設した。解説員動画を作成し、年代を問わず誰でも資料に親しみを持てるようレストコーナーに設置した。また解説員がワークシートやメッセージボードを子ども向けとして作成し「なんだべや」（旧体験学習室）脇に設置した。	
計画どおり実施			

使命	活動方針	重点目標	上：令和4年度の計画
			下：実績・自己評価
I ふくしま発見 博物館	3 来るたびに発見がある展示・講座	⑥ 博物館の魅力が詰まった新しいスタイルの講座の開催	<p>WITHコロナにおける開催・発信方法で常設展・ポイント展などと連動した講座（ミニ解説会など）を実施する。「三の丸からプロジェクト」に関するテーマなどで分野の枠を超えた講座を検討し、令和5年度の事業案を作成する。</p> <p>新型コロナウイルス対策を講じながら、テーマ展やポイント展をより楽しめる講座やワークショップ、ミニ解説会を多数実施し、常設展の魅力増進に努めた。また令和5年度事業案として、これまでの「三の丸からプロジェクト」の成果も活用し「若松城三の丸」を多角的に掘り下げる連続分野横断型講座「三の丸から講座」を計画した。</p> <p>計画どおり実施</p>
		⑦ 新しい展示ストーリーの検討	<p>「(仮称) 三の丸アベニュー」実現のため展示整備計画の検討を行う。</p> <p>文化観光に資する博物館からの周遊の起点となる「(仮称) 三の丸アベニュー」に係る展示強化基本計画について当館収集展示委員会の了承を得て、部門展示室「民俗」及び展示ロビーの実施設計業務を委託し、前者の設計について整備を完了した。</p> <p>計画どおり実施</p>
II 出会いふれあい 博物館	4 楽しめて出会いのある場の創出	⑧ 展示室以外の空間の有効活用	<p>体験学習室を活用した既存のプログラムを、「三の丸からプロジェクト」による同所の整備計画に応じてブラッシュアップし、実施する。また、前庭や雁木下、駐車場脇緑地などの敷地内館外の新たな活用を試行し、試行結果に基づき令和5年度以降の事業案を検討する。</p> <p>「三の丸からプロジェクト」の体験学習室整備により広いスペースが確保され、「三の丸からプロジェクト」の「雪国ものづくりマルシェ」では複数のワークショップを同時開催して前回より多くの集客を得ることができた。加えてものづくり要素の強い空間として整備したことで、民俗講座「藁に親しむワークショップ」のような新規プログラムも企画・実施された。また、体験学習室の今後の運用について、ものづくりの作家、教員、家庭教育に携わる方等、多様な立場の外部の方によるワークショップを行い活用の方向性を得ることができた。</p> <p>前庭および雁木下は「雪国ものづくりマルシェ」の出店場所として活用が定着し、活用を重ねる中でイベントの規模感の把握や電源等設備上の課題が明らかになった。駐車場脇緑地は幼稚園に向けた学習プログラムの開催場所として活用。未就学児童の初めての博物館体験の場所として有用という認識を強めた。これらの実績に基づき令和5年度の事業案を検討した。</p> <p>計画どおり実施</p>
		⑨ 多様な利用者層に対応したプログラムの実施	<p>幼稚園・保育園等との連携により乳幼児向けの通年プログラムを考案の上、実施する。また乳幼児やその保護者に向けたプログラムを大学等各団体と連携の上考案し、実施する。</p> <p>支援学校との連携により、障がいのある児童・生徒に向けたプログラムを考案し、実施する。</p> <p>乳幼児向けのプログラムを、連携する近隣の子ども園と通年で実施し新たなプログラムの考案につなげることができた。また、移動にバス利用を伴う新規の子ども園との連携をスタートし園内での学習と博物館の活用を繋げるプログラムを考案、実施した。大学等との連携も深め、冬の「こどもミニミニはくぶつかん」の試行や、読み聞かせの協働団体としての新規参加につなげることができた。</p> <p>支援学校との連携は、先生方との丁寧な話し合いにより障がいに応じたプログラムを考案し、通年で実施するとともに、改善を重ねることができた。</p> <p>計画どおり実施</p>

使命	活動方針	重点目標	上：令和4年度の計画
			下：実績・自己評価
Ⅱ 出 会 い ふ れ あ い 博 物 館	5 利用者との 協働	⑩ ボランティアとの協働	<p>資料整理ボランティアのあり方、活動内容についてボランティア同士が共有する機会を設けることや、募集の方法についても更に検討する。</p> <p>テーマ展の解説会を学芸員とボランティアが行うことで資料整理ボランティアの活動を広く伝えることができたが、資料整理ボランティアのあり方、活動内容についてボランティア同士が共有する機会を十分に設けるには至らなかった。また、ボランティアに関する内規の改訂を行い、年間を通して活動できる体制を整えた。歴史資料整理ボランティアとして古文書愛好会メンバー以外からの参加を試行的に受け入れ、その実績を踏まえて新規のボランティア募集のあり方について検討した。</p> <p>一部計画どおり実施</p>
		⑪ 利用者の自主的な文化活動支援	<p>既存の文化活動（友の会サークル等）の学習や運営を支援する。加えて、新規の支援のあり方について検討する。</p> <p>友の会サークルに担当の学芸員が参加し、適宜助言を行うなどして活動支援を行った。「化石鉱物探検隊」の成果展の開催、継続的な「古文書愛好会」の活動に加え、新たに組織された「考古学倶楽部」「仏像に親しむ会」の活動に学芸員が伴走し、サークル活動を軌道に乗せる支援を行った。また、新規支援のあり方について、担当班内で検討を行った。</p> <p>計画どおり実施</p>
		⑫ 協働による新たな事業運営の枠組みの構築	<p>イベント等を外部の団体等と企画・運営する枠組みを検討し、一部を試行する。</p> <p>外部の団体等との協働による新たな事業運営の枠組みを検討し、運営協議会等で協議し、次年度の事業案に反映した。また他団体との事業の企画・運営の試行として、学校団体向けの学習プログラム対応、冬の「こどもミニミニはくぶつかん」のワークショップの企画・運営を行い、効果と実績の検証につなげた。</p> <p>計画どおり実施</p>
	6 博物館情報の公開と発信	⑬ 情報の効果的な周知	<p>広報戦略の立案に基づき、効果的な広報活動を実施する。あわせてアンケート等の活用により広報効果の検証を行う。</p> <p>企画展の広報会議に基づき、従来の印刷物による広報だけでなく、Twitter企画（#福島写真美術館等）やイベント型広報（着物割引等）や物品配布（隊士カード）やラッピングカーといったものを組み合わせた総合的な広報を実施した。広報効果の検証として、Twitterの広報効果を春企画展で、Instagramの広報効果を秋企画展で分析した。</p> <p>計画どおり実施</p>
		⑭ 親しみやすさと認知度の向上	<p>イメージ戦略のために館内掲示物のデザインを検討する。博物館の魅力を様々な視点で紹介し、親しみやすさを向上させる。</p> <p>担当者で館内掲示物におけるイメージ戦略について協議し、県立博物館シンボルマーク、ロゴ、令和4年度制作の三の丸からプロジェクトロゴの活用について検討した。</p> <p>広報紙「なじよな特別号」の「三の丸からプロジェクト特集」で、同プロジェクトによる館内整備について発信、また通常版「なじよな」の表紙で年間を通して同プロジェクトによる館内整備を伝えるイメージ写真を採用するなど、広報紙「なじよな」を活用して“場”としての博物館のイメージを伝える広報活動を展開した。</p> <p>計画どおり実施</p>

使命	活動方針	重点目標	上：令和4年度の計画
			下：実績・自己評価
Ⅱ 出会いふれあい 博物館	7 地域連携と ネットワークの 拠点	⑮ 県内の各機関・団体と の連携による新たな文 化活動の創造	「三の丸からプロジェクト」や新規移動展（仮）、その他県内各機関・団体との連携事業での助言・指導などを通じて、新たな文化活動の創造に繋げる。
			「三の丸からプロジェクト」では共同申請者、各文化団体と連携した文化発信、新たな体験型プログラム構築を行った。博物館収蔵資料活用アウトリーチ事業では、連携館と協議を重ね、震災遺産を活用した企画展を北塩原村と富岡町で開催。今後のアウトリーチ事業で活用できるパッケージの創出につながった。また、当館収蔵写真作品を貸し出し、複数会場写真展を実施。開催各施設の協働、新たな相互理解が生まれた。その他、博物館外の機関との連携による中学校向け授業案の作成・実践、学びの場の創出、文化資源を活用したツアーの試行を行った。 計画どおり実施
Ⅲ 明日に向かう 博物館	8 震災遺産の 保全・活用 による東日 本大震災の 共有と継承	⑯ 震災遺産の展示公開と 利活用	震災遺産の常設展示について、ワークショップ等を通して館内外からの意見を集約し、館内での合意を形成する。
			ゲストティーチャーのアンケートや解説員とのワークショップを通じて、博物館の強みを活かした展示内容について意見を集約した。また博物館実習において、学生たちへの課題として震災遺産を含む現代の展示提案を行い、意見等を集約した。館内の関係分野学芸員や他館の近現代担当学芸員とも意見交換を行い、学芸員会議にて展示の構成や進捗を共有した。博物館収蔵資料活用アウトリーチ事業で震災遺産を活用した関係機関と協議を重ねて2会場企画展を実施し、常設展示のための知見を得た。成果の一部は全国科学博物館協議会研究発表大会にて報告した。 計画どおり実施
	9 新たな博物 館の役割・ 機能の創出	⑰ 地域社会の現状への貢 献	子ども、障害者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行し、試行の成果と課題の検証を行う。
適応指導教室の児童に向けて、当館の展示の対話型鑑賞、年中行事などをテーマにしたワークショップを通年に亘りほぼ毎月実施。通年での活用の試行となった。 福島芸術計画（県文化振興課事業）では、中山間地対応事業として昭和村のこどもたちと写真ワークショップおよび写真展を開催。過疎高齢化が進む地域の社会課題に対して、専門家の知見を取り入れながら、博物館的な手法で何ができるか試行・検証した。また、聴覚障害のある方に当館の利用に関するヒアリングを行い、聴覚障害のある方に向けた手話通訳を伴う企画展解説会を試行。成果・課題の検証を年度末に行った。 計画どおり実施			
10 管理運営	⑱ 施設の安全で快適な環 境整備	2年連続となった福島県沖地震の対応と、前年度までのリスクアセスメント・検討をふまえ、勤務時間内外の具体的な行動マニュアルを策定する。	
		「勤務時間外に発生した地震災害に対する職員行動マニュアル」および教育庁（教育総務課）通知をもとに博物館における課題を抽出し、博物館独自の行動マニュアルを策定した。館内各所に防災ヘルメットを配置し、非常時への備えを整えた。 計画どおり実施	

2. 数値目標

使命・活動方針に沿って、福島県立博物館の社会的な貢献度をはかる指標として数値化できる目標を設定し、年度ごとに実績を公表します。なお、令和3年度に行った中間見直し後の区分に従っています。

(令和4(2022)年度末)

区 分		2019	2020	2021	2022	2023	備 考
①館内事業利用者数 (展示・行事)	目標	90,000	90,000	90,000	100,000	110,000	
	実績	120,376	60,416	84,241	163,189		
②館内事業利用者数 (特別プログラム)	目標	—	—	—	3,500	4,000	
	実績	4,930	3,009	3,556	5,772		
③館外事業利用者数 (学校・公民館事業等)	目標 (③④合計)	1,800	1,800	1,800	2,000	2,000	
	③実績	1,823	2,188	2,605	4,636		
④館外事業利用者数 (館外で行った当館主 催事業)	④実績	—	19	69	14,758		アウトリーチ事業含む
	実績 (③④合計)	—	2,207	2,674	19,362		
実績合計 (①②③④合計)		127,129	65,632	90,471	188,323		

区 分	年間目標	2019実績	2020実績	2021実績	2022実績
資料情報の公開 (件数)	5,000	2,054	3,245	2,819	6,768
研究成果の公表 (件数)	30	32	15	34	28
行事の実施 (回数)	100	130	77	111	125
ホームページ (アクセス件数)	430,000	391,990	304,261	368,789	485,372
館外事業利用者数 (実行委員会・協議会事業等)	500	547	59	231	150

(参考) 第3期中期目標から実績を集計し、今後目標値の設定を予定します。

区 分	指 標	2019実績	2020実績	2021実績	2022実績
年間パスポート	販売数	988	1,737	968	971
	利用者数	4,630	2,442	4,007	4,560
Facebook	投稿件数	227	262	308	414
	フォロワー数	1,135	1,248	1,338	1,419
	エンゲージメント数	28,256	28,940	22,156	22,643
Twitter	投稿件数	309	280	410	358
	フォロワー数	1,167	1,507	2,115	2,697
	ツイートインプレッション数	3,103,652	1,131,054	1,175,482	845,762
YouTube ※2020年度新規	動画数	—	50	35	11
	チャンネル登録者数	—	182	291	389
	視聴回数	—	10,006	10,526	8,911

3. 令和4(2022)年度までの進捗状況について

1 重点目標

本年度は第3期の4年目に当たる。当初に設定した計画内容について、1項目(⑩)を除いて計画どおり実施することができた。各項目とも、最終年度の完了を目指して進めていくことになる。

2 数値目標

利用者数については、①～④の各項目いずれも目標を大幅に上回って達成することができた。コロナ禍の状況が続いてはいたが、大規模巡回展となった企画展「新選組展」をはじめとする年間4本の企画展など各種展示の実績とともに、教育旅行の回復、博物館収蔵資料活用アウトリーチ事業や文化観光推進事業「三の丸からプロジェクト」の各事業における成果などが積み上げられた結果といえる。

その他の目標については、前年度に年間目標を達成できなかった2項目(「資料情報の公開」「ホームページアクセス件数」)については改善された。一方で「研究成果の公表」については達成できなかった。令和2年度から達成できていない「館外事業利用者数(実行委員会・協議会事業等)」と合わせて、以下に原因の分析などを記した。

《補足》自己評価の詳細

1 重点目標

⑩ボランティアとの協働	計画内容のうち「活動内容についてボランティア同士が共有する機会を設ける」ことが十分にできなかったため、「一部計画どおり実施」と評価した。博物館の多様な資料をボランティアの皆さんと整理する際の考え方については、分野ごとにちがいもあり、とくに具体的に対象とする資料群の内容や参加者の技能・知識などを具体的に考慮しなければならないケースもある。各分野の活動状況のちがいを意識しながらも、博物館全体として資料整理ボランティア活動が進展するようなくみづくりが必要である。
-------------	--

2 数値目標

○研究成果の公表	年間目標30件に対して28件（93%）という達成度であった。前年度に比べて印刷物・学会発表ともに減少した。詳しく内訳をみると、執筆・発表の本数・回数が多い学芸員とそうでない学芸員との差が大きくなっている。館内において新しい事業が始まり、全体に業務量が増えている状況ではあるが、研究のための時間や機会を捻出して、学芸員一人一人が執筆や発表を増やすことが望まれる。
----------	--

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
印刷物	21	11	23	19
学会発表等	11	4	11	9
合計	32	15	34	28
達成度 (%)	106	50	113	93

○館外事業利用者数（実行委員会・協議会事業等）	年間目標（利用者）500人に対して150人（30%）という達成度であった。この目標項目は、おもにコロナ禍の影響により令和2年度・3年度も達成できていない。令和4年度の原因としては、これに加えてライフミュージアムネットワーク実行委員会の事業がなかったことが挙げられる。この項目は、そもそも外部団体を含む実行委員会や協議会の動向・活動状況に左右されるため、状況によっては当初の目標達成が難しくなる場合があることをやむを得ない。
-------------------------	---

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ライフミュージアム	265	144	231	0
磐梯山ジオパーク	77	15	0	0
ふくしまサイエンス	205	0	0	150
合計	547	159	231	150
達成度 (%)	109	31	46	30

新型コロナウイルス感染拡大への対応

令和元年度末から始まった新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大状況は、今年度も続いた。一時的な拡大と収束を繰り返しながら長期化する中で、その脅威を身近に感じるようになった一年でもあった。

当館では、前年度からの感染拡大防止に関する基本的な対策を継続した。具体的な感染拡大防止措置・対策については、本年報の以下の項目で更に詳しく触れている。

(1) おもな来館スペース

- 常設展示室 → I 3 (1)
- 企画展示室 → I 3 (2)
- 体験学習室 → I 3 (6)
- 相談コーナー → I 5 (4) ア

(2) 来館者対応

- 展示解説 → I 3 (5)
- 自主学习 → I 5 (3) ア

(3) イベント

- 講座・講演会 → I 5 (1)

(4) その他

- 学習用具・教材等の貸出 → I 5 (3) カ
- 子育て世代対応事業 → I 5 (4) エ
- 動画の作成と配信 → I 5 (5)
- 博物館友の会活動 → I 5 (6)

展示室への入場の人数制限を継続した結果、入場待ち時間が発生することがあった。とくに「新選組展2022」のような大規模企画展では、入場待ちのための長蛇の列を作ることになり、感染対策とはいえ来館者には不便をかけることになった。

感染拡大の波の合間に当たる期間については、一時的にせよ対策の緩和を行うこともあった。今後も感染症を取り巻く状況の変化を注視しながら、その時々合った対応を模索していくことになるであろう。

月	日	曜	全国および福島県の動向	当館の対応
4	1	金	福島県感染拡大防止重点対策期間延長（～17日）	・ 定例会議 感染対策再検討 常設展示室人数制限100名→120名 団体80→100名
	14	木		
4	18	月	福島県感染拡大防止重点対策期間延長（～5月15日）	・ 春の企画展「アンモナイト合戦」開幕 企画展示室人数制限50名
	23	土		
5	16	月	福島県子どもの感染拡大防止重点対策期間（～31日）	・ 定例会議（報告）
	26	木	マスク着用の緩和公表	
6	1	水	福島県子どもの感染拡大防止重点対策期間延長（～12日）	・ 解説員動画解説スタート
	13	月	福島県感染拡大防止のための基本対策開始	・ 定例会議（報告） ・ 春の企画展「アンモナイト合戦」終了
	23	木		
	26	日		
7	8	金	福島県感染拡大警報発出	・ 職員感染者1名（9日公表）
	15	金		・ 受付等での観覧証明券配布の中止
	16	土		・ 特別講座延期
	20	水		・ 夏の企画展「新選組展2022」開幕 企画展示室人数制限80名→200名+30名
	23	土		
28	木	・ 定例会議（報告）		
	29	金	濃厚接触者等の待機期間の短縮（通知）	

月	日	曜	全国および福島県の動向	当館の対応
8	12	金	福島県医療非常事態宣言・BA5対策強化宣言発出 (~31日)	・ 定例会議 (報告)
	19	金	福島県の新規陽性者3,584名	
	24	水	職場における対応の手引き (第5版)	
	25	木		
9	1	木	福島県医療非常事態宣言・BA5対策強化宣言延長 (~19日)	・ 夏の企画展対策修正 ・ 夏の企画展「新選組展2022」終了 ・ 定例会議 (報告)
	8	木	日博協感染拡大予防ガイドライン改定 (9月21日一部訂正あり)	
	17	土		
	19	月	福島県医療非常事態宣言・BA5対策強化宣言終了	
	26	月	全数届出の見直し	
10	7	金		・ 秋の企画展「名君の大名文化」開幕 企画展示室人数制限130名+20名 ・ 講堂等収容人数変更: 講堂220名、実習室45名 (ワークショップ系以外)、体験学習室8組30名 程度、団体利用チェック シート提出廃止 (連携交流班→定例第1会議→ 学芸員会議) ・ 定例会議 (報告) マスク声かけガイドラインの確認 ・ 職員感染者1名
	22	土		
	27	木		
	28	金		
11	17	木	福島県第8波宣言	・ 定例会議 (報告)
	22	火		
12	4	日		・ 秋の企画展「名君の大名文化」終了
	16	金	福島県医療ひっ迫警報 (~1月15日)	
1	3	火		・ 職員感染者1名 ・ 冬の企画展「写真展 福島、東北」開幕 ・ 定例会議 (報告) 常設展上限200人に・混雑した 場合に表示を出す
	16	月	福島県医療ひっ迫警報延長	
	21	土		
	26	木		
2	5	日	福島県医療ひっ迫警報終了 基本対策へ	・ 定例会議 コロナ対策緩和への対応
	28	火		
3	13	月	マスク着用の考え方見直し 日博協ガイドライン改定	・ 冬の企画展「写真展 福島、東北」終了 ・ 職員感染者1名
	19	日		
	23	木		
	24	金	福島県感染レベル1	
	31	金	「県立学校対応マニュアル (改訂第7版)」廃止	

I 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員長
岡田 清一	東北福祉大学名誉教授	副委員長
青野 友哉	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授	委員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
奥村 弘	神戸大学理事・副学長	委員
加藤 幸治	武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授	委員
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	委員
角屋 由美子	米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長	委員
玉川 一郎	前福島県考古学会長	委員
原田 一敏	ふくやま美術館長	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	委員
柳沢 秀行	公益財団法人大原美術館学芸統括	委員

イ. 会議

令和4年度はコロナ禍のため、例年の形での会議の対面開催を行わず、オンライン開催とした。

開催日 令和4年7月27日(水)

議題

- ① 今後2年間の展示計画について
- ② 令和5年度・令和6年度開催予定企画展等について
- ③ 購入予定資料について
- ④ 「博物館資料展示活用アウトリーチ事業」について
- ⑤ 「三の丸からプロジェクト」について

(2) 受贈・受託

ア. 歴史資料

(ア) 受贈

武井柯亭書6曲1双	1件	個人
書簡 林平蔵宛 一卷	1件	個人
磐梯山噴火実況図1枚ほか	2件	個人

歩兵第六十五連隊資料一括	1件	個人
渡部氏関係資料一括	1件	個人
善行証書1枚ほか	5件	個人
軍事手帳1点	1件	個人
会津藩家老田中土佐 横一行書「梅香堂」1枚	1件	個人
図書資料	1件	個人
明治四十一年旧十一月三日葬儀父吉松見舞受納簿1冊	1件	個人
北マリアナ諸島テニアン島戦没者と生還者福島県人名簿(複写物)1冊	1件	個人
うどん打ち器	1件	個人
トランクほか	3件	個人
古文書ほか	2件	個人
杯(帰還記念陸軍)ほか	2件	個人

(イ) 受託

太刀 銘行吉 附葵紋衛府太刀拵ほか	10件	若松城天守閣郷土博物館
遺髪ほか	3件	個人
佐々木只三郎和歌短冊	1件	個人
万事覚書帳3冊	1件	個人

イ. 美術資料

(ア) 受贈

節句掛軸(印刷)	1件	個人
黒地四季草花文小袖(黒留袖)ほか	2件	個人
塩田牛渚筆「墨竹図」1幅ほか	4件	個人
長尾柳涯筆「山水貼交屏風」ほか	2件	個人
宮城三平筆「山水図」1幅ほか	2件	個人
紺縮緬地古今集模様袖付き被布	1件	個人
野出蕉雨筆「孔雀望春図」ほか	2件	個人
中村光彩作「柳蒔絵棗」1合	1件	個人
佐竹永陵「竹石図」ほか	10件	個人
佐竹永海筆「花鳥図貼交屏風」ほか	6件	個人
塩硝函(壺)ほか	2件	個人
松原石舟「雪景山水図」ほか	119件	個人

(イ) 受託

脇差 銘(表) 備州長船康	1件	個人
二十四考図屏風	1件	個人
軸38点ほか	2件	個人
黒地葵紋羽織ほか	2件	個人

ウ. 民俗資料

(ア) 受贈

皮箕ほか	4件	個人
長火鉢ほか	2件	個人
永峰清水「山水図」まくりほか	3件	個人
酒造会社の半纏ほか	26件	個人
機械式計算機ほか	7件	個人
中ノ沢こけしほか	3件	個人
民俗芸能等写真	1件	個人
天神人形ほか	4件	個人
細工針(わら細工用)	1件	個人
神棚ほか	3件	個人
銭函ほか	8件	個人
ちゃぶ台ほか	2件	個人
桐箆笥	1件	個人

(イ) 受託

掛軸(書「学者如登山」)	1件	個人
--------------	----	----

エ. 考古資料

(ア) 受贈

縄文土器片一式	1件	個人
石鍬	1件	個人
星氏旧蔵資料一括	5件	個人

オ. 自然資料

(ア) 受贈

歯化石ほか	2件	個人
水晶	1件	個人
いわき市アンモナイトセンター産化石	1件	個人
双葉層群産化石ほか	2件	個人
海外産化石一式ほか	2件	個人
アンモナイト化石	1件	個人
化石	1件	個人
オウムガイ化石	1件	個人
双葉層群産化石	1件	個人
学術雑誌	1件	個人

(イ) 受託

宮古層群産アンモナイト	2件	個人
宮古層群産アンモナイト	5件	個人
宮古層群産アンモナイト	2件	個人

カ. 災害資料

(ア) 受贈

時計	1件	個人
----	----	----

(3) 購入

ア. 美術資料

永峰伊水「唐人王(東王父)・山水図」	1件
萩原盤山「唐獅子図」	1件
坂内文石「万歳松竹梅図」	1件

イ. 図書資料

(ア) 一般図書

考古分野9冊、美術分野15冊、自然分野1冊、計25冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト (令和5年3月31日現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	民具研究	民俗
4	ナショナルジオグラフィック	共通
5	ヒストリア	歴史
6	考古学雑誌	考古
7	日本民俗学	民俗
8	信濃	共通
9	史林	共通
10	史学雑誌	歴史
11	歴史評論	歴史
12	地方史研究	歴史
13	日本史研究	歴史
14	日本歴史	歴史
15	歴史学研究	歴史
16	美術手帳	美術
17	芸術新潮	美術
18	国華	美術
19	古代文化	考古
20	文化財発掘出土情報	考古
21	考古学ジャーナル	考古
22	季刊考古学	考古
23	日経サイエンス	自然
24	科学	自然
25	化学	保存科学
26	海洋	自然
27	地球	自然
28	月刊文化財	共通
29	たくさんのふしぎ	共通
30	ニュートン	共通

(4) 制作

ア. 民俗資料

「藁づと納豆」食品サンプルほか

16件

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、
現在までの累計を示す。件数は概数であり、
「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数 (令和5年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考 古	21,030	土器・石器・金属器ほか
民 俗	14,127	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴 史	22,648	書籍・文書資料ほか
美 術	7,460	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自 然	44,554	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	631	被災遺物、文書資料、写真ほか
合 計	110,450	

令和4年度収蔵指定文化財一覧

(令和5年3月31日現在)

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備 考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本著色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	国	重要文化財	考古資料	652	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
9	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本著色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
10	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本著色松平楽翁像	1	幅	館蔵
11	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
12	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本著色十六善神像	1	幅	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本著色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
16	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本著色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
19	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本著色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
20	福島県	重要文化財	絵画		紙本墨画淡彩 瀟湘八景図帖 雪村周継筆	1	帖	館蔵
21	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
22	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
23	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像(羽黒山湯上神社)	1	軀	寄託
24	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像(福聚寺)	1	軀	寄託
25	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
29	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
30	福島県	重要文化財	工芸品		法然上人像板木(裏面善導大師像板木)附舟板六字名号板木ほか9枚	1	枚	寄託
31	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
32	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
33	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
34	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
35	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
36	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
37	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
38	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
39	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
40	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
41	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
42	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
43	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
44	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
45	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
46	福島県	重要文化財	考古資料	48	四穂田古墳出土品	一括		寄託
47	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
48	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	舗	館蔵
49	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
50	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
51	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂) 古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
52	福島県	有形民俗文化財		31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
53	福島県	有形民俗文化財		38	紙本著色野馬追図	2	舗	寄託
54	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

イ. 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数

(令和5年3月31日現在)
 考古分野：29,622冊 民俗分野：5,131冊
 歴史分野：11,133冊 美術分野：4,953冊
 自然分野：17,866冊 保存分野：1,932冊
 震災遺産：201冊 その他：64,052冊
 合計：134,890冊

(イ) 図書利用環境の整備

第3期中期目標の「図書利用環境の整備」においては、博物館図書室における蔵書数の増加に対応して排架の体制を抜本的に更新することと、図書データベースを外部公開すると共に一般来館者に対して図書閲覧の便宜を図ることを目標とした。

これにより令和元～3年度は、図書室の状況を調査して蔵書の再配置計画を立て、図書室第1層と第2層に全蔵書を再排架する作業を実施した。また、一般来館者の図書利用要項を策定するために図書室の現状と問題点を調査し、その結果をまとめた。

4年目に当たる本年度は、先行して図書データベースの外部公開を行う対象として「発掘調査報告書」、「逐次刊行物／分野分

類」、「地質図」の3部門を選定し、登録済み書誌データの書式統一作業を実施した。その後、当館ホームページ上から図書データベースの外部公開を試験的に開始した。図書室蔵書の一般来館者への供用については、これに必要な図書利用要項の草案を作成し、学芸員会議に諮ってその内容を検討した。

(ウ) 収蔵映像資料数

(令和5年3月31日現在)
 収蔵映像資料総数：1,535点

(2) 登録・整理

ア. 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。現在、県教育委員会のFACE を介してインターネットに接続した端末パソコンよりこの資料管理システムを使用中である。

イ. 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報公開機能を使用

してインターネット上で外部に公開した情報の件数も併せて示す。

また、情報公開機能の拡充の一環として、第3期中期目標に基づきテーマ型データベース公開の試行を実施した。

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和5年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (令和4年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和4年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	2	12,591	776	4,444
民俗資料類	1,308	16,653	1,343	7,060
歴史資料類	559	47,036	2,251	18,272
美術工芸品類	587	7,171	126	194
自然標本類	106	26,826	2,272	16,613
合計	2,562	110,277	6,768	46,583

ウ. 資料整理計画

各分野の主な資料整理実績は以下のとおり。

(ア) 考古分野

中村コレクション整理・撮影(55件)、穴澤氏旧蔵図書整理、原山1号墳・長井前ノ山古墳発掘調査時撮影写真デジタルデータ化、収蔵庫整理など。

(イ) 民俗分野

渡部家信仰用具資料の燻蒸・清掃、小滝氏写真資料デジタルデータ化、収蔵庫整理・高所蛍光灯交換作業など。

(ウ) 歴史分野

高橋(恵)家文書の封筒詰・封筒書・登録(215件)、坂内(利)家文書の封筒詰515件・封筒書460件、年野家文書の封筒書35件、収蔵庫整理など。

(エ) 美術分野

県立会津工業高校旧蔵型紙仕分け・箱詰め(約3000件)・整理およびデータ入力(約2000件)、作品・資料撮影(写真作品:30件、絵画作品・資料:27件、仏像:2件、刀剣:6件)、寄贈・購入資料の登録(587件)、館蔵作品・資料データ公開(126件)、収蔵庫等整理。

(オ) 自然分野

寄託資料整理(320件)、写真撮影(10件)、登録(516件)、公開(2200件)など。

(カ) 災害分野

新型コロナ関連資料・整理・リスト化・写真撮影(250件)、未整理資料リスト化・袋書き(87件)、写真撮影(97件)、収蔵庫整理など。

エ. ボランティア

博物館資料の整理のため、資料整理ボランティアを受け入れ、学芸員との協働により資料整理作業を進めている。令和4年度は、のべ22名に資料整理ボランティアに登録いただいた。活動の詳細について、資料整理事業別に以下に記す。

(ア) 自然資料整理

2名に資料整理ボランティアに登録いただいた。星総一郎氏には、新生代鱈脚類化石の整理へ協力していただき、活動日数は1日であった。竹谷陽二郎氏には、磬梯山関係資料の整理および企画展関係資料の整理へ協力していただき、活動日数は延べ2日であった。

(イ) 古文書整理

16名に資料整理ボランティアに登録いただいた。大場美弥子氏、大堀義子氏、小柴正氏、小関栄助氏、小檜山裕二氏、佐藤敏子氏、佐藤紀子氏、鈴木清二氏、星弘明氏、矢花洋恵氏、栗原真帆氏、森川敬寿氏、秋山圭右氏のご協力により、歴史資料(坂内利子家文書)の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取)を行った。5月から令和5年3月まで、延べ11日活動した。

(ウ) 民俗資料整理

2名に資料整理ボランティアに登録いただいた。長島雄一氏には、小滝清次郎民俗写真の整理作業を行っていただいた。活動日数は延べ9日であった。また、テーマ展「写真資料から見える会津の風景～小滝清次郎民俗写真～」の関連イベントで、12/11(日)に実施した解説会を学芸員とともに担当していただいた。

(エ) 考古資料整理

藤原妃敏氏に資料整理ボランティアに登録いただき、中村コレクション展示作業を行っていただいた。活動日数は延べ20日であった。

(オ) 美術資料整理

小関栄助氏に資料整理ボランティアに登録いただき、会津工業高校旧蔵型紙整理作業を行っていただいた。活動日数は延べ45日であった。

(3) 貸出**ア. 博物館資料****貸出資料一覧**

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
十二天図（慧日寺旧蔵）旧軸木 正徳6年銘 1点 十二天図（慧日寺旧蔵）旧軸木 文政9年銘 1点	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	令和4年4月5日～12月2日	常設展
フタバクジラ肩甲骨化石産状レプリカ 1点 オオクマイルカ頭骨レプリカ 1点	山形県立博物館	令和4年5月13日～9月30日	特別展「発掘30年・mamuroガワクジラ、新生代を泳ぐ～やまがた北部の古生物～」
オオクマイルカ頭蓋他一式	神栖市歴史民俗資料館	令和4年7月23日～令和4年9月4日	企画展「鯨－恐竜絶滅後の海の王者たち－」
西会津町萱本の「百万遍」のお人形様 1点 西会津町屋敷の「百万遍」のお人形様 2点 会津美里町市野の「百万遍」のお人形様 1点 山姥のかもじ（猪苗代町教育委員会蔵、当館寄託）	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	令和4年6月21日～令和4年9月28日	企画展「会津妖怪かわら版～第二版～」
「道中案内」1巻 会津藩廻米路絵図 1枚 「図書 下郷ノ部 弥五島組松川組 四」1冊	大田原市那須与一伝承館	令和4年10月1日～令和5年1月20日	企画展「奥州道中－大田原の街道と宿場」
松平定信編『集古十種』74冊 遠藤香村「七里ヶ浜図」絹本油彩 1面 遠藤香村「十六橋図」絹本油彩 1面	福島県立美術館 千葉市美術館	令和4年10月29日～12月18日 令和5年1月13日～2月26日	「没後200年 亜欧堂田善」展

イ. 写真資料

総数：87件268点

考古：19件 28点 民俗：12件146点

歴史：31件 56点 美術：25件 38点

(イ) 生物被害防除

7月29日から8月2日にかけてトラック2台を使用し、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施した。

(4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

(ア) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースの保存環境を6月と10月の年2回調査した。調査項目は、昆虫、空中浮遊菌、付着菌、空中浮遊塵埃数、空気環境、温度、湿度、照度、紫外線強度である。

3. 展示事業

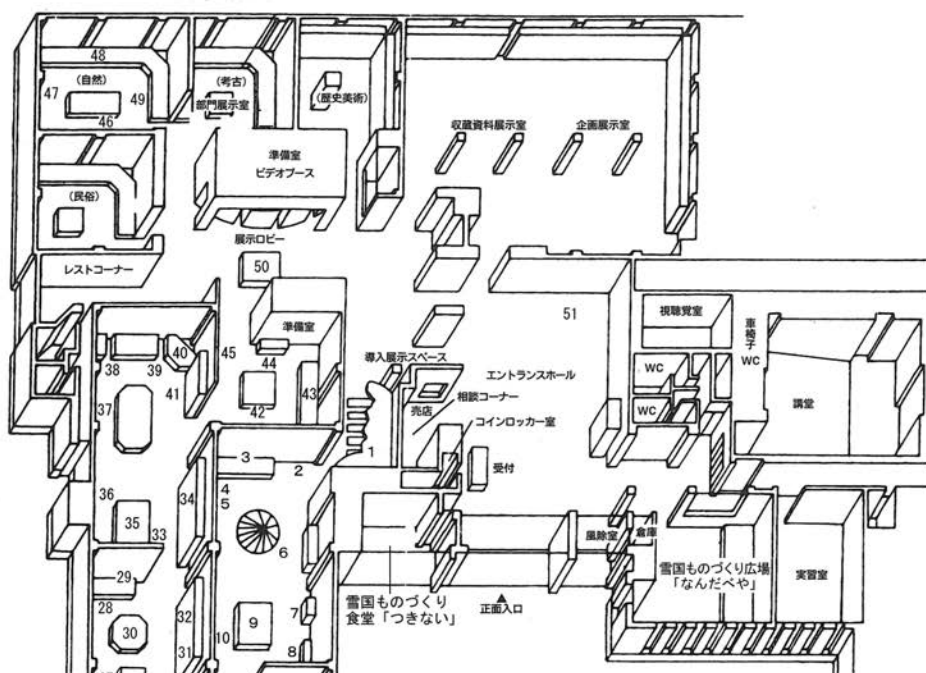
(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間

の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



【総合展示室】

- 1 清戸泊横穴墓壁画
- 原始
- 2 福島最古の人間
- 3 水河時代の生活
- 4 最終氷期後半の環境
- 5 環境の変化と生業
- 6 縄文のムラ
- 7 縄文人
- 8 信仰と墓地
- 9 稲作の開始
- 10 再葬の墓
- 古代
- 11 古墳時代のはじまり
- 12 原山1号墳の主
- 13 群集する古墳
- 14 ムラの暮らし
- 15 陸奥国の成立
- 16 公民の生活
- 17 在地の仏教
- 中世
- 18 阿津賀志山の合戦
- 19 神仏習合の世界
- 20 好嶋庄の村むら
- 21 南党と北党
- 22 国人一揆
- 23 戦国の群雄

- 近世
- 24 奥羽仕置と諸藩の成立
- 25 学問と文化
- 26 会津農書の世界
- 27 町のにぎわい
- 28 山国の神と人
- 29 産業の発達
- 30 海のなりわい
- 31 庶民の信仰
- 32 ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- 33 戊辰戦争
- 34 自由民権運動
- 35 福島県の成立
- 36 安積開拓事業
- 37 庶民の生活
- 38 日本の花形産業
- 39 15年戦争下の生活
- 40 戦後の生活
- 41 変わりゆく社会
- 自然と人間
- 42 福島の盆地と平野
- 43 福島の鉱山
- 44 福島の火山と湖
- 45 福島の河川

【部門展示室】

- ◆民俗 (雪国・会津の暮らしとものづくり)
- ◆自然 (県土の形成)
- 46 基盤形成の時代
- 47 海の時代
- 48 山脈形成の時代
- 49 段丘形成の時代
- ◆考古 (よみがえる会津大塚山古墳)
- ◆歴史・美術 (福島の美術)
- ロビー・エントランスホール
- 50 白水阿弥陀堂模型
- 51 二本松提灯祭竹田町太鼓台

イ. 常設展示室内の改善

「三の丸からプロジェクト」におけるインバウンド対策として、大テーマ解説年表・小テーマ解説・展示資料解説（キャプション）の多言語化（実施時期：令和4年9月22日～12月21日）および年表デザイン・サイン作成（実施時期：令和4年12月23日～令和5年3月24日）を実施した。

部門展示室（民俗）では、現行の展示「雪国会津の暮らしと祈り」を1月29日（日）までで一時閉室し、年度末にかけて新たに「雪国会津の暮らしとものづくり」をコンセプトとする展示室整備を実施した。

今回の展示室整備の要点は以下のとおり。

- ①奥会津の積雪量を実感できる原寸大民家模型および積雪スケールの造作
- ②映像作品上映のためのPC・プロジェクター用電源設置工事スクリーンの設置
- ③作品上映用巨大スクリーンの設置
- ④指向性が高く映像作品に干渉しない照明の導入、および照明のLED化
- ⑤展示効果を高めるステージや展示台の製作（実施時期：令和5年1月30日～3月24日）

展示室内における新型コロナウイルスの対策については、前年度に引き続き、収容人数の制限、タッチパネルの使用停止と足踏み式ボタンの使用、飲料用の冷水器の使用中止、出入口付近への手指消毒用アルコール設置等を継続した。

ウ. テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全7回開催した。

- ①「白磁の系譜～会津本郷焼、一重孔希～」
（部門：歴史・美術展示室）
4月16日（土）～5月29日（日）
- ②「新種！ワニの祖先の化石」
（収蔵資料展示室）
4月23日（土）～6月26日（日）
- ③「祈りのふくしま6～会津の祈り、願い～」
（部門：歴史・美術展示室）
6月4日（土）～7月10日（日）
- ④「中ノ沢こけし～ふくしまの郷土玩具～」
（部門：民俗展示室）
8月16日（火）～10月30日（日）
- ⑤「写真資料から見える会津の風景～小滝清次郎民俗写真～」
（部門：民俗展示室）
11月1日（火）～4月7日（金）

- ⑥「吉祥～会津のめでたいものたち～」
（部門：歴史・美術展示室）
12月21日（水）～令和5年2月12日（日）
- ⑦「美しき刃たち 会津編」
（部門：歴史・美術展示室）
令和5年2月25日（土）～4月2日（日）

エ. ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全16回開催した。

- ①「暑さ寒さをしのぐ道具たち」
（部門：民俗展示室）
前年度～4月13日（水）
- ②「よみがえる南郷刺し子の世界」
（エントランスホール）
4月5日（火）～5月29日（日）
- ③「桧枝岐の歌舞伎衣装」
（部門：民俗展示室）
4月15日（金）～8月14日（日）
- ④「福島県近代医学教育150年記念人物シリーズ①松平容大の種痘」
（総合：近現代展示室）
4月29日（金・祝）～6月30日（木）
- ⑤「人物シリーズ②伊達政宗と会津攻め」
（総合：中世展示室）
7月1日（金）～8月31日（水）
- ⑥「ふくしま草食恐竜展」
（部門展示室前）
7月23日（土）～9月2日（日）
- ⑦「みんなの震災遺産」
（展示ロビー）
7月23日（火）～9月25日（日）
- ⑧「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」
（エントランスホール）
8月2日（火）～9月19日（月・祝）
- ⑨「軍事郵便が繋いだ絆」
（総合：近現代展示室）
8月6日（土）～10月14日（金）
- ⑩「古墳から見つかったお経」
（総合：古代展示室）
9月1日（水）～10月7日（金）
- ⑪「人物シリーズ③会津藩の歴史編纂と山川兄弟」
（総合：近現代展示室）
9月1日（木）～10月30日（日）
- ⑫「器から探る古墳時代の暮らし」
（総合：古代展示室）
10月22日（土）～11月25日（金）
- ⑬「人物シリーズ④保科正之の遺言」

(総合：近世展示室)

11月1日(火)～12月27日(火)

⑭「3Dふくしま展」

(展示ロビー)

11月1日(火)～2月26日(日)

⑮「鉄道と地域の発展」

(部門：近現代展示室)

11月19日(土)～令和5年1月20日(金)

⑯「人物シリーズ⑤上杉景勝とふくしま」

(総合：中世)

令和5年1月5日(木)～2月28日(火)

⑰「ふくしまの蕨手刀」

(総合：古代展示室)

令和5年2月11日(土)～3月19日(日)

⑱「これは何の化石？」

(展示ロビー)

令和5年3月29日(水)～5月10日(水)

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。令和4年度は、4本の企画展示を開催した。

ア. 春の企画展「アンモナイト合戦 ―アンモナイトvs同時代の生き物たち―」

(ア) 会期

令和4年4月23日(土)～6月26日(日)

開館日数：57日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 8,928人

(オ) 担当学芸員 自然分野 猪瀬弘瑛

(カ) 趣旨

アンモナイトは、子どもたちを中心に人気があり、福島県でも浜通り地方から比較的豊富に見つかる化石でもある。本企画展は、県内外のアンモナイトを展示することで、その謎と魅力を紹介した。

アンモナイトについては200年以上にわたって研究されてきたが、現在も活発な研究が行われている。世界的には、軟体部の一部の発見や白亜紀末の大量絶滅をわずかに生き延びた種類の発見などが近年における重要な成果であるが、当館学芸員の関わった相馬地方やいわき地方のアンモナイトについての研究も古生物地理を解明する上で重要なデータとなっている。そうした最新の研究に基づいたアンモナイトの進化や

生態について紹介した。

アンモナイトだけでなく、同時代に生きていたクビナガリュウや恐竜なども展示して、過去の生態系について想像できる企画展を目指した。

(キ) 展示構成

1. 世界のアンモナイト
2. 生き物としてのアンモナイト
3. 福島県のアンモナイト
4. 日本のアンモナイト
5. アンモナイトと同時代の生き物たち
6. アンモナイトとヒト

展示資料 767件(海外産アンモナイト、福島県産アンモナイト、他県産アンモナイト、三葉虫、植物化石等)

(ク) 関連事業

・見どころ解説会

日時：4月23日(土)・6月19日(日)

各日とも13:30～14:00

講師：猪瀬弘瑛(当館学芸員)

場所：講堂

・講演会「新種！ ワニ祖先の化石 特別講演」

日時：5月4日(水・祝) 13:30～14:30

講師：吉田純輝(当館学芸員)

会場：講堂

・自然史講座「アンモナイトをさがそう」

日時：5月21日(土) 8:30～17:00

会場：いわき市アンモナイトセンター

・自然史講座「化石標本をつくろう！」

日時：5月22日(日) 13:30～16:00

会場：実習室

・記念講演会「アンモナイトの不思議」

日時：6月11日(土) 13:30～15:00

講師：重田康成氏(国立科学博物館 地学 研究部グループ長)

会場：講堂

(ケ) 成果と課題

化石に初めて接する子ども向けに代表的な海外産アンモナイトを展示した一方で、化石が好きな方向けにあまり展示されなかったの日本産の珍しいアンモナイト等も展示した。また、実物のアンモナイトにさわられるコーナーも設けた。こうした幅広い層へ向けた展示が功を奏したのか、入館者数等の目標をほぼ達成できた。

Twitterでの広報シリーズを活用した会津大学ソフトウェアスタジオや、アウトリーチ事業として南相馬市博物館での移動展といった形で、令和5年度に関連事業を展

開するように本展終了後に準備した。

課題として、他館で行われてきたアンモナイトをテーマとした企画展とは一線を画す独自色の強い展示でありながら、広報からオーソドックスな展示だという印象を受けたという指摘があった。異なるターゲットに向けての広報を今後検討していきたい。



企画展キービジュアル（スゲノマロ氏作）



展示風景（さわれるコーナー）

イ. 夏の企画展「新選組展2022—史料から辿る足跡」

(ア) 会期

令和4年7月23日（土）～9月19日（月・祝）開館日数：51日間

(イ) 会場 企画展示室・部門展示室 歴史・美術

(ウ) 主催 新選組展2022実行委員会（福島県立博物館・福島民友新聞社・福島中央テレビ）、読売新聞社

監修 三野行徳氏（昭和女子大学専任講師、NHK大河ドラマ「新選組！」資料提供）

特別協力 日野市ふるさと文化財課（新選組のふるさと歴史館）

協力 一般財団法人会津若松観光ビューロー

後援 福島県、福島県教育委員会、会津若松市、白河市、極上の会津プロジェクト協議会、会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会、会津の文化×地域振興プロジェクト協議会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、会津若松商工会、福島テレビ、福島放送、テレビユー福島、NHK福島放送局、ふくしまFM、ラジオ福島、河北新報社、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、産経新聞福島支局

(エ) 入館者数 43,673人

(オ) 担当学芸員

歴史分野：阿部綾子・栗原祐斗

(カ) 趣旨

新選組は小説、アニメ、ドラマ、映画などで広く親しまれてきた一方で、近年歴史学の分野では調査・研究が進み、従来の新選組像とは異なった姿も明らかとなってきている。本展は最新の知見を加味しながら、会津、京都という新選組と深く結びついたゆかりの地を舞台に新選組の実像に迫る展覧会を目指した。福島会場終了後、京都文化博物館に会場を移して開催（京都会場会期：10月1日～11月27日）した。共通するストーリー・資料を軸に、一部の資料については会場ごとに展示替を行い、独自色を出した。

(キ) 展示構成

プロローグ 尊王攘夷の幕末

第1章 京都守護職と多摩の草莽

第2章 新選組誕生—幕末の京都政局

第3章 池田屋事件と一会桑勢力

第4章 戊辰戦争へ

第5章 土方歳三の新選組と会津戦争

エピローグ それぞれの戦後

展示資料：182点（刀 銘和泉守兼定 土方歳三佩用（土方歳三資料館蔵）、近藤勇書簡（小島資料館蔵）、志大略相認書（個人蔵）、新選組袖章（霊山歴史館蔵）、斎藤一（藤田五郎）写真（個人蔵・当館寄託）など）

(ク) イベント

・記念対談「ダブル子孫で語る～土方歳三と和泉守兼定～」

日時：7月30日（土）13:30～15:00

講師：土方愛氏（土方歳三記念館 館長、土方歳三御子孫）、ハーバート眞理

子氏（フリーライター、十一代古川兼定御子孫）

会場：講堂

- ・記念講演会①「新選組局長・近藤勇を読み直す」

日時：8月6日（土）13:30～15:00

講師：三野行徳氏（昭和女子大学専任講師、本展監修者）

会場：講堂

- ・木刀絵付け体験「オリジナル刀剣をつくろう」

日時：8月11日（木・祝）

①10:30～12:00、②13:30～14:30

講師：栗原祐斗（当館学芸員）

会場：実習室

- ・天然理心流演武

日時：8月28日（日）13:30～14:30

講師：宮川清蔵氏（天然理心流九代目宗家、近藤勇御子孫）、天然理心流勇武館の皆さん

会場：講堂

- ・記念講演会②「新選組と会津藩」

日時：9月10日（土）13:30～15:00

講師：大石学氏（東京学芸大学名誉教授、NHK大河ドラマ「新選組！」時代考証）

会場：講堂

- ・見どころ解説会

日時：7月23日（土）、8月13日（土）、8月27日（土）、9月3日（土）、9月17日（土）、9月18日（日）、すべて夜間開館日の17:00～17:30に実施

講師：阿部綾子・栗原祐斗（当館学芸員）

会場：講堂

（ケ）成果と課題

新選組隊士の御子孫や各博物館・収蔵機関の御協力により、貴重な資料を多数展示することができた。特に会津の刀匠・十一代古川兼定が鍛えた「刀 銘和泉守兼定 土方歳三佩用」は、展示資料の中でも注目を集め、来場者アンケートでも印象に残った資料として回答されるお客様が多かった。当館や巡回先である京都文化博物館が所蔵する新選組関連資料は少ないため、資料所蔵者の皆様の御協力なくして、本展は成立しなかった。改めて御協力頂いた資料所蔵者の皆様、各博物館・収蔵機関の皆様に感謝を申し上げる次第である。

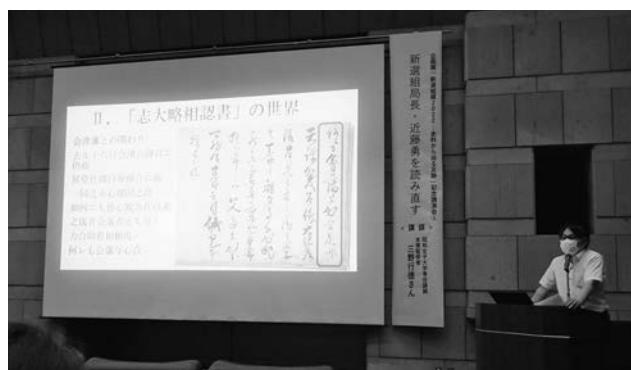
新選組隊士ゆかりの資料を一堂に揃えて展示できたことにより、新型コロナウイルス

対策の入場制限を実施しながらも、4万3千人を超える来場者を迎えることができた。アンケートによると来場者の半数が10～30代の年齢層であり、当館の企画展では珍しい傾向であった。PCブラウザ、スマートフォン向け刀剣育成シュミレーションゲーム「刀剣乱舞ONLINE」とのコラボレーション（オリジナルグッズの販売、刀剣男子 和泉守兼定の等身大パネル設置）も大きな後押しとなった。またテレビアニメ「PEACE MAKER 鐵」や「ゴールデンカムイ」で土方歳三を演じる、声優・中田譲治氏による音声ガイドも好評であった。

課題としては、感染症対策のため入場制限を行い、行列を形成したことが挙げられる。休日の混雑時には行列が館外まで延び、入場まで1時間以上お待ち頂く日もあった。これらの課題に対して、混雑を少しでも緩和するため、ホームページやSNS等で夕方や夜間開館日の観覧を勧めるなどの対策を講じた。



企画展「新選組2022」リーフレット



記念講演会「新選組局長・近藤勇を読み直す」

ウ. 秋の企画展「林原美術館名品展 名君の大名文化—岡山池田家と会津 武、その華と志—（福島民報創刊130周年記念）」

(ア) 会 期

令和4年10月7日（金）～12月4日（日）

開館日数：51日間

前期：10月7日（金）～11月6日（日）、

後期：11月8日（火）～12月4日（日）

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 名君の大名文化展実行委員会
（福島県立博物館、福島民報社、福島テレビ）

特別協力 林原美術館

協 力 岡山県立美術館

後 援 福島県、福島県教育委員会、会津若松市、会津若松市教育委員会、会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会、会津の文化×地域振興プロジェクト協議会、会津若松商工会議所、一般財団法人会津若松観光ビューロー、ラジオ福島、エフエム会津、喜多方シティエフエム、福島リビング新聞社

(エ) 入館者数 10,411人

(オ) 担当学芸員

美術分野：川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子・原恵理子

歴史分野：高橋充

(カ) 趣 旨

岡山藩主池田家は西国を代表する大名家。藩祖・池田光政と会津藩主保科正之は同時代を生き、共に名君と仰がれた。本展では、岡山市に所在する林原美術館の特別協力により、池田家の文武を伝える名品の数々を会津の地でご覧いただいた。

戦国時代から江戸時代前期に岡山を治めた池田家歴代当主と会津の領主・藩主となった蒲生氏郷、保科正之。戦乱から文治政治と移る世に活躍した両地の名君たちの紹介から本展ははじまり、池田家ゆかりの甲冑、能装束、絵画、婚礼調度、そしてそれらを引き継いだ林原家収集の質の高い美術工芸品を展示。後半では岡山藩士から文人に転身し、会津藩に招かれて保科正之を祀る土津神社の神楽を再興した浦上玉堂と会津藩士として戊辰戦争までを生きたその子・秋琴の作品を紹介した。

岡山と会津の関わりを多角的に探るとともに、これまで館外でのまとまった公開は

少ない林原美術館の名品を武家文化の地・会津でご覧いただいた。

(キ) 展示構成

第1章「天下統一から名君の時代へ」

第2章「大名文化の精華」

第3章「林原一郎コレクション」

第4章「浦上玉堂と秋琴」

(ク) イベント

・講演会「備前刀の魅力と岡山池田家の名刀」

日時：10月7日（金）13:30～15:00

講師：原田一敏氏（ふくやま美術館館長）

会場：講堂

・講演会「林原美術館コレクションの形成～林原一郎と池田家～」

日時：10月29日（土）13:30～15:00

講師：谷一尚氏（林原美術館館長）

会場：講堂

・お城のことがよくわかる講座「若松城と岡山城 東と西の名城の秘密」

日時：11月26日（土）13:30～15:30

講師：小野田伸氏（岡山市観光振興課学芸員）、高橋充（当館副館長）

会場：講堂

・林原美術館学芸員による展示解説会

日時：10月8日（土）11:00～12:00、11月6日（日）・12月4日（日）13:30～14:30

講師：橋本龍氏、槌田祐枝氏（林原美術館学芸員）

会場：講堂

・福島県立博物館学芸員による展示解説会

日時：10月16日（日）13:30～14:30

講師：塚本麻衣子、原恵理子（当館学芸員）

会場：講堂

・ワークショップ「書に触れる 書をひもとく」

日時：10月8日（土）13:30～14:30

講師：千葉清藍氏（書家/筆跡診断士）、橋本龍氏（林原美術館学芸員）、高橋充（当館副館長）

会場：実習室

・関連イベント「三の丸からプロジェクト 体験型プログラム 見て触れて 会津の武家文化に親しむ」

居合の演武や刀剣鑑賞会、能楽体験、茶道体験など、武家文化体験プログラムを行った。

会場：講堂、体験学習室

・関連イベント「三の丸からプロジェクト まちなか連携事業 楽しむたしなみ 会津

で触れる武家文化」

会津若松市内の歴史的建造物を会場に刀剣鑑賞会、茶道体験、謡体験、食文化の講演を開催。

会場：若松城天守閣博物館・福西本店・末廣酒造嘉永蔵・竹藤



展示風景



講演会「林原美術館コレクションの形成
～林原一郎と池田家～」

Ⅱ. 冬の企画展「写真展 福島、東北 写真家たちが捉えた風土／震災」

(ア) 会期

令和5年1月21日(土)～3月19日(日)

開館日数：49日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 入館者数 3,033人

(エ) 担当学芸員

美術分野：川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子・原恵理子

(オ) 趣旨

東日本大震災後、被災状況ではなく、東北の魅力、特徴を広く世界に紹介する展覧会が国際交流基金によって行われた。2012年春から始まった世界各地での巡回展は、2014年の福島県立博物館、遠野市立博物館での一時里帰り展を挟んで43カ国74会場を巡回、2021年国際交流基金のご厚意により10作家123点の作品が福島県立博物館に寄贈された。これらの作品は多面的な東北を

テーマにしているとともに、日本を代表する写真作品の優れたコレクションでもある。2014年以来久しぶりにそのほとんどを一堂にご覧いただいた。

また、震災直後から現在も福島を拠点に福島を見つめ続け、普遍的な作品を精力的に制作し、近年高い評価を得ている3人の写真家・岩根愛、岩波友紀、村越としや各氏の作品を紹介した。

福島県立博物館では、震災遺産の収集をはじめ、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓を伝え、その後の復興を支援する活動が続いている。本展もその一環として、福島、東北の魅力と歴史をお伝えするものとした。

(カ) 展示構成

第1部 東北—風土・人・暮らし

第2部 福島—3人が捉えた震災後

(キ) イベント

- ・アーティストトーク「3人が捉えた福島／震災」

日時：1月21日(土) 13:30～14:30

講師：岩根愛氏(写真家)、岩波友紀氏(写真家)、村越としや氏(写真家)

会場：企画展示室

- ・学芸員による展示解説会「写真展 福島、東北」

日時：2月25日(土) 13:30～15:00

講師：小林めぐみ(当館学芸員)、川延安直(当館専門員)

会場：体験学習室



「写真展 福島、東北」リーフレット

- ・アーティストトーク「私の場合」
日時：3月12日（日）13:30～15:00
講師：畠山直哉氏（写真家）
会場：体験学習室



アーティストトーク「私の場合」

（3）博物館資料展示活用アウトリーチ事業

広大な福島県では、当館まで頻繁には足を運べない県民が存在する。そのために当館では、県内各地の博物館・資料館等と協働し、資料を活かした展示を企画する。それにより、多くの県民に対して博物館資料の観覧機会を増加させることをめざしている。

そして未来づくりへとつながるよう文化理解、歴史理解を深めるために博物館資料展示活用アウトリーチ事業を実施する。

令和4年度は以下の事業を実施した。

- ・磐梯山噴火記念館「東日本大震災から11年－震災遺産を考える－」
会期：令和4年9月17日（土）～11月27日（日）
- ・とみおかアーカイブ・ミュージアム「震災遺産を考える2023」
会期：令和5年3月4日（土）～5月14日（日）

（4）指定文化財の公開

令和4年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア. 国指定

〈国宝〉

- （1）短刀 無銘 伝正宗（名物九鬼正宗）
1振 林原美術館
- （2）太刀 銘 吉房 1振 林原美術館
- （3）太刀 銘 備前国長船住左近将監長光造
1振 林原美術館

（以上3件は企画展「名君の大名文化」にて展示公開）

〈重要文化財〉

- （1）磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点
檜葉町教育委員会（福島県）
（総合展示室：原始にて展示公開）

イ. 県指定（福島県指定）

〈重要文化財〉

- （1）関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器
4点 福島県
- （2）根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点
いわき市
- （3）夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点
いわき市
- （4）森北1号墳出土品のうち 石製品及び鉄製品
4点 会津坂下町
（以上4件は、総合展示室：古代にて展示公開）
- （5）菊御紋付赤間関御硯 1点 京都市歴史資料館（京都府）
（企画展「新選組展2022」にて展示公開）
- （6）能装束 菊橘文縫箔 1領 林原美術館（岡山県）
- （7）能装束 紅白段桜花文摺箔 1領 林原美術館（岡山県）
- （8）能装束 紅白締切菊桐文段替唐織 1領 林原美術館（岡山県）
- （9）能装束 紅地山桜門文蔓草模様縫箔 1領 林原美術館（岡山県）
- （10）綾杉地獅子牡丹蒔絵婚礼調度 貝桶・彩色貝 1対 林原美術館（岡山県）
- （11）太刀 銘 近包 1振 林原美術館（岡山県）
- （12）太刀 銘 正恒 1振 林原美術館（岡山県）
- （13）太刀 銘 一 1振 林原美術館（岡山県）
- （14）太刀 銘 助真 1振 林原美術館（岡山県）
- （15）太刀 銘 備前国長船住左近将監長光造／正応二年十月日 1振 林原美術館（岡山県）
- （16）紺糸威胴丸 兜・大袖付 1領 林原美術館（岡山県）
- （17）清明上河図 1領 林原美術館（岡山県）
（以上12件は企画展「名君の大名文化」にて展示公開）

（5）展示解説

ア. 展示解説員

平成20年代初頭の大幅な人員削減以来、展示解説員は13名で業務を行っている。令和4年度も常設展示室内に監視員2名、企画展開催中には展示予算による監視員1名を予算化した。展示解説員自体の人員不足は恒常的となっている。展示解説員の主な仕事は展示

の解説業務に加えて、展示室内の巡視や設備等の状況把握、チケットや刊行物等の販売業務を含めた受付・案内、団体対応など幅広い。組織としては、研修係、資料係、体験係の3つの係に分かれ、それぞれが全体に共通する業務と係の仕事を進めている。

研修係は、企画展・テーマ展等の展示担当学芸員が行う解説研修のほか、新人解説員の研修や、スキルアップのための閑散期研修などの研修計画の策定、企画展開催時に人数不足を補うための学芸員の「立番」の準備などを行っている。資料係は刊行物や展示室内における配布資料の管理のほか、受付・展示室などにおける掲示物や物品等の管理を担当する。体験係は体験学習室における玩具や着付け衣装の管理のほか、体験学習室の使用法を含めた全般的な管理を行う。それぞれの係には班長・副班長を置き、特に3名の班長は班長会議の実施などを通じた学芸課・総務課との連絡調整業務を担当している。

イ. 展示解説員の新型コロナウイルス感染症対策

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じた対策を行いながら、展示解説員としての業務再開を模索してきた。総合受付・売店およびモギリのアクリルパーテーション、館内各所のアルコール設置、企画展示室における人数管理を継続したほか、学校団体対応の「通し解説」も2名体制で行った。

来館者に対する解説を補うために、動画「常設展示室ワンポイント解説」12本を作成し、常設展示室西レストコーナーでの放映を開始した。また、学校団体の事前学習に利用できるように、展示室全体を見渡すことのできる「通し解説動画」を作成し、今後の活用方法を検討している。体験学習室は改装等の影響もあって十分な活用ができなかったが、体験学習室前廊下などに季節のメッセージボードを出すなど、来館者が参加して楽しむことのできる工夫を施した。

ウ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増える。展示解説員だけでは対応できない状況にあるため、学芸員が代わって展示室に立つことで補っている。原則は1コマ45分で、令和4年度は年間271回となった。

今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大

防止対策を受け、企画展・特集展の展示室における展示解説は原則として休止し、代替措置として講堂でのパワーポイントを使用した「みどころ解説会」を開催した。またテーマ展・ポイント展の解説会は、講堂での開催の場合は当日申込み・講堂定員まで、展示室での開催の場合は事前申込み・少人数開催として催行した。

(6) 体験学習室（なんだべや）

エントランスホール隣の無料空間に位置し、さまざまな体験を提供する場として設置されたスペース。令和4年度は「三の丸からプロジェクト」による無料空間整備事業として、ものづくり文化を体験・学ぶことのできるスペースへとリニューアルした。またこれに合わせて、体験学習室の名称を「雪国ものづくり広場なんだべや」と改称した。加えて、従来設置されていた昔のおもちゃや読み聞かせ用の絵本も一部配架し、新型コロナウイルスの感染拡大以前の状況を取り戻しつつある部分もある。

ア. 設備改修について

木製の棚には、前と後ろに会津木綿の覆いを入れられるようにし、その柄や肌ざわりを楽しめるようにした。可動式ステージは、側面の板に会津でよく使用される木材を使用。会津の森林文化に目を向けるきっかけになる設計とした。洗面鉢は会津本郷焼に変更。鯨鉢や切立といった、日常的に使われてきた製品をイメージした洗面鉢となった。また、ソファには棚と同じく会津木綿を使用。製品を作る際にでる端切れをパッチワークのように張り合わせることで、刺し子の衣類を思わせるものとなった。

このような設備改修を通じて、体験学習室は会津のものづくりや自然素材の利用といった文化に親しめるような部屋へと生まれ変わった。また、これに併せて一般市民の方に参加いただきワークショップを開催。今後の活用法について意見をいただくとともに、新たな名称についても案をいただいた。その中から、「雪国ものづくり広場 なんだべや」を採用。会津の方言と「どんなことが起きる/できる部屋なの?」という意味を込めての名称となった。これを記した桐の看板が掲げられ、新たなスタートを切ることとなった。

イ. 開室状況

上記の改修に併せ、「なんだべや」は職員

が常駐せず、来館者が自由に利用できるスペースとなった。畳敷きの小上がり部分が撤去されたことにより、空間をより可変的に使えるようになったため、ワークショップから小規模のトークイベントまで、利用の幅が広がることとなった。

また、「冬場に子どもを遊ばせられる場所が少ない」という地域課題に取り組むため、1月と2月に「こどもミニミニはくぶつかん」を開催。従来冬場は閑散期として認識されており、参加者が集まらないという理由でイベント等の開催が敬遠されてきた。しかし、この冬の「こどもミニミニはくぶつかん」では4日間で350名以上の来館を得ることが出来た。イベント内容によっては冬場の集客も十分に可能であることがわかるとともに、今後の運営についても更に改善の余地があることを認識した。

(7) リニューアルの検討

当期中期目標における重点目標「新しい展示ストーリーの検討」の対象に、現在進行中の文化観光推進事業「三の丸からプロジェクト」の中で博物館が周遊を促すゲートウェイ機能を果たすための展示強化事業を令和3年度から組み込むこととした。

展示強化は常設展示室内の展示ロビーをリニューアルし、この場所に中核展示を設け周囲に展開する部門展示室やレストコーナーを有機的につなぐ「(仮称) 三の丸アベニュー」構想を立案し、その基本計画を当館の収集展示委員会に諮り、承認を得た。その後部門展示室「民俗」及び西レストコーナーと展示ロビーの実施設計を委託し、その結果を受けて部門展示室「民俗」のリニューアルを行った。



雪国ものづくり広場 なんだべや



「こどもミニミニはくぶつかん
～木のおもちゃで遊ぼう～」の様子

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存科学・災害の各分野がテーマを設定して調査を実施している。令和4年度は、以下の7テーマの調査を実施した。

ア. 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古

(イ) 趣旨

I 縄文時代後半期から弥生時代初頭とⅡ古墳時代終末期から奈良時代（6世紀末～8世紀）の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に取り上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

昨年度に引き続き、県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。また県指定重要文化財の泉崎村原山1号墳出土埴輪（館蔵）のうち円筒埴輪の3D計測を実施するとともに形象埴輪片の接合再確認作業を開始し、県内の出現期の形象埴輪群の詳細観察・比較が可能となるデータ整備を行った。

イ. 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分野 美術

(イ) 趣旨

会津地方は仏教美術の宝庫だが、その一方で、調査がなされず存在が知られていない仏像・仏画、かつて調査されたものの十分な認知がされていない仏像・仏画も多数ある。また、多くの寺院・堂が無住となり、地域の世帯で管理していることも少なくない。今後の管理体制に不安を抱える地域もあり、仏像・仏画の現状の確認は急務と言える。調査はより広い見地からの検証、修復の緊急性の判断等のため、大学等研究機関研究者および仏像彫刻修復家と共働で調査研究を行う。それらの成果をもとに、会津の仏教文化を紹介する講座・展覧会を開催するとともに、今後の保全体制の基盤づくりにつなげる。

(ウ) 調査概要

前年度に調査を行った会津地方の南エリア・南会津町薬師寺の薬師如来像、阿弥陀如来像について、共に調査を行った栃木県立博物館学芸員・深沢麻亜沙氏を招き、美術講座「下野からやってきた！南会津・田島の仏像」で調査結果等について講演・報告を行った。喜多方市長泉寺の仏像・仏画を調査し、その結果を地域の方に紹介する機会を設け、地域の文化財の認知や保存への意識の向上に向けた取り組みを行った。

ウ. 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 災害・民俗・考古・歴史・自然・美術

(イ) 趣旨

東日本大震災の発生以来、災害史の研究はこれまで以上に盛んに行われるようになった。これまで当館では、慶長大地震や磐梯山噴火などに関する資料の収集や会津藩の社倉制の研究、山口弥一郎資料の研究など多様な災害に関わる調査研究を進めてきたが、いずれも個々の分野が断片的に行ってきた活動であった。東日本大震災や原発事故のような大規模災害の経験を後世に語り継いでいくためには、自然史や歴史、民俗、考古、保存科学等の分野が総合的に資料を調査研究していく必要があり、また学際的な見地から歴史上の災害を整理し直し、資料調査を進めたいうで展示に反映していくことも求められる。本研究では東日本大震災と災害史に関する資料の収集や調査研究を分野横断的なチームで進め、将来的な常設展示のリニューアルにおいてそれらを福島県の歴史として位置づけることを目指す。

(ウ) 調査概要

震災遺産の常設展での展示に向けて、学芸員との意見交換や解説員とのワークショップを通じて、来館者に求められる内容の検討や、今後展示に必要な資料等の確認を行った。他施設に関しても、現代史の捉え方や関連資料に関して意見交換を行った。第二次世界大戦後から県土の開発や産業の変遷などを軸とした現代史の展示として東日本大震災までを検討範囲とした。また震災遺産を用いた教育普及活動を通じて、問

いを活用した講座やワークショップを実施し、災害伝承の持続可能性の獲得についても検討を行った。

エ. 福島県内の食文化の伝承に関する研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣旨

学校教育での「食育」の重視、また「和食」のユネスコ無形文化遺産への登録など、日本各地の食文化の重要性は高まっている。また本県ではいわゆる「伝統野菜」の見直しや、全国新種鑑評会金賞数8回連続日本一（平成24年酒造年度～継続中）を誇る「ふくしまの酒」のブランド化といった動きもあり、本県食文化への社会的注目度や興味関心は高い。こうした状況を背景に県内の主要市立博物館等では、関連展示も相次いで開催されている。

本事業を通して体系的に県内各地の行事食・保存食・発酵食（酒造業含む）等に関する資料の調査収集や成果公開を行うことで、本県食文化の歴史性や奥深さを県民自身が再発見できるとともに、対外的には本県食文化の魅力発信および観光振興等にも寄与できる。

(ウ) 調査概要

令和4年度は、伝統的な保存食の一つである「凍み餅」作りについて、昭和村小野川食品加工グループの協力を得て、冬季の一連の製作の流れを記録撮影・調査するとともに、製作委託により現物を展示資料として提供いただいた。

また、保存食として「藁づと納豆」、行事食として「盆のかけそうめん」およびどぶろく造りに関連して、いわき市勿来町國魂神社の「粕掴み神事の神饌」の食品サンプルを製作し、展示資料の充実に資した。

オ. 国宝・白水阿弥陀堂の維持修理に関する基礎研究

(ア) 分野 保存科学

(イ) 趣旨

明治35年、古社寺保存法により特別保護建造物・阿弥陀堂（白水阿弥陀堂）の修理が計画されると、内務省より委嘱された亀岡末吉の監督により翌36年から37年にかけて解体復元修理工事が行われた。同時期に、国宝・阿弥陀如来及両脇侍は、美術院により仏像修理が行われている。令和6年に明治時代の修理完了より120年を迎えるため、

この機を節目として調査成果を公表する。

(ウ) 調査概要

行政文書を調査対象として、福島県歴史資料館寄託資料、宮城県公文書館所蔵資料等を中心に複写し、読解を進めている。

カ. 浜通りにおける古生代大型化石の研究

(ア) 分野 自然

(イ) 趣旨

県内では浜通りに恐竜が生息していた中生代（約2億5000万年前～約6600万年前）の地層が分布している。これらの地層からは恐竜化石が産することが知られている。

しかし、これらの恐竜化石の中には詳細な研究のされていないものが多数含まれていることから、現地調査とともに鑑定を行い、成果を論文として記録・公表する。企画展などでそうした恐竜化石や共産化石を展示する機会を設ける。

(ウ) 調査概要

恐竜化石産地の現地調査を行い、新たに中生代大型化石を採取した。学術的価値の検討のため、南相馬市産中生代生痕化石と郡山市産新生代生痕化石についても調査した。

キ. 近世・近代絵地図の研究

(ア) 分野 歴史

(イ) 趣旨

日本では近世から近代にかけて、紙の普及や識字率の向上によって、膨大な量の古文書・古記録が作成された。それらの資料とあわせて、絵地図も作成されてきた。近世であれば藩領絵図、村絵図、裁許絵図、用水普請絵図など、作成者の身分・状況・目的に応じて多様な種類の絵図が生み出された。絵地図の作成は近代も続き、短期間しか存在しなかった若松県や磐前県の絵図や行政区画割を図示した地図が作成された。これらの絵地図は、研究のうえでは古文書や古記録の理解を助ける好材料となる。また展示した場合には、文字資料よりも視覚的に伝えやすいという長所がある。本事業では、近世・近代の絵地図を調査・研究し、展示活用に繋げたい。

(ウ) 調査概要

令和4年度は、主に福島県立図書館、会津若松市立会津図書館、防衛研究所戦史研究センター史料室所蔵の絵図・地図等の資料を調査した。成果の一部は、企画展「新

選組展2022「史料から辿る足跡」に反映したほか、令和5年度のポイント展でも公表の予定である。

(2) その他の調査研究事業

ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

令和4年度は、坂内(利)家・年野家・高橋(恵)家の資料整理を行い、このうち高橋(恵)家資料については登録まで終了した。また登録済みだが、未公開であった諸家資料を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア. 研究成果の公表(職員の氏名あいうえお順)

(ア) 印刷物(単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌)

三野行徳・阿部綾子・栗原祐斗・佐藤稜介・

西山剛 2022.7『新選組展2022』展示図録

猪瀬弘瑛・望月貴史・横田昭彦・吉田純輝

2023.3「福島県郡山市に分布する中部中新統堀口層から螺旋状生痕化石*Gyrolithes*の発見」『福島県立博物館紀要』第37号

久保貴志・猪瀬弘瑛・安里開士・望月貴史・

菜花智・いわき自然史研究会「福島県いわき市の双葉層群玉山層のコンボウガキ属密集層の古環境と古生態」日本古生物学会第172回例会講演予稿集

安藤寿男・鈴木大河・田口翔太・平宗雄・猪

瀬弘瑛 2023.3「相馬中村層群最上部小山田層(白亜紀最前期)の層序・堆積相・化石相」『福島県立博物館紀要』第37号

相場博明・鈴木千里・猪瀬弘瑛 2023.3「福

島県いわき市上部白亜系双葉層群玉山層からのコハクに含まれる化石とその産出意義」『福島県立博物館紀要』第37号

内山大介 2022.5「災禍の時代に向き合う博物館展示—東日本大震災から新型コロナまで—」『日本民俗学』第310号(特集 日本民

俗学の研究動向I) 日本民俗学会 pp.156-172

内山大介 2023.3「コメント 大字誌の特徴と民俗誌」西村慎太郎編『地域住民と共有する歴史と文化—大字誌の地平—』人間文化研究機構国文学研究資料館 pp.55-60

内山大介 2023.3「台湾921集集大地震と震災史を伝えるミュージアム」『防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築—国際比較の観点から—』(科学研究費補助金基盤研究(A)成果報告書)研究代表者 白井哲哉 pp.61-71

大里正樹 2023.3「ウクライナ・チェルノブイリ原発事故関係現地視察報告」『防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築—国際比較の観点から—』(科学研究費補助金基盤研究(A)成果報告書)研究代表者 白井哲哉 pp.129-139

杉崎佐保恵 2022.5「考古アカデミックレポート 金銅製品の保存について」『月刊考古学ジャーナル』767号, p.48-50, ニュー・サイエンス社

高橋充・竹谷陽二郎 2023.3「慶長会津地震と西会津町大杉山村の供養塔について」『福島県立博物館紀要』第37号 p.61-70 福島県立博物館

高橋満 2022.8「東北地方の縄文製塩の特徴」『季刊考古学 別冊』38 雄山閣

高橋満 2023.3「福島の震災遺産及びその保存活用」『防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築—国際比較の観点から—』(科学研究費補助金基盤研究(A)成果報告書)研究代表者 白井哲哉 pp.33-43

筑波匡介 2023.3「インドネシア津波被災遺構とミュージアム・メモリアル」『防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築—国際比較の観点から—』(科学研究費補助金基盤研究(A)成果報告書)研究代表者 白井哲哉 pp.73-83

吉田純輝、小林快次、アンソニー・フィオリロ「現生主竜類における舌喉頭筋骨格系のネットワーク解析と進化的考察」日本古生物学会第172回例会講演予稿集

Fiorillo, A. R., McCarthy, P., Kobayashi, Y., & Yoshida, J. (2022). Ichnological insights on habitat preferences within high-latitude hadrosaurs (Cretaceous Chignik Formation, Aniakchak National Monument, southwestern Alaska). *GSA*

Connects 2022 meeting in Denver Abstract Book

Yoshida, J., Kobayashi, Y., & Fiorillo, A. R. (2023). Evolutionary insights from an anatomical network analysis of the hyolaryngeal apparatus in extant archosaurs (birds and crocodylians). *The Anatomical Record*.

Yoshida, J., Kobayashi, Y., & Norell, M. A. (2023). An ankylosaur larynx provides insights for bird-like vocalization in non-avian dinosaurs. *Communications Biology*, 6 (1), 152.

Yoshida, J., Takahashi, S., & Nabana, S. (2023). A crocodyliform osteoderm from the Tamayama Formation (Upper Cretaceous) of Fukushima, Japan. *Bulletin of the Fukushima Museum*, 37, 29-36.

(イ) 学会発表

久保貴志・猪瀬弘瑛・安里開士・望月貴史・菜花智・いわき自然史研究会 2023.2.4「福島県いわき市の双葉層群玉山層のコンボウガキ属密集層の古環境と古生態」日本古生物学会第172回例会（ハイブリッド開催）

内山大介 2022.6.5「会津における昭和戦後の民俗研究—山口弥一郎とその周辺—」福島県民俗学会令和4年度大会 福島県立博物館

内山大介 2023.3.21「博物館資料を通じた記憶の継承—福島県立博物館の取り組み—」公害資料館ネットワーク「公害資料館連携フォーラムプレ企画「福島の経験を継承する」」原子力災害考証館furusato

大里正樹 2022.9.3「ふくしまの民俗行事と神社」令和4年度福島県教育関係神職協議会発足60周年記念教養研修会 於開成山大神宮参集殿

高橋満 2023.1「縄文人の塩づくり」是川縄文館後期考古学講座第2回

筑波匡介 2022.9.24「東日本大震災から11年 福島県」磐梯山噴火記念館特別展シンポジウム 猪苗代町学びいな

筑波匡介 2023.1.21「博物館を利用した授業・講座づくり～防災講座を事例に～」公害資料館ネットワーク「公害資料館連携フォーラムプレ企画「福島の経験を継承する」」於：電子力災害考証館

佐藤公・筑波匡介・瀬戸真之 2023.2.16「12年前の東日本大震災を全国の人に伝える」

全国科学博物館研究発表大会【浜松科学館及びオンライン】

吉田純輝、小林快次、アンソニー・フィオリロ 2023.2「現生主竜類における舌喉頭筋骨格系のネットワーク解析と進化的考察」日本古生物学会第172回例会 九州大学

Fiorillo, A. R., McCarthy, P., Kobayashi, Y., & Yoshida, J. (2022). Ichnological insights on habitat preferences within high-latitude hadrosaurs (Cretaceous Chignik Formation, Aniakchak National Monument, southwestern Alaska). *Geological Society of America 2022 meeting in Denver*

イ. 多様な連携による新たな研究活動

猪瀬弘瑛・相田優・吉田純輝 会津学鳳高校 探究活動「双葉層群から産する微化石の研究」

内山大介 国立歴史民俗博物館 広領域連携型基幹研究プロジェクト「地域における歴史文化研究拠点の構築」に共同研究員として参加

高橋充 会津大学との連携研究プロジェクト「知識表現と観測による複合的博物館体験の知識化プロジェクト」(SmartMuseumプロジェクト)

高橋充 科研費・基盤研究(C)「中近世移行期における南東北地方の基礎的研究」(代表：淑徳大学 遠藤ゆり子) 研究協力者

筑波匡介 国立環境研究所福島福島地域協働研究拠点「地形模型を使ったプロジェクトンマッピング展示の可能性」(オンライン対談)

筑波匡介 AAD-A「アジアの災禍とアート、アクション 第7回震災遺構と展示が伝えるもの」オンラインディスカッション

吉田純輝 群馬県立自然史博物館・北海道大学総合博物館・カールトン大学共同研究「新たなゴニオフォリス類化石の分類学的研究とワニ形類の初期水生適応の解明」

ウ. 他団体による委嘱等

・阿部綾子
相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会
郡山市文化財保護審議会委員 郡山市教育委員会
史跡若松城跡御三階復元検討会委員 会津若松市教育委員会

- ・猪瀬弘瑛
ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター
- ・内山大介
国立歴史民俗博物館共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」共同研究員
福島県立医科大学保健科学部 非常勤講師
東北学院大学文学部歴史学科 非常勤講師
八戸地方えんぶり調査委員会 調査委員
郡山市文化財保護審議会 委員
会津美里町郷土資料館（仮称）整備検討委員会 委員
日本民俗学会 理事・評議員
日本民俗学会 第41回研究奨励賞審査委員
日本民具学会 理事・評議員
現代民俗学会 研究企画委員
福島県民俗学会 事務局長
文化財保存修復学会第43回大会 実行委員
- ・大里正樹
会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会
須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市
南島文化研究所特別研究員 沖縄国際大学南島文化研究所
福島県民俗学会幹事 福島県民俗学会文化庁 調査員（文化財第一課）文化庁文化財第一課
三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会
福島大学 非常勤講師
福島県立医科大学 非常勤講師
- ・川延安直
福島芸術計画運営委員会委員 福島県会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合
喜多方市美術館収集委員会委員 喜多方市教育委員会
「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市美術館
いわき市文化財保護審議会委員会委員 いわき市教育委員会
白河市文化財保護審議会委員会委員 白河市教育委員会
福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員
福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学
やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員
- ・栗原祐斗
熊谷市史編集委員（近代・現代専門部会特別調査員）
- ・小林めぐみ
福島芸術計画運営委員会委員 福島県会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合
やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町
只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員 只見町ユネスコエコパーク推進協議会
只見町ブナと川のミュージアム運営委員会委員 只見町
福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学
無形文化財（工芸技術）の公開・活用に関する検討会委員 文化庁
福島市文化財保護審議会委員 福島市
須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市
いわき芸術文化交流館アドバイザー いわき市
若松城天守閣展示リニューアル検討会委員 会津若松市
- ・高橋 充
二本松城跡整備検討委員会委員 二本松市教育委員会
向羽黒山城跡調査整備委員会委員 会津美里町教育委員会
相馬市史編さん専門委員 相馬市教育委員会
会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市教育委員会
神指城跡調査指導委員会委員 会津若松市教育委員会
阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員 国見町教育委員会
棚倉町中世城館等調査指導委員会委員 棚倉町教育委員会
高寺山遺跡調査指導委員会委員 会津坂下町教育委員会
北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員 北塩原村教育委員会

小峰城跡石垣検討委員会委員 白河市
堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員
湯川村教育委員会
只見町文化財調査委員 只見町教育委員会
福島県立医科大学 非常勤講師
会津若松市郷土研究奨励金審査委員会委員
会津若松市教育委員会
会津若松市文化財保存活用地域計画協議
会委員 会津若松市教育委員会
喜多方市美術館運営協議会委員 喜多方
市教育委員会

- ・高橋 満
資源利用史研究クラスター研究推進員
明治大学
- ・田中 敏
会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教
育委員会
御三階復元検討委員会委員 会津若松市
教育委員会
会津藩主松平家墓所整備指導会議委員
会津若松市教育委員会
会津藩主松平家墓所保存整備委員会委員
猪苗代町
白河市天王山遺跡検討委員会委員 白河
市
- ・塚本麻衣子
喜多方市文化財保護審議委員 喜多方市
教育委員会
会津坂下町仏像等悉皆調査委員会委員
会津坂下町教育委員会
- ・筑波匡介
長岡造形大学 非常勤講師
福島大学 非常勤講師
福島県立医科大学 非常勤講師
第9回公害資料館連携フォーラムin福島
実行委員会
- ・原恵理子
大堀相馬焼伝統工芸産地委員会委員 大
堀相馬焼協同組合
大堀相馬焼記録・保存事業委員 大堀相
馬焼協同組合
あいづまちなかアートプロジェクト2022
漆の芸術祭部会部会員 会津若松市
- ・山口 拡
会津若松市文化のまちづくり事業委員会
委員 公益財団法人会津若松文化振興財
団

エ. 研究助成金等

(ア) 科研費奨励研究

杉崎佐保恵：科研費・奨励研究「古墳時代の
金属製象嵌製品の製作技法の解明と保存修
復のための 診断技術の確立」研究代表者
高橋満：科研費・基盤研究 (C)「霞ヶ浦沿岸
における縄文時代土器製塩史復元のための
基礎的研究」研究代表者
高橋満：科研費・基盤研究 (A)「日本列島に
おける製塩技術史の解明」研究分担者 明
治大学
吉田純輝：科研費・若手研究「鳥類固有の発
声器の発生学的研究～「鳴管」の形態形成
機構と起源の解明～」研究代表者

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。令和4年度の各講座開催数は125、総参加者数は7,976

人であった。今年度も新型コロナウイルス感染対策として講座の中止・延期を行ったことに加え、定員を制限しての開催となった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

令和4年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 特別講座	3	182
(2) 考古学講座	5	44
(3) 民俗講座	4	38
(4) 歴史講座	5	108
(5) 自然史講座	1	9
(6) 保存科学講座	3	23
(7) 美術講座	8	197
(8) 災害分野講座	2	22
(9) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説等）	32	1,187
(10) ポイント展ミニ解説会	17	305
(11) けんぱくミュージアムイベント	5	257
(12) 子育て世代対応事業	13	1,229
(13) 実技講座	2	68
(14) 三の丸からプロジェクト	16	3,944
(15) 特別プログラム	1	21
(16) 共催事業	5	239
(17) 後援事業	1	20
(18) 友の会事業	2	83
計	125	7,976

令和4年度講座・講演会等行事一覧

(1) 特別講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特別講座①「詩人のいる博物館 文学とミュージアム 山口・福島 詩が結ぶ新たなきずな」	和合亮一（詩人） 中原豊（中原中也記念館長）	9月3日（土）	70
特別講座②「詩人のいる博物館 文学とミュージアム 文学館は建物ではない、出来事だ」	和合亮一（詩人） 萩原朔美（萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館長）	1月29日（日）	58
特別講座②「詩人のいる博物館 文学とミュージアム 言葉と生きる 文学・東北・震災」	和合亮一（詩人） 佐伯一麦（小説家・仙台文学館館長）	3月18日（土）	54

(2) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
縄文土器をつくろう	高橋満・山本俊（学芸員）	7月30日（土） 31日（日）	10
縄文土器の野焼き	考古分野学芸員	10月2日（日）	10
つくって学ぶ会津大塚山古墳	山本俊・平澤慎（学芸員）	11月20日（火）	3
歩いて学ぶ会津大塚山古墳	平澤慎（学芸員）	11月23日（火）	7
勾玉をつくろう	田中敏・平澤慎（学芸員）	3月25日（土）	14

(3) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
記録映像で見るふくしまのくらし①		4月17日(日)	17
記録映像で見るふくしまのくらし②		5月15日(日)	7
記録映像で見るふくしまのくらし③		6月19日(日)	10
記録映像で見るふくしまのくらし④		7月17日(日)	4

(4) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
はじめてさんの古文書講座①	高橋充 (副館長)	5月21日(土)	22
はじめてさんの古文書講座②	高橋充 (副館長)	5月28日(土)	20
はじめてさんの古文書講座③	高橋充 (副館長)	6月4日(土)	19
かじったさんの古文書講座①	栗原祐斗 (学芸員)	11月5日(土)	23
かじったさんの古文書講座②	阿部綾子 (学芸員)	11月19日(土)	24

(5) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司 (野鳥研究家)	11月13日(日)	9

(6) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
壬申検査150年 正倉院宝物の保存の歴史をまなぼう!	杉崎佐保恵 (学芸員)	8月20日(土)	6
壬申検査150年 博覧会事務局と文化財保護	杉崎佐保恵 (学芸員)	11月27日(日)	12
高松塚古墳壁画発見50周年 高松塚古墳壁画保存についてふりかえる	杉崎佐保恵 (学芸員)	12月24日(土)	5

(7) 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
美術放談1 「白をめぐって」	塚本麻衣子・原恵理子・川延安直 (学芸員)	4月29日(金)	16
民藝作家と地方窯	川北裕子 (パナソニック汐留美術館学芸員)	5月22日(日)	18
美術放談2 「殿と姫の美術」	小林めぐみ・塚本麻衣子・川延安直 (学芸員)	6月24日(金)	18
下野からやってきた! 南会津・田島の仏像	深沢麻亜沙 (栃木県立博物館学芸員)	7月2日(土)	29
美術放談3 「神の顕れ・女の姿」	小林めぐみ・塚本麻衣子・川延安直 (学芸員)	8月26日(金)	12
美術放談4 「絵を売らなかつた画人・浦上玉堂」	小林めぐみ・塚本麻衣子・川延安直 (学芸員)	10月28日(金)	48
美術放談5 「欲だらけの美術」	小林めぐみ・塚本麻衣子・川延安直 (学芸員)	1月27日(金)	21
美術放談6 「折り紙付きー美術の価値づけ」	小林めぐみ・原恵理子・川延安直 (学芸員)	3月24日(金)	35

(8) 災害分野講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
楽しいそなえ	筑波匡介 (学芸員)	9月1日(木)	12
震災遺産を考える	筑波匡介 (学芸員)	9月4日(日)	10

(9) 企画展関連行事

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展「アンモナイト合戦」内覧会 (友の会・報道向け)		4月22日(金)	16
企画展「アンモナイト合戦」見どころ解説会	猪瀬弘瑛 (学芸員)	4月23日(土)	11
講演会「アンモナイトと同時代の生き物たちー恐竜、ワニー」	吉田純輝 (学芸員)	5月4日(水)	56

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
自然史講座「アンモナイトをさがそう」	吉田純輝（学芸員）	5月21日（土）	18
自然史講座「化石標本をつくろう」	猪瀬弘瑛（学芸員）	5月22日（日）	14
講演会「アンモナイトの不思議」	重田康成（国立科学博物館 地学研究部 グループ長）	6月11日（土）	53
企画展「アンモナイト合戦」見どころ解説会	猪瀬弘瑛（学芸員）	6月19日（日）	32
企画展「新選組展2022」内覧会		7月22日（金）	25
企画展「新選組展2022」見どころ解説会	当館学芸員	7月23日（土）	42
記念対談「ダブル子孫で語る～土方歳三と和泉守兼定～」	土方愛（土方歳三資料館館長、土方歳三御子孫） ハーバート真理子（フリーライター、十一代古川兼定御子孫）	7月30日（土）	74
記念講演会①「新選組局長・近藤勇を読み直す」	三野行徳（昭和女子大学専任講師）	8月6日（土）	88
木刀絵付け体験「オリジナル刀剣をつくろう」	当館学芸員	8月11日（木）	29
企画展「新選組展2022」見どころ解説会	当館学芸員	8月13日（土）	21
企画展「新選組展2023」見どころ解説会	当館学芸員	8月27日（土）	35
天然理心流演武	宮川清蔵（天然理心流九代目宗家、近藤勇御子孫） 天然理心流勇武館のみなさん	8月28日（日）	81
企画展「新選組展2023」見どころ解説会	当館学芸員	9月3日（土）	46
記念講演会②「新選組と会津藩」	大石学（東京学芸大学名誉教授）	9月10日（土）	83
企画展「新選組展2023」見どころ解説会	当館学芸員	9月17日（土）	45
企画展「新選組展2023」見どころ解説会	当館学芸員	9月18日（日）	31
企画展「名君の大名文化」内覧会		10月6日（木）	30
講演会「備前刀の魅力と岡山池田家の名刀」	原田一敏（ふくやま美術館館長）	10月7日（金）	50
林原美術館学芸員による展示解説会	橋本龍・槌田祐枝（林原美術館学芸員）	10月8日（土）	22
ワークショップ「書に触れる書をひもとく」	千葉清藍（書家） 橋本龍（林原美術館学芸員） 高橋充（副館長）	10月8日（土）	9
福島県立博物館学芸員による展示解説会	塚本麻衣子・原恵理子（学芸員）	10月16日（土）	41
講演会「林原美術館コレクションの形成～林原一郎と池田家」	谷一尚（林原美術館館長）	10月29日（土）	35
林原美術館学芸員による展示解説会	橋本龍・槌田祐枝（林原美術館学芸員）	11月6日（日）	36
お城のことがよくわかる講座「若松城と岡山城 東と西の名城の秘密」	小野田伸（岡山市観光振興課学芸員） 高橋充（副館長）	11月26日（土）	41
林原美術館学芸員による展示解説会	橋本龍・槌田祐枝（林原美術館学芸員）	12月4日（日）	34
企画展「写真展 福島、東北」内覧会（友の会・報道向け）		1月20日（金）	12
アーティストトーク「3人が捉えた 福島／震災」	岩根愛・岩波友紀・村越としや（写真家）	1月21日（土）	25
学芸員による展示解説会「写真展 福島、東北」	小林めぐみ・川延安直（学芸員）	2月25日（土）	22
講演会「私の場合」	畠山直哉（写真家）	3月12日（日）	30

(10) ポイント展ミニ解説会

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
トークイベント「次世代へつなぐ刺し子の文化」	南郷刺し子会・内山大介（学芸員）	4月24日（日）	38
ポイント展「松平容大の種痘」ミニ解説会	阿部綾子（学芸員）	5月29日（日）	12
ポイント展「伊達政宗と会津攻め」ミニ解説会	高橋充（副館長）	7月3日（日）	15
ポイント展「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」ミニ解説会	友の会化石鉱物探検隊のみなさん	8月7日（日）	6
ポイント展「軍事郵便が繋いだ絆」ミニ解説会	栗原祐斗（学芸員）	8月14日（日）	3
ポイント展「ふくしま草食恐竜展」ミニ解説会	吉田純輝（学芸員）	8月21日（日）	15

(10) ポイント展ミニ解説会

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
中ノ沢こけしワークショップ～こけしに絵付けをしてみよう	柿崎文雄 (中ノ沢こけし工人)	8月21日(日)	12
ポイント展「みんなの震災遺産」ミニ解説会	筑波匡介 (学芸員)	9月11日(日)	109
ポイント展「古墳から見つかったお経」ミニ解説会	平澤慎 (学芸員)	9月18日(日)	7
テーマ展「中ノ沢こけし～ふくしまの郷土玩具～」解説会	山口拓 (学芸員)	9月24日(日)	10
ポイント展「会津藩の歴史編纂と山川兄弟」ミニ解説会	栗原祐斗 (学芸員)	10月16日(日)	9
ポイント展「保科正之の遺言」ミニ解説会	阿部綾子 (学芸員)	11月6日(日)	14
ポイント展「器から探る古墳時代の暮らし」ミニ解説会	田中敏 (学芸員)	11月13日(日)	11
ポイント展「鉄道と地域の発展」ミニ解説会	栗原祐斗 (学芸員)	12月11日(日)	6
テーマ展「写真資料からみる会津の風景」解説会	大里正樹 (学芸員)	12月11日(日)	12
	長島雄一 (資料整理ボランティア)	1月15日(日)	5
ポイント展「上杉景勝とふくしま」ミニ解説会	高橋充 (副館長)	2月5日(日)	14
ポイント展「ふくしまの蔵手刀」ミニ解説会	山本俊 (学芸員)	2月5日(日)	7

(11) けんぱくミュージアムイベント

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
昔話とふるさとの民謡～唄と琴にのせて～	玄如節顕彰会	6月18日(土)	50
会津磐梯山市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会	8月14日(日)	72
夏休みナイトミュージアム	当館学芸員	8月20日(土)	54
けんぱくクリスマスコンサート	榊原聡子 (ピアノ)、竹内永和 (ギター)	12月11日(土)	28
会津の彼岸獅子	本滝沢獅子舞保存会	3月5日(日)	53

(12) 子育て世代対応事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館でもよみきかせ	おはなしのへや／たんぼぼの会	4月9日(土)	7
こどもミニミニはくぶつかん		5月3日(火) ～5月5日(木)	391
博物館でもよみきかせ	ハーモニー／心に虹のおはなし会	5月14日(土)	50
博物館でもよみきかせ	手づくり絵本の会	6月11日(土)	21
博物館でもよみきかせ	ハーモニー／会津短大あそびサークル	7月9日(土)	3
こどもミニミニはくぶつかん		8月11日(木) ～8月14日(日)	313
博物館でもよみきかせ	おはなしのへや／会津短大あそびサークル	8月13日(土)	40
親子で探検！博物館のウラ側	当館学芸員	8月21日(日)	12
博物館でもよみきかせ	マザーグース／おはなしの会ゆがわ	9月10日(土)	20
博物館でもよみきかせ	坂下読み聞かせの会	10月8日(土)	10
博物館でもよみきかせ	おはなしのへや／当館学芸員	11月12日(土)	12
こどもミニミニはくぶつかん～ものづくりとICTで遊ぼう～	会津大学短期大学部幼児教育学科・会津大学コンピューター理工学部	1月21日(土)	89
こどもミニミニはくぶつかん～木のおもちゃで遊ぼう～		2月17日(金) ～2月19日(日)	261

(13) 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
わら細工ワークショップ	大里正樹・山口拓 (学芸員)	1月23日(日)	53
集まれ彼岸獅子！～シシのお面を作ろう～	山口拓 (学芸員)	2月26日(日)	15

(14) 三の丸からプロジェクト

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
雪国ものづくりマルシェ・春		5月7日(土) ～5月8日(日)	1,955
雪国ものづくりマルシェ・秋		10月9日(土) ～10月10日(日)	1,730
演武！AIZU居合道～北辰一刀流如水派～	中山健一（北辰一刀流如水派宗師）、 宗像英男（北辰一刀流如水派師範）	10月15日(土)	53
刀剣鑑賞会	渡邊明（日本美術刀剣保存協会会津 支部長）	10月15日(土)	19
酒蔵で謡を楽しむ会	会津能楽会のみなさん	10月22日(土)	19
刀剣鑑賞講座	藤安将平（将平鍛刀場 刀匠）	10月30日(日)	17
茶道体験	曾根藤子（石州流会津若松支部長）	11月3日(木)	12
講演会「会津の食と酒、漆器」	平出美穂子（福島の食文化研究家・ 管理栄養士）	11月12日(土)	14
見て触れて、能を体験してみよう	会津能楽会のみなさん	11月19日(土)	13
会津松平家の茶道を見る、飲む、楽しむ	茶道石州流宗家会津支部のみなさん	11月20日(日)	47
カラムシの繊維でコースターを織ろう！	奥会津昭和村振興公社のみなさん	12月10日(土)	9
ミニトレーをつくろう～蒔絵に挑戦！	八木由紀子・佐藤淳（蒔絵師）	1月22日(日)	12
会津本郷焼の器をつくろう	宗像利訓（宗像窯9代目）	1月28日(土)	8
会津木綿でじんわりほかほか小豆カイロをつくろう	田崎薫（株式会社はらっぱ）	2月11日(土)	21
またたびで花結びブローチをつくろう	市川里美（またたび工房・癒里）	2月23日(木)	10
またたびザルをつくろう	菅家豊（編み組細工職人）	3月4日(土)	5

(15) 特別プログラム

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館利用指導者研修会	当館学芸員	2月7日(火)	21

(16) 共催事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
会津短大公開講座		5月15日(日)	17
福島県民俗学会大会	福島県民俗学会	6月5日(日)	30
会津史学会歴史文化講演会「会津の絵画－雪村から芋銭まで－」	川延安直（学芸員）	10月23日(日)	46
spfサイエンス屋台村 in 会津若松		11月26日(土)	41
保科正之公没後350年記念講演会 直木賞作家中村彰彦氏が語る、「会津藩を支えた田中家の系譜」	中村彰彦（歴史作家）	12月3日(土)	105

(17) 後援事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
会津民俗研究会公開講演会	会津民俗研究会	3月19日(日)	20

(18) 友の会事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
実技講座「鉱物標本をつくろう」	友の会化石鉱物探検隊のみなさん	8月7日(日)	14
博物館友の会講演会「会津の大地の生い立ち」	竹谷陽二郎（磐梯山ジオパーク協議 会運営委員長）	10月2日(日)	69

(2) けんぱくミュージアムイベント

気軽な雰囲気の中で福島の文化に触れていただくイベント。また、県民の皆様にも博物館を身近に感じていただく機会となるよう、今まで博物館に縁遠かった人々を含め様々な人の集う空間になるよう企画し、5件実施した。

ア. 昔話とふるさとの民謡～唄と琴にのせて～

- (ア) 日 時 令和4年6月18日(土)
13時30分～15時00分
- (イ) 会 場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 講 師 玄如節顕彰会のみなさん
- (エ) 参加者数 50人

イ. 会津磐梯山市民盆踊り

- (ア) 日 時 令和4年8月14日(日)
19時～20時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 前庭
- (ウ) 講 師 会津磐梯山盆踊り保存会のみなさん
- (エ) 参加者数 72人

ウ. 夏休みナイトミュージアム

- (ア) 日 時 令和4年8月20日(土)
17時00分～19時30分 ※博物館閉館後
- (イ) 会 場 福島県立博物館 常設展示室
- (ウ) 参加者数 54人

エ. けんぱくクリスマスコンサート

- (ア) 日 時 令和4年12月11日(土)
15時30分～16時30分
- (イ) 会 場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 出 演 榊原聡子(ピアノ)、
竹内永和(ギター)
- (エ) 参加者数 28人

オ. 会津の彼岸獅子

- (ア) 日 時 令和5年3月5日(日)
13時30分～14時30分
- (イ) 会 場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 出 演 本滝沢獅子舞保存会のみなさん
- (エ) 参加者数 53人

(3) 学校・文化施設等との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア. 展示室での自主学習(しおり・ワークシート)

新型コロナウイルス感染防止対応のため、展示室での密集を避け常設展示室を各自のペースで見学できるワークシート(「キミだけの「たからもの」をさがそう!」)を当館ホームページで公開、ダウンロードしていただけるようにしている。また、親子で来館された利用者向けには、令和3年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業ポリフォニックミュージアムアートワークショップ「博物館部」で作成したワークシート(「博物館でどうぶつさがし」)を常設展示入口や体験学習室に設置した。ワークシートのイラストをもとに、展示資料を探し、発見して喜ぶなど親子で楽しむ様子が見られた。

イ. 学習プログラム

課外授業・修学旅行の学校団体に対し、常設展示の見どころや概要を伝える学習講座を多数開催した。

公民館や地域のコミュニティセンターなどの団体には、企画展見どころ解説のプログラムをご利用いただいた。また、支援学校や未就学児の教育・保育施設(幼稚園・こども園等)の団体に対しては、事前に先生方との打合せの時間を十分にとり、園児・児童・生徒の理解や興味関心などの実態を把握したうえで、さわれる資料の提示や関連するワークショップを行うなど、楽しみながら学びにつながる独自のプログラムを作成、提案した。



学習プログラム実施状況

令和4年度学習プログラム実施状況

No.	実施日	団体名	内容	滞在時間 (分)	参加 人数
1	4月14日	会津若松市立城西小学校	常設展解説	70	95
2	4月14日	会津若松市立一箕小学校	常設展解説	45	121
3	4月20日	会津慈光こども園(年長)	ワークショップ	60	53
4	4月27日	いわき市立勿来第二中学校	テーマ別学習講座(考古)	90	26
5	4月27日	福島県立医大保健科学部	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	240	150
6	5月6日	北塩原村立さくら小学校	テーマ別学習講座(歴史)	90	17
7	5月13日	会津慈光こども園(年長)	企画展解説「アンモナイト合戦」、関連ワークショップ	90	53
8	5月17日	慈光第二こども園(年長)	ワークショップ	90	54
9	5月18日	会津慈光こども園(年中)	企画展解説「アンモナイト合戦」、関連ワークショップ	75	54
10	5月18日	鹿沼市立南押原小学校	常設展通し解説	60	5
11	5月20日	会津若松市立城南小学校	常設展観覧(カードを使用)	80	60
12	5月26日	会津若松市立北会津中学校	テーマ別学習講座(歴史・民俗・美術)	90	53
13	5月27日	会津若松市適応指導教室	ワークショップ	60	9
14	6月1日	会津里町立新鶴小学校	常設展解説	80	30
15	6月3日	磐梯町立磐梯第二小学校	企画展解説「アンモナイト合戦」、関連ワークショップ	60	18
16	6月4日	福島大学	博物館学芸員課程にかかわるバックヤード見学	240	8
17	6月4日	大人の休日倶楽部	特別観覧「泰西王侯騎馬図」	45	25
18	6月7日	慈光第二こども園(年長)	ワークショップ	80	54
19	6月8日	仙台市立通町小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	61
20	6月9日	桑折町立伊達崎小学校	常設展通し解説	60	30
21	6月10日	会津若松市立第四中学校特別支援学級	企画展解説「アンモナイト合戦」、常設展通し解説	110	11
22	6月15日	郡山市立谷田川小学校	テーマ別学習講座(災害)	130	26
23	6月15日	会津若松市適応指導教室	企画展解説「アンモナイト合戦」、関連ワークショップ	150	16
24	6月16日	燕市立小池小学校	常設展解説	90	58
25	6月22日	仙台市立高森東小学校	常設展解説	75	57
26	6月23日	どんぐり山子ども園(年長)	企画展解説「アンモナイト合戦」、関連ワークショップ	60	23
27	6月23日	古殿町教育委員会文化財審議委員会	常設展通し解説	60	12
28	6月30日	会津若松市立一箕中学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	90	152
29	6月30日	会津若松市立鶴城小学校	テーマ別学習講座「水はどこから」(歴史)	45	48
30	6月30日	仙台市立鹿野小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	60	74
31	6月30日	田村市立船引小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	60	124
32	7月1日	会津美里町立高田中学校	常設展解説	50	75
33	7月6日	会津坂下町立坂下東小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	59
34	7月6日	会津若松市適応指導教室	ワークショップ	60	16
35	7月7日	コパン・クラージュ(福祉施設)	常設展対話型鑑賞(部門別展示室の自然)	30	17
36	7月8日	会津若松ザベリオ学園小学校	常設展観覧(部門別展示室の自然)	60	6
37	7月8日	会津若松市立第二中学校	テーマ別学習講座(歴史)	120	100
38	7月21日	慈光第二こども園(年長)	常設展観覧(カード使用)	120	57
39	7月21日	会津慈光こども園(年長)	常設展観覧(カード使用)	50	55
40	8月7日	田村市中央公民館かるがも学級	体験プログラム「勾玉づくりに挑戦」	90	17
41	8月24日	喜多方市立塩川公民館地域学習塾	企画展解説「新選組展2022～史料から辿る足跡～」	90	18
42	8月25日	あおい学園	企画展解説「新選組展2022～史料から辿る足跡～」	120	23
43	8月30日	喜多方市山都公民館	企画展解説「新選組展2022～史料から辿る足跡～」	120	28
44	9月2日	郡山市立宮城小・海老根小学校	テーマ別学習講座(災害)	120	31
45	9月6日	福島市女性学級連絡協議会	テーマ別学習講座(連携交流)	90	8

No.	実施日	団体名	内容	滞在時間 (分)	参加 人数
46	9月7日	会津若松市立永和小学校	学習講座（歴史）	120	13
47	9月7日	会津若松市適応指導教室	企画展解説「新選組展2022～史料から辿る足跡～」 ＋関連ワークショップ	100	18
48	9月8日	会津坂下町金上コミュニティセンター	企画展解説「新選組展2022～史料から辿る足跡～」	70	15
49	9月8日	成城大学文学部文化史学科	常設展通し解説	90	22
50	9月9日	須賀川市立義務教育稲田学園	常設展通し解説	60	27
51	9月14日	会津美里町立新鶴中学校	常設展解説	60	40
52	9月15日	伊達市立月館学園小学校	テーマ別学習講座（災害）	60	16
53	9月15日	相馬市立磯部小学校	テーマ別学習講座（災害）	60	12
54	9月16日	面川報徳保育園	常設展観覧（カード使用）	75	44
55	9月16日	中島村立滑津小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	80	39
56	9月21日	会津若松市立第三中学校	テーマ別学習講座（歴史・災害）	60	12
57	9月21日	二本松市立石井小学校	常設展通し解説	80	23
58	9月27日	会津若松市立松長小学校	テーマ別学習講座「水はどこから」（歴史）	90	42
59	9月27日	福島県立会津支援学校中学部	常設展観覧（総合展示室原始を中心に）＋関連ワーク ショップ	75	20
60	9月28日	慈光第二こども園（年中）	テーマ展解説「中ノ沢こけし～ふくしまの郷土玩具 ～」 関連ワークショップ	45	41
61	9月28日	郡山市中田公民館	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	19
62	9月30日	会津美里町立新鶴中学校	常設展解説	60	40
63	9月30日	福島県立会津支援学校高等部	常設展通し解説	60	20
64	10月4日	会津若松市立鶴城小学校	常設展解説、学芸員への質問	80	12
65	10月4日	山元町立坂元小学校	常設展通し解説	60	17
66	10月5日	会津慈光こども園（年中）	テーマ展解説「中ノ沢こけし～ふくしまの郷土玩具 ～」 関連ワークショップ	75	54
67	10月6日	福島県立平支援学校高等部	常設展通し解説、ワークショップ（協働）	90	19
68	10月7日	会津報徳保育園	テーマ展解説「中ノ沢こけし～ふくしまの郷土玩具 ～」 関連ワークショップ	60	22
69	10月8日	幸手市立上高野小学校（オンライン）	常設展解説	60	54
70	10月8日	会津大学池本ゼミ	常設展通し解説	210	10
71	10月12日	湯川町立勝常小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	14
72	10月15日	会津若松市立第一中学校PTA教養委 員会	常設展通し解説	90	16
73	10月19日	会津若松市適応指導教室	企画展解説「林原美術館名品展 名君の大名文化～ 岡山池田家と会津 武、その華と志～」 関連ワーク ショップ	90	20
74	10月20日	桜の聖母学院小学校	体験プログラム「化石にさわってみよう」	75	27
75	10月22日	福島県立医科大学	テーマ別学習講座「芸術と文化」（美術・歴史）	240	15
76	10月23日	喜多方市教育委員会	企画展解説「林原美術館名品展 名君の大名文化～ 岡山池田家と会津 武、その華と志～」	120	10
77	11月1日	郡山市立緑ヶ丘第一小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	110	93
78	11月4日	平田村中央公民館	企画展解説「林原美術館名品展 名君の大名文化～ 岡山池田家と会津 武、その華と志～」	120	13
79	11月4日	昭和村公民館「少年教室」	体験プログラム「化石にさわってみよう」	120	14
80	11月8日	東京都市大学等々力中学校	テーマ別学習講座（歴史）	90	75
81	11月9日	福島県立会津支援学校竹田校	テーマ別学習講座（連携交流）	120	5
82	11月9日	小山市まりびわ古墳の会	常設展解説	90	15
83	11月9日	福島市立湯野小学校	体験プログラム「勾玉づくりに挑戦」	135	30
84	11月12日	郡山女子大学短期大学部	博物館学芸員課程にかかわるバックヤード見学	80	24
85	11月15日	伊達市立大田小学校	企画展解説「林原美術館名品展 名君の大名文化～ 岡山池田家と会津 武、その華と志～」＋常設展通 し解説	115	18

No.	実施日	団体名	内容	滞在時間 (分)	参加 人数
86	11月16日	宮城いきいき学園大崎校29期生	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	24
87	11月19日	茨城キリスト教大学	博物館学芸員課程にかかわるバックヤード見学	110	20
88	11月22日	会津若松市会津わくわく学園	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」＋常設展 通し解説	120	14
89	11月23日	会津坂下町広瀬コミュニティセンター	企画展解説「林原美術館名品展 名君の大名文化～ 岡山池田家と会津 武、その華と志～」	70	15
90	11月25日	喜多方市中央公民館	企画展解説「林原美術館名品展 名君の大名文化～ 岡山池田家と会津 武、その華と志～」	120	15
91	11月25日	本宮市文化財講座①	企画展解説「林原美術館名品展 名君の大名文化～ 岡山池田家と会津 武、その華と志～」	60	26
92	11月29日	本宮市文化財講座②	企画展解説「林原美術館名品展 名君の大名文化～ 岡山池田家と会津 武、その華と志～」	60	27
93	12月2日	会津若松市適応指導教室	テーマ別学習講座（民俗）	105	19
94	12月2日	猪苗代町重要文化財保存会	企画展解説「林原美術館名品展 名君の大名文化～ 岡山池田家と会津 武、その華と志～」＋常設展通 し解説	120	17
95	12月7日	認定こども園こどもの森	常設展対話的鑑賞（総合展示室原始）＋関連ワーク ショップ	120	51
96	12月14日	郡山市内高校美術連盟	テーマ展解説「写真資料から見える会津の風景～小 滝清次郎民俗写真～」、2展開	60	99
97	12月17日	昭和村文化協会・千歳学級合同学習会	テーマ展解説「写真資料から見える会津の風景～小 滝清次郎民俗写真～」	60	14
98	12月17日	東北生活文化大学	博物館学芸員課程にかかわるバックヤード見学	120	16
99	12月18日	阿賀川・川の達人の会	テーマ別講座（自然）	60	30
100	12月21日	会津若松市立湊小学校	体験プログラム「昔の道具」	100	15
101	1月7日	会津大学短期大学部	「工芸概論」学外授業（美術）	120	13
102	1月24日	喜多方市松山公民館	企画展解説「写真展 福島、東北写真家たちが捉え た風土／震災」	60	15
103	2月8日	会津若松市適応指導教室	企画展解説「写真展 福島、東北写真家たちが捉え た風土／震災」、関連ワークショップ	75	17
104	2月14日	会津若松市立川南小学校	体験プログラム「昔の道具」	90	20
105	2月14日	会津若松市立鶴城小学校	体験プログラム「昔の道具」	80	46
106	2月15日	会津若松市立行仁小学校	体験プログラム「昔の道具」	110	46
107	2月17日	磐梯町立磐梯第二小学校	常設展通し解説	90	11
108	2月21日	会津坂下町立坂下東小学校	体験プログラム「昔の道具」	90	46
109	2月21日	福島県若松乳児院	常設展観覧、ワークショップ	60	10
110	2月21日	福島県立会津支援学校竹田校	常設展解説、特別観覧「甲冑」	60	3
111	2月22日	会津若松市立謹教小学校	体験プログラム「昔の道具」	75	50
112	2月28日	会津若松市立松長小学校	体験プログラム「昔の道具」	90	36
113	3月1日	喜多方市立山都小学校	常設展通し解説	90	7
114	3月6日	福島県立会津支援学校（オンライン）	福島藝術計画成果展観覧	45	28
115	3月7日	福島県立会津支援学校竹田校	企画展解説「写真展 福島、東北写真家たちが捉え た風土／震災」	60	4
116	3月8日	会津若松市適応指導教室	学習講座（災害）、バックヤード見学	120	17
117	3月11日	聴覚障がい者の方々	企画展解説「写真展 福島、東北写真家たちが捉え た風土／震災」	90	10
118	3月12日	コロンバス日本語補習校（オンライン）	企画展解説「写真展 福島、東北写真家たちが捉え た風土／震災」	90	38
119	3月24日	東北生活文化大学	博物館学芸員課程にかかわるバックヤード見学	150	23

ウ. 未就学児団体連携事業

前年度の試行の検証を踏まえて、「会津慈光こども園」「慈光第二こども園」とは通年で学習プログラムを実施した。「認定こども園こどもの森」「若松乳児院」など新規の園や施設の利用もあり、延べ14回実施した。



未就学児対応プログラム実施状況

エ. 障がい者支援団体連携事業

福島県立会津支援学校（竹田校を含む）と連携し、ゲストティーチャー、来館時の学習プログラム提供などを通年で実施した。先生方と事前の打合せを行い、授業のねらい、児童・生徒の障がいや興味関心などの実態把握をしたうえで延べ13回実施した。

オ. 指導者向け研修

今年度は「博物館利用指導者研修会」と題し、当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムや協働の事例を紹介した。博物館のもつ多様な学習プログラムをお伝えすることで、当館の学校や公民館における活用の推進を図った。令和5年2月7日（火）に21名の参加者を得て開催した。

令和4年度 博物館を活用した教育プログラム研修会

時間	内容
10:30～10:40	開会挨拶
10:40～11:15	講座Ⅰ「会津若松の移り変わりを知ろう」
11:15～12:00	ワークショップ「昔の道具を使った学習」
一昼食・休憩一	
13:00～13:35	講座Ⅱ「福島の地質と化石」
13:35～14:10	講座Ⅲ「博物館を利用した授業・講座づくり～防災講座を事例に～」
14:10～14:40	実践報告「博物館を利用した授業づくり」
14:40～14:55	対談・質疑応答
14:55	閉会

定員30名

カ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。今年度は新型コロナウイルス感染症の予防もあり、貸出事業は停止となった。停止期間を活かし、各分野にて貸出用具・教材の見直しを図り、再開への準備を整えた。

キ. ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和4年度の実施回数は41回で、参加者は3,218人であった。

ゲストティーチャー実施一覧

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	実施先	対象	受講者数
1	4月18日	筑波	災害	震災遺産に関する講話	東京学館新潟高等学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	高校1年生および教職員	168
2	4月20日	筑波	災害	震災遺産に関する講話	東京学館新潟高等学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	高校1年生および教職員	208
3	5月25日	筑波	災害	防災教育についての講話	会津若松市立一箕小学校 (会場：会津少年自然の家)	4年生	101
4	6月1日	吉田	自然	新種！ワニ祖先の化石 S SH講演(オンライン)	福島高校、会津学鳳高校、福島西高校、福島南高校、安積高校、磐城桜が丘高校、桜の聖母学院高校、愛知県立一宮高校、香川県立観音寺第一高校	高校一・二年生および教職員	120
5	6月7日	筑波	災害	震災遺産に関する講話(東日本を中心とした学習の一環として)	郡山市立多田野小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	5年生	36
6	6月8日	筑波	災害	震災遺産に関する講話(東日本を中心とした学習の一環として)	福島市立吉井田小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	5年生及び教職員	95
7	6月13日	筑波	災害	東日本大震災を語り継ぐ目的について	福島県立船引高等学校	船高アクティブリーダー育成プロジェクト参加1、2年生	29
8	6月20日	筑波	災害	震災遺産に関する講話(東日本を中心とした学習の一環として)	郡山市立守山小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	6年生及び教職員	36
9	6月21日	西尾・鈴木		「会津の歴史と現代の様子」講義	会津若松市立第四中学校	1年生	177
10	6月23日	山本・平澤	考古	四穂田古墳出土品に伴う体験学習	中島村立滑津小学校・吉子川小学校 (会場：中島村生涯学習センター輝ら里)	6年生	60
11	6月24日	筑波	災害	職業人講話「Career Inquiry パネルディスカッション」福島県のために活動している職業人の講話	福島県立会津学鳳高等学校	2年生	60
12	6月29日	筑波	災害	震災遺産に関する講話(東日本を中心とした学習の一環として)	福島市立鳥川小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	5年生	57
13	7月1日	筑波	災害	宿泊学習 震災を学ぶ活動	郡山市立御代田小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	4・5・6年生	32
14	7月5日	西尾・鈴木・川延		総合的な学習(会津木綿に関する話)	福島県立会津支援学校	1年生	20
15	7月6日	筑波	災害	震災講話	福島市立森合小学校	5年生	130
16	7月7日	筑波	災害	震災講話	郡山市立富田西小学校	5年生	72
17	7月8日	筑波	災害	震災遺産を考える	北塩原村立北塩原中学校		69
18	7月12日	筑波	災害	震災講話	会津若松市立行仁小学校	5年生	55
19	7月13日	筑波	災害	震災講話	会津若松市立鶴城小学校	4年生	43
20	8月30日	筑波	災害	震災遺産に関する講話	郡山市立芳山小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	5年生	51
21	9月15日	筑波	災害	防災学習	会津若松市立日新小学校	4年生	63

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	実施先	対象	受講者数
22	9月21日	筑波	災害	震災遺産に関する講話	福島市立福島第二小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	5年生	27
23	9月22日	山口・西尾	民俗	総合的な学習（会津木綿に関する話）	福島県立会津支援学校	1年生	6
24	9月27日	西尾・鈴木	災害	修学旅行事前指導（「ふくしまの歴史・地域の歴史」）	埼玉県幸手市立上高野小学校 (オンライン)	6年生	52
25	10月4日	阿部	歴史	白虎隊演舞の事前学習（校外学習：白虎隊についてのお話し）	認定こども園子どもの森（会場：飯盛山）	年長クラス	42
26	10月18日	猪瀬・鈴木	自然	石の学習会（東山浄水場前の安山岩「柱状節理」についてのお話し＋質疑応答）	会津慈光こども園 (会場：東山浄水場)	年長クラス	46
27	10月20日	吉田・西尾	自然	石の学習会（東山浄水場前の安山岩「柱状節理」についてのお話し＋質疑応答）	慈光第二こども園 (会場：東山浄水場)	年長クラス	49
28	11月7日	筑波	災害	震災講話	郡山市立熱海小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	5年生	30
29	11月16日	筑波	災害	震災講話＋ワークショップ（クロスロードと工作）	喜多方市立山都小学校 (会場：会津自然の家)	4・5年生	32
30	11月16日	小林	美術	キャリアアップガイダンス	福島県立橋高校	1年生	280
31	11月25日	大里・山口・西尾	民俗	藁のワークショップ	福島県立会津支援学校	中学部2年生	9
32	11月25日	筑波	災害	防災教育出前授業	喜多方市立喜多方第一中学校	1・2年生	180
33	11月30日	筑波	災害	防災グッズ作成体験、講評・講話	喜多方市立喜多方第一中学校		271
34	12月9日	筑波	災害	なぜ、福島県立博物館が、震災資料の収集に取り組むのか。	福島県立田島高校	1年生	47
35	1月19日	筑波	災害	防災講座：小学生が避難所でできること	郡山市立大島小学校	5年生	107
36	1月24日	大里・西尾	民俗	昔の道具	福島県立会津支援学校	小学部1年生	7
37	1月26日	大里・山口・西尾	民俗	会津の祭り（会津磐梯山）	福島県立会津支援学校	高等部2年生	9
38	1月31日	筑波・鈴木	災害	防災講座：博物館の資料（震災遺産）を通じて避難所でできることを考える	猪苗代町立猪苗代中学校	2年生	101
39	2月3日	筑波・鈴木	災害	防災教育：災害遺産を通して、被災者に寄り添うことを考える	喜多方市立喜多方第一中学校	1年生	89
40	2月15日	筑波・鈴木	災害	家庭科：中学生が避難所でできることを考える	会津若松市立北会津中学校	2年生	58
41	3月7日	筑波	災害	防災教室	猪苗代町立千里小学校		94
受講者合計							3,218

ク. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和4年度は5校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。また、福島県立会津支援学校高等部生徒については、清掃員・清掃会社の協力のもと清掃業務の体験をした。

○受け入れ実績（生徒のみ）

- ・会津若松市立第二中学校
（2年生：2名） 1日間
- ・会津若松市立第四中学校
（2年生：2名） 1日間
- ・会津若松市立湊中学校
（3年生：1名） 1日間
- ・会津若松市立第一中学校
（2年生：1名） 1日間
- ・福島県立会津支援学校
（高等部：8名） 1日間

ケ. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。実習の受入対象者の条件は、従前の（1）県内所在の大学に在籍する学生、（2）福島県出身の学生に加え、令和3年度より（3）（1）・（2）以外で当館の使命に

共感し当館での実習を強く希望する学生という条件を新規に設けた。令和4年度は（2）の条件に当てはまる学生9名を受け入れた。演習では、「福島県立博物館で現代を展示すること」について考え、「福島県立博物館の来館者に現在や未来に向かい合う場となる展示室を企画し、展示模型を制作する。」というテーマで展示模型を作成した。また、グループごと作成した展示模型をもとに、展示室の企画の意図や工夫点をまとめ当館の学芸員に向けプレゼンテーションを実施した。

実習期間 8月23日（火）～8月28日（日）

実習生所属大学一覧

No	大学名	人数
1	法政大学	1
2	米沢女子短期大学 3名	3
3	秋田公立美術大学	1
4	専修大学	1
5	京都先端科学大学	1
6	桜美林大学	1
7	日本大学	1
	合 計	9

福島県立博物館 令和4年度博物館実習日程・内容

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
8月 23日 (火)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:00～9:10	実習生紹介	実習担当	事務室
	9:10～10:00	オリエンテーション	実習担当	第2会議室
	10:10～10:50	福島県立博物館の概要	副館長心得兼学芸課長	第2会議室
	11:00～11:30	博物館の企画運営・展示	企画推進班（内山）	第2会議室
	11:30～12:00	博物館資料の収集と保管・調査研究	企画推進班（内山）	第2会議室
	—昼食—			
	12:00～13:00			
	13:00～13:30	博物館の広報・教育普及について	連携交流班（小林）	第2会議室
	13:40～15:40	震災遺産について	災害分野（筑波・鈴木）・震災遺産T	第2会議室
15:50～16:40	演習①	実習担当	第2会議室	
16:40～17:00	実習日誌の作成・提出	実習担当	第2会議室	
24日 (水)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:00～10:00	施設・設備（バックヤード・常設展等）の見学	実習担当	バックヤード
	10:00～12:00	歴史資料の取り扱い	歴史分野（阿部・高橋充・栗原）	実習室
	—昼食—			
	12:00～13:00			
	13:00～16:30	演習②	実習担当	第2会議室
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室	

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
25日 (木)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:00～ 9:55	図書資料の取り扱い	長澤・相田	図書室
	10:00～10:30	自然資料の取り扱い（自然収蔵庫見学その後演習）	自然分野（相田）	第2会議室
	10:40～12:00	演習③	実習担当	第2会議室
	— 昼 食 —			
	12:00～13:00			
	13:00～16:30	考古資料の取り扱い	考古分野（高橋満・山本・平澤・田中）	
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室	
26日 (金)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:00～11:00	民俗資料の取り扱い	民俗分野（大里・西尾・内山・山口）	第一収蔵庫・写真室・荷解き場
	11:10～12:00	講義：企画展の作り方	阿部	第2会議室
	— 昼 食 —			
	12:00～13:00			
	13:00～16:30	演習④	実習担当	第2会議室
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室	
27日 (土)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:00～12:00	演習⑤	実習担当	第2会議室
	— 昼 食 —			
	12:00～13:00			
	13:00～15:00	演習⑥	実習担当	第2会議室
	15:00～16:30	演習⑦ 発表・講評	実習担当・筑波・栗原・参加可能な学芸員	第2会議室
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室	
28日 (日)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:00～11:15	資料の保存	保存科学分野（杉崎）	実習室
	11:25～12:00	演習⑧	実習担当	第2会議室
	— 昼 食 —			
	12:00～13:00			
	13:00～15:00	美術資料の取り扱い	美術分野（小林・塚本・原・川延）	第2会議室
	15:10～16:30	演習のまとめ⑨	実習担当・参加可能な学芸員 (15:50～16:30)	第2会議室
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室	

（4）生涯学習・研究支援・家庭教育

ア. 相談コーナー

相談コーナーは、学芸員が来館者からの質問や相談に答えたり、来館者が自発的に学習したりするためのスペースとしてエントランスホールの一隅に設置されている。相談コーナーには展示図録・報告書・紀要など当館の出版物、および博物館資料に関連した図書を排架している。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、来館者が自由に閲覧できる。

本年度は相談コーナー図書の棚下ろしを実施し、排架図書の総数を再確認した。その結果、排架された当館出版物の一部がカウントされていなかったことが判明し、現在の排架

図書数は昨年度より若干増加して2,994冊となった。

相談コーナー図書の利用に当たっては、過去2年間に渡り新型コロナウイルス対策を施した運用を実施してきたが、感染の経路や機会が明らかになってきた現状に鑑み、前年度まで行ってきた利用後の図書の返却箱への返却や、再排架までに24時間以上のウイルス不活性化時間を設けることなどは令和4年4月末までで終了し、以後、図書利用の方法を新型コロナウイルス流行以前の状態に戻した。

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実

施している。

分野別特別観覧件数：

考古：7件23点 歴史：20件326点

民俗：5件86点 美術：1件 1点

自然：3件 8点 計36件444点

ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

令和4年度の派遣回数は31回で、参加者は1,446人であった。

エ. 子育て世代対応事業

「博物館でもよみきかせ」「親子で探検！博物館のウラ側」「こどもミニミニはくぶつかん」を実施したほか、連携している会津大学短期大学部幼児教育学科と会津大学コンピューター理工学部の先生・学生と打合せを重ね、感染拡大防止がとれる内容を考案しワークショップを下記のとおり実施した。

令和5年1月21日(土)「こどもミニミニはくぶつかん～ものづくりとICTで遊ぼう～」

*場所：体験学習室（なんだべや）

定員：各回5グループ

講師派遣一覧

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	主催	参加者
1	5月6日	筑波匡介	災害	①防災・減災についての基礎基本について、②災害時の避難行動について	国立磐梯青少年交流の家	17
2	5月12日	高橋充	歴史	蒲生氏郷の人物像とまちづくりについて	会津若松観光ルネッサンス協議会	64
3	5月21日	原恵理子	美術	会津本郷焼と一重孔希	塩川公民館・北方風土倶楽部	30
4	6月3日	筑波匡介	災害	震災遺産を考える（オンライン）	龍谷大学	6
5	6月8日	高橋満	企画推進	近年の特別展・企画展の動向	文化庁	20
6	6月10日	筑波匡介	災害	防災講座「楽しい備え」	二本松市立岳下公民館	58
7	6月18日	筑波匡介	災害	震災遺産を考える・ワークショップ	福島大学	10
8	6月26日	筑波匡介	災害	楽しいそなえ	国立磐梯青少年交流の家	56
9	7月9日	小林めぐみ	LMN	地域とミュージアムー福島県立博物館の実践から	福島大学	9
10	7月26日	阿部綾子	歴史	くずし字で読み解く新選組	小学校教育研究会両沼地区国語科研究部	13
11	7月29日	内山大介	民俗	山口弥一郎の教育実践と郷土研究ー戦後社会科との関わりからー	福島県高等学校地理歴史・公民科(社会科)研究会	40
12	8月3日	高橋満	企画推進	近年の特別展・企画展の動向	文化庁	16
13	8月6日	筑波匡介	災害	博物館の防災教育（オンライン）	中越防災安全推進機構	12
14	8月9日	小林めぐみ	美術	漆芸×活用・協働	喜多方市	25
15	9月4日	小林めぐみ	美術	会津漆器とその歴史について	「感動事業」を創出する次世代育成事業実行委員会	25
16	9月7日	高橋充	歴史	福島県の城・町・博物館	福島県立医科大学	13
17	9月10日	筑波匡介	災害	楽しいそなえ・工作	昭和村公民館	12
18	9月14日	栗原祐斗	歴史	福島県の観光の歴史	福島県立医科大学	13
19	9月21日	大里正樹	民俗	福島県の民俗文化と現代社会	福島県立医科大学	15
20	9月22日	原恵理子	美術	大堀相馬焼の歴史（オンライン）	大堀相馬焼協同組合	34
21	9月27日	高橋充	歴史	蒲生氏郷の人物像とまちづくり	会津若松ルネッサンス協議会	22
22	9月28日	筑波匡介	災害	震災遺産を考える	福島県立医科大学	14
23	10月16日	高橋充	歴史	鎌倉幕府と喜多方	喜多方市教育委員会	86
24	10月29日	阿部綾子	歴史	保科正之の遺言	猪苗代の偉人を考える会	300
25	11月19日	吉田純輝	自然	第41回福島県高等学校総合文化祭自然科学部門/第35回福島県高等学校生徒理科研究発表会 ポスター発表審査委員	福島県高等学校文化連盟自然科学専門部会	274

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	主催	参加者
26	12月17日	内山大介	民俗	第4回相馬文化講演会「祭りと行事の民俗文化－相馬と会津の地域性－」	相馬郷土研究会	20
27	1月29日	高橋満	考古	縄文人の塩づくり	是川縄文館（八戸市）	41
28	1月29日	塚本麻衣子	美術	会津の三十三観音めぐりと仏像	極上の会津プロジェクト協議会	60
29	2月7日	筑波匡介	災害	楽しいそなえ	会津若松市南公民館	12
30	2月19日	高橋充	歴史	江戸時代の会津の三十三観音めぐり	極上の会津プロジェクト協議会	79
31	3月4日	高橋充	歴史	天正17年 伊達政宗の只見をめぐる戦い	会津只見史談会	50
参加者数合計						1,446

(5) 動画の作成と配信

前年度に引き続き、美術分野を中心に動画の制作を行い、YouTube公式チャンネルにアップロードし、WebサイトやSNSで公開情報を発信した。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、来館者数等様々な制限が実施された。来館しづらい方はもちろん、それ以外の方にも展示の内容を親しみやすく伝える手段として、前年度に続き、展示の内容を紹介する「にちようはくぶつかん」シリーズを作成、公開した。

テーマ展「美しき刃たち－会津編」では、「にちようはくぶつかん」として展示の見どころを福島市在住の刀匠・藤安将平氏にご紹介いただき、刀の魅力や刀工について分かりやすくお伝えし多くの方に好評をいただいた。

企画展「名君の大名文化－岡山池田家と会津武、その華と志－林原美術館名品展」関連イベントとして実施した「林原美術館コレクションの形成～林原一郎と池田家～」講演会等を収録し、公開した。

また、企画展「写真展 福島、東北 写真家たちがとらえた風土/震災」関連イベントとして写真家の畠山直哉氏をお招きし実施した、アーティストトーク「私の場合」を収録し、公開した。陸前高田市出身の畠山氏にとっての震災に対する思いをお話いただき、企画展の畠山氏の作品に対する見方を広げていただける動画となっている。

また、特別講座「詩人のいる博物館 文学とミュージアム」の記録動画では、詩人である和合亮一さんをホストに、毎回文学館館長をゲストにお招きし実施した対談を収録し、公開した。

そのほか、「三の丸からプロジェクト 若松城下まちなか連携事業」武家文化を体験するイベント（作成：文化庁）を公開した。

YouTube当館公式チャンネルでは、令和4年度中に11本の動画を公開、チャンネル登録数は年度末までに389人、令和4年度の合計視聴回数は8,911回であった。博物館の新たな情報発信

ツールとして動画公開が定着していると言える。その一方で、コロナ禍での対応が終わり一般業務が戻りつつある中で新たなシリーズの作成や、長編・短編のバリエーションある展開などに課題があり、今後の動画作成の在り方などについて年間計画を立てるなどの方策が必要である。

(6) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して広報紙「なじよな」の送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア. 友の会の概要

①発足 平成元年 3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

会計年度の期間が変更されたことにより、令和4年度の事業・会計決算報告と令和5年度の事業・予算案を審議する総会は、令和5年4月9日（日）に開催されることとなった。

④令和4年度会員数

個人会員：129 家族会員：29

高校生会員：0 賛助会員：4 合計：162

イ. 令和4年度事業概要

(ア) 講演会等の開催

○講演会の開催

演 題：「会津の大地の生い立ち」

日 時：令和4年10月2日（日）

13:30～15:00

講 師：竹谷陽二郎氏（磐梯山ジオパーク

協議会運営委員長)

会場：博物館講堂

来場者：69名

(イ) 研修旅行

県内外における新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、今年度の研修旅行の実施は見送られた。

(ウ) 会報の発行

友の会会報第127号・第128号・第129号を発行し会員に配布した。総会の総括、企画展内覧会に参加された会員からの感想、サークルの紹介等を掲載した。また、講演会では時間の都合もあり寄せられた質問全てに答えることができなかったため、昨年度に引き続き誌上での回答を行った。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加申し込み・定員制とし、展示室での解説は行わず、講堂での解説、展示室での自由観覧という開催形態をとった。

4月22日(金)「アンモナイト合戦」15名参加

7月22日(金)「新選組展2022」25名参加

10月6日(木)「名君の大名文化」30名参加

1月20日(金)「写真展 福島、東北 写真家たちが捉えた風土／震災」12名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。



企画展「新選組展2022」内覧会の様子

ウ. サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像を研究し旅する会の4サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、

自立した活動を行っている。

1. 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数40名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

令和4年度は全6回の野外活動(化石鉱物の観察活動)のほか、ミニ成果展や「化石標本をつくろう」といったイベントを博物館で開催するなど、館と連携した活動を精力的に行った。

2. 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時17名が参加し、A～Dの4班編制で古文書の解説・考察にあたり、順番に発表を行う形で学習活動を続けてきた。テキストは当初から県指定文化財の築田家文書(福島県立博物館寄託)を用いている。築田家は江戸時代に若松城下の検断(町役人)を務めた家で、伝来した文書は城下の様子を伝える良質な資料であるため、解説を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見が深めている。令和4年度は前年度から継続している「御国産一件 弐」を読み終え、「大町に関する書上」の解説に着手した。

当会は通常月1回(第二土曜日)・年間12回の活動計画であるが、前年度に引き続き令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同会の判断もあり4月・6月・7月・10月・2月・3月の6回の開催にとどまった。

3. 考古学倶楽部

本会は、考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、研修会や遺跡の見学会、考古学関連の展示の見学などの事業をとおり、会員相互の親睦を図るとともに、博物館事業にも協力することを目的に、令和3年4月に発足した。

令和4年度に実施した主な事業は以下のとおりである。

- ・ 5月15日 会津若松市歴史資料センター「まなべこ」見学
- ・ 7月2日 研修会「考古学で探るふくしまの歴史 - 弥生時代編 -」学芸員による講話
- ・ 9月25日 研修会「柳津町・三島町の遺跡」学芸員による講話

- ・ 10月1日 やないづ縄文館・三島町交流センター山びこ・埋もれ木出土地見学
- ・ 10月22日 研修会「金山町・只見町の遺跡」学芸員による講話
- ・ 12月3日 「埋もれ木から読み解く沼沢火山噴火」調査報告会参加
- ・ 1月21日 研修会「弥生時代のお墓の変遷」学芸員による講話
- ・ 2月25日 展覧会「三島の縄文展～数千年前のものづくり～」見学
- ・ 3月5日 総会



友の会考古学倶楽部「やないづ縄文館の見学」

4. 仏像を研究し旅する会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和3年度から活動を開始。令和4年度の会員は11名。会津若松市をはじめ、周辺の寺院を訪れての仏像見学を全5回行う。併せて、博物館での展示見学や関連する美術講座への参加、会員各自の興味関心や学習成果を発表する勉強会を組み合わせる形で活動を行った。

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

令和4年度は、広報紙「なじよな」について、特別号、4～6月号(11号)、7～9月号(12号)、10～12月号(13号)、1～3月号(14号)を発行した。年度当初の特別号では、三の丸からプロジェクトについての案内とし

た。通常号では、展示やイベントの案内の他、子ども向けの連載など、より親しみやすい紙面をめざした。

年間催し物案内は、令和4年度企画展の注目される資料をワンポイントとしてあしらい、目を引き、かつ見やすいデザインを心掛けた。

福島県立博物館 令和4年度 広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B2	企画展「新選組展2022―史料から辿る足跡―」4,000枚 企画展「林原美術館名品展 名君の大名文化～岡山池田家と会津武、その華と志～」3,700枚 企画展「写真展 福島、東北 写真家たちが捉えた風土／震災」4,000枚 次年度企画展「Go!Go! 5世紀～東北地方中・南部の古墳文化～」2,500枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A4	企画展「新選組展2022―史料から辿る足跡―」60,000枚 企画展「林原美術館名品展 名君の大名文化～岡山池田家と会津武、その華と志～」65,000枚 企画展「写真展 福島、東北 写真家たちが捉えた風土／震災」50,000枚 次年度企画展「Go!Go! 5世紀～東北地方中・南部の古墳文化～」68,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所 その他、福島民友・福島民報への新聞折込み(会津若松市内の購読世帯)
新広報物『なじよな』12号～15号・2023特別号	A2 4つ折り	20,000枚×5回=100,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	22.0×40.0cm 観音折り	45,000枚×1回=43,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所
プレス・リリース(企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供)	A4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ

イ. 広告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

広告掲載一覧

展示会	看板(駅前・博物館周り)	新聞・その他
春の企画展「アンモナイト合戦～アンモナイトVS同時代の生き物たち～」	○	福島民友 (R4.3/29)・福島民報 (R4.4/28)
夏の企画展「新選組展2022-史料から辿る足跡-」	○	—
秋の企画展「林原美術館名品展 名君の大名文化～岡山池田家と会津 武、その華と志～」	○	—
冬の企画展「写真展 福島、東北 写真家たちが捉えた風土／震災」(会津楽市特集・年賀広告)	○	福島民報 (R5.1/7)・福島民友 (R5.1/7)

ウ. マスコミ向け広報活動

記者クラブへの投げ込みと、マスコミ関係の希望者に向けたニュースメール配信を不定期で行っている。

記者クラブへの投げ込みでは、会津若松市記者クラブ加盟社のほか、県教育委員会(教育庁)社会教育課と連携して県政記者クラブ加盟社に向けた情報発信を行っている。ニュースメールでは、新聞やテレビ等マスコミ関係の配信希望者約40名に情報メールを配信している。

内容は、企画展の内覧会情報やイベント開催情報をはじめ、学芸員の研究成果の周知等であり、記者会見も1回実施した。

令和4年度は投げ込みを8回、ニュースメール配信を7回行い、ほぼ毎回新聞やテレビ等の取材につながっている。

エ. ホームページ

当館ではホームページ(<https://general-museum.fcs.ed.jp/>)を開設し、館の紹介をはじめ、展示やイベントなどの各種情報、出版物の案内などを発信している。

オ. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

当館ではより身近で親しみやすいかたちでの広報活動を目指し、ソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用した広報を行っている。平成27年度末(3月25日)より「Facebook(フェイスブック)」の公式ページ(<https://www.facebook.com/fukushimamuseum/>)を公開しているほか、平成30年7月4日からは「Twitter(ツイッター)」の公式ページ(<https://twitter.com/fukushimamuseum>)を公開した。

令和4年度末時点でのFacebookの投稿件数は414回(前年度より106件増加)、フォロワー数は1,419件(同81件増加)であった。Twitterの投稿件数は358件(前年度より52件減少)、フ

ォロワー数は2,697件(同582件増加)であった。

Twitterを活用して春・冬の企画展の情報発信を行った。春の企画展では、展示図録に未収録の展示資料(アンモナイト化石)全てについて、ツイートにより紹介した。冬の企画展の内容は写真展であったため、福島写真美術館と題し、ツイッターユーザーが投稿した写真にコメントをつけてリツイートした。

カ. 記事・放映

当館では、令和元年7月より、喜多方シティエフエム株式会社との協力によりラジオ番組「けんぱく徒然語り」を放送。毎週日曜日9時～9時30分の30分番組として、福島県立博物館からのおすすめの情報、福島に関することなどを学芸員やテーマに応じた特別ゲストとご紹介している。令和4年度は、57回の放送を行った。

令和4年度は、猪瀬主任学芸員が出演したBSテレビ東京の特別番組「化石ハンター」が7月17日に放映された。

また、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・インターネット等の取材に基づいた記事・放映等は次のとおりである。

(ア) 春の企画展「アンモナイト合戦-アンモナイトvs同時代の生き物たち-」関連

- ・福島民報／こけし(4月6日記事)
- ・福島民報／会津学鳳高と県立博物館 共同研究 企画展で中間報告へ(4月18日記事)
- ・読売新聞／会津学鳳高生化石披露 県立博物館 いわきの地層で採掘(4月22日記事)
- ・キビタンスマイル／県立博物館 春の企画展「アンモナイト合戦」まもなく開幕(4月22日放送)
- ・福島民報／アンモナイトの魅力とは(4月23日記事)
- ・NHK／アンモナイトの化石を展示 会津若松市

- の福島県立博物館（5月9日放映）
- ・福島民友／みんゆうジュニア情報局「アンモナイト、知っとかないと」（5月15日記事）
- ・毎日新聞／列島・北から南から（東北）アンモナイト展（5月17日記事）
- ・キビタンGO／よみがえる、アンモナイトの世界（6月1日放映）
- ・キビタンスマイル／企画展「アンモナイト合戦」記念講演会のお知らせ（6月7日放送）
- ・NHK／もりすた「福島県会津若松市にある福島県立博物館で開催中の「アンモナイト展」を紹介」（6月16日放映）

（イ）夏の企画展「新選組展2022—史料から辿る足跡—」関連

- ・福島民友／4日から前売り 県立博物館、来月23日開幕（6月2日記事）
- ・福島民友／「刀剣乱舞」グッズ販売へ（7月1日記事）
- ・福島民友／リアルな姿 そこにある 監修 三野行徳さん（7月21日記事）
- ・福島民友／隊士30人の人物評 新たな史料発見 阿部綾子学芸員（7月22日記事）
- ・福島民友／若松、きょう開幕 新選組、本当の姿は アンバサダーに大林さん（7月23日記事）
- ・読売／新選組の実像迫る 会津若松で企画展（7月24日記事）
- ・福島民友／子孫が展示協力 ファンの熱気会場包む 会津に宿る隊士の魂（7月24日記事）
- ・福島民友／土方の愛刀 県内初公開（7月24日記事）
- ・福島民報／新選組の歴史に迫る 9月19日まで 県立博物館（7月26日記事）
- ・福島民友／愛刀と2人の人物像語る 土方愛さん ハーバート真理子さん（7月31日記事）
- ・福島民友／事前予約のグッズ人気 福島日産ラッピングレンタカー（7月31日記事）
- ・福島民友／アプリで音声ドラマ配信 隊士とまち歩きを（8月4日記事）
- ・福島民友／近藤勇の実像に迫る 監修の三野さん講演（8月7日記事）
- ・福島民友／隊士子孫3人トーク（8月11日記事）
- ・福島民友／新選組展 1万人突破（8月11日記事）
- ・福島民友／木刀デザイン気分は隊士 児童ら絵付け体験（8月12日記事）
- ・河北新報／新選組 史料で歩み追う（8月13日記事）
- ・福島民友／新しい学びに出会える 展覧会アンバサダー 大林素子さん（8月14日記事）
- ・読売／土方の愛刀 和泉守兼定 刀工の故郷で初

- 展示（8月17日記事）
- ・福島民友／会津は土方の「癒やしの場」新選組子孫がトーク（8月18日記事）
- ・読売／斎藤一 後半生の家族写真 会津との縁の深さを語る（8月18日記事）
- ・福島民友／斎藤一の家族写真展示へ 23日から後期、一部入れ替え（8月19日記事）
- ・福島民友／新選組展 2万人突破（8月24日記事）
- ・福島民友／会津バス連携企画 隊士カードプレゼント 周遊乗車券提示で（8月25日記事）
- ・福島民友／なりきり隊士姿、号外に 10、11日 コスプレイベント（9月4日記事）
- ・福島民友／新選組展2022からのお願いです。（9月13日記事）
- ・福島民友／新選組展、きょう見納め（9月19日記事）

（ウ）秋の企画展「林原美術館名品展 名君の大名文化～岡山池田家と会津 武、その華と志～」関連

- ・福島テレビ／夕方ニュース（10月6日放映）
- ・福島テレビ／テレポートプラス（10月7日放映）

（エ）冬の企画展「写真展 福島、東北 写真家たちが捉えた風土／震災」関連

- ・NHK／はまなかあいつTODAY（1月24日放映）
- ・福島中央テレビ／ゴジてれChu!（1月24日放映）

（オ）テーマ展・ポイント展関連

- ・福島テレビ／恐竜と同じ時代を生きたワニの祖先の化石を展示 ケガをしたとみられる跡も 福島県立博物館4月23日から（4月22日放映）
- ・福島放送／ワニ祖先の化石展示準備進む（4月22日放映）
- ・福島民友／世界に唯一 ワニ祖先化石（4月23日記事）
- ・福島民報／古写真が伝える奥会津の習俗 県立博物館でテーマ展 田島の故小滝さん撮影（12月9日記事）
- ・読売新聞／昭和の奥会津 日常写す 県立博物館で展示 変わる時代捉えた42枚（12月21日記事）

（カ）調査研究

- ・河北新報／いわきで発掘のアンモナイト 国内初確認の化石も 福島県立博物館 あすから展示（4月22日記事）
- ・福島中央テレビ／海と日本プロジェクト in ふくしま（7月18日放映）
- ・福島民友／福島民友ジュニア新聞「福島で世界

- で 恐竜の化石 研究中」(1月29日記事)
- ・NHK/ローカルニュース、夜のニュース (2月15日放映)
- ・KFB福島放送/「大下容子!ワイドスクランブル」[シェア!(第1部)]「シェア!(第2部)」(2月16日放映)
- ・レビュー福島/恐竜も鳥のように鳴いていた?世界初、恐竜の“喉”の化石発見 福島 (2月16日放映)
- ・河北新報/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石を発見 福島県立博物館などの研究チーム (2月16日記事)
- ・福島テレビ/世界初 恐竜の喉の化石発見 福島県立博物館学芸員がリーダーの国際研究グループ 恐竜の鳴き声説明へ (2月16日放映)
- ・読売新聞/恐竜「ピナコサウルス」は鳥のように発声できたか…世界初、化石から喉の骨特定 (2月16日記事)
- ・共同通信/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・時事通信/恐竜の喉の化石特定 世界初、鳥類のように発声か 福島県立博物館 (2月16日記事)
- ・福島民友/恐竜も鳴き声で会話? 「喉の化石」世界初発見 県立博物館など (2月16日記事)
- ・朝日新聞/世界初、恐竜の「のど」化石発見 どんな鳴き声だったかわかる可能性 (2月16日記事)
- ・産経新聞/恐竜も鳴き声で会話か 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・東京新聞/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見」(2月16日記事)
- ・日本経済新聞/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・秋田魁新報/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・山陽新聞/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・北國新聞/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・日刊スポーツ/世界初、恐竜の喉の化石を発見 現存する鳥類と多くの類似点、恐竜も鳥のように鳴き声で会話? (2月16日記事)
- ・毎日新聞/恐竜、鳴き声で会話の可能性 喉の化石研究から 北海道大ら発表 (2月16日記事)
- ・日本海新聞/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・北海道新聞/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・ニッポンドットコム/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・四国新聞/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・熊本日日新聞/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・山形新聞/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・信濃毎日新聞/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・東奥日報/恐竜も鳴き声で会話? 世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・TBS/恐竜も鳥のように鳴いていた?世界初、恐竜の“喉”の化石発見 福島 (2月16日放映)
- ・福井新聞/恐竜も鳴き声で会話?世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・新潟日報/恐竜も鳴き声で会話?世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・佐賀新聞/恐竜も鳴き声で会話?世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・高知新聞/恐竜も鳴き声で会話?世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・岐阜新聞/恐竜も鳴き声で会話?世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・下野新聞/恐竜も鳴き声で会話?世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・ヨコハマ経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日記事)
- ・浦和経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日記事)
- ・京都新聞/世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・北日本新聞/恐竜も鳴き声で会話?世界初、喉の化石発見 (2月16日記事)
- ・吉祥寺経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日記事)
- ・二子玉川経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日記事)
- ・アキバ経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日記事)
- ・新宿経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日記事)
- ・西多摩経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日記事)
- ・千葉経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日記事)
- ・岡山経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日記事)
- ・秋田経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日記事)
- ・伏見経済新聞/恐竜の喉の化石特定 (2月16日

- 記事)
- ・MSNニュース／恐竜「ピナコサウルス」は鳥のように発声できたか「世界初」化石から喉の骨特定（2月16日記事）
 - ・バンクーバー経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・春日部経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・足利経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・日向経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・自由が丘経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・足立経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・中日新聞／恐竜も鳴き声で会話？ 世界初、喉の化石発見（2月16日記事）
 - ・姫路経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・京橋経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・なんば経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・弘前経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・徳島新聞／喉の化石発見－恐竜も鳴き声で会話？ 世界初－（2月16日記事）
 - ・豊田経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・大阪ベイ経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・新橋経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・秩父経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・小倉経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・川崎経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・富山経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・烏丸経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・銀座経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・日本橋経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・松山経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・赤坂経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・金沢経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・熊谷経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・沖縄タイムス／恐竜も鳴き声で会話？ 世界初、喉の化石発見（2月16日記事）
 - ・浜松経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・調布経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・長崎経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・西宮経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・浅草経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・練馬経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・47NEWS／恐竜も鳴き声で会話？ 世界初、喉の化石発見（2月16日記事）
 - ・八王子経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・品川経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・倉敷経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・博多経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・市ヶ谷経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・板橋経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・葛飾経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・加古川経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・小樽経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・飯田経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・横須賀経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・広島経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・川口経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
 - ・福島経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）

- ・ドバイ経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・青森経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・鹿児島経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・台北経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・神戸経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・梅田経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・あべの経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・石垣経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・宗像経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・周南経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・川越経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・仙台経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・富士山経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・逗子葉山経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・みんなの万博新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・東京ベイ経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・熱海経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・盛岡経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・佐賀経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・中国新聞／恐竜も鳴き声で会話？（2月16日記事）
- ・立川経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・六本木経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・愛媛新聞／恐竜も鳴き声で会話？（2月16日記事）
- ・千葉日報／恐竜も鳴き声で会話？（2月16日記事）
- ・相模原町田経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・徳島経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・高崎前橋経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・沼津経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・函館経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・和歌山経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・mixiニュース／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・岡崎経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・札幌経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・香港経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・神奈川新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・奈良新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・奈良経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・dメニューニュース／世界初「恐竜ののど」化石を発見（福島）（2月16日記事）
- ・iZa／恐竜も鳴き声で会話か 世界初、喉の化石発見（2月16日記事）
- ・山口宇部経済新聞／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・大分合同新聞／恐竜も鳴き声で会話？（2月16日記事）
- ・エキサイトニュース／恐竜の喉の化石特定（2月16日記事）
- ・琉球新報／恐竜も鳴き声で会話？ 世界初、喉の化石発見（2月16日記事）
- ・TBS／THE TIME（2月16日放映）
- ・Abema news／恐竜「のど」化石 世界で初めて発見 音声進化解明の第一歩に（2月16日放映）
- ・日テレニュース／【世界初】恐竜の化石から「のどの骨」特定 鳥のように発声できた？（2月16日放映）
- ・TECH+ マイナビニュース／福島県立博物館など、恐竜の発声に関わる器官「喉頭」の化石を発見（2月17日記事）
- ・Focus.pl／Jak brzmiały dinozaury?（2月17日記事）
- ・Canaltech／Descoberta da primeira laringe de dinossauro pode revelar como eram seus sons（2月17日記事）

- ・ New York Times/What Sounds Did Dinosaurs Make? (2月24日記事)
 - ・ National Geographic (Spanish)/Descubren que los dinosaurios podían «cantar como aves» en el periodo Cretácico, hace 67 millones de años (2月28日記事)
 - ・ Phys.org/Larynx fossil suggests dinosaur may have been capable of making bird-like calls (2月28日記事)
 - ・ IFL Science/Spiky Armored Ankylosaurs May Have Sounded Like Birds According To Rare Fossil (2月28日記事)
 - ・ SCIENCE alert/A World-First Discovery Hints at The Sounds Non-Avian Dinosaurs Made (2月28日記事)
 - ・ INTERESTING ENGINEERING/Rare fossil shows non-avian ankylosaurs might have sounded like birds (2月28日記事)
 - ・ BGR/We may finally know what weird sounds land-based dinosaurs made (3月2日記事)
 - ・ Big World Tale/Dinosaur could make bird-like calls new analysis has unveiled (3月2日記事)
 - ・ muyInteresante/Este dinosaurio cantaba como un pájaro (pero mucho más fuerte) (3月2日記事)
 - ・ ZAP.aeiou/Finalmente podemos saber quais eram os sons que alguns dinossauros faziam (3月2日記事)
 - ・ 福島民友/福島民友ジュニア新聞「恐竜の声分かるかも」(3月5日記事)
 - ・ 読売新聞/読売新聞ワークシート通信 (3月5日記事)
 - ・ テレビ東京/60秒で学べるニュース (3月8日放映)
 - ・ 誠文堂新光社/子供の科学5月号 (3月8日記事)
 - ・ 共同通信/子ども紙面向け4こま漫画「タイニャーマスク」(3月8日記事)
 - ・ 朝日学生新聞社/まんがニュース それってど〜ということ!?(3月8日記事)
 - ・ ナゾロジー/世界初「恐竜の喉化石」を発見! 恐竜の鳴き声は鳥に近かった!?(3月8日記事)
 - ・ Gizmodo/Extremely rare! fossilized dinosaur voice box suggests they sounded birdlike (3月16日記事)
 - ・ YAHOO!/Extremely rare! fossilized dinosaur voice box suggests they sounded birdlike (3月16日記事)
 - ・ MSN/Extremely rare! fossilized dinosaur voice box suggests they sounded birdlike (3月16日記事)
 - ・ The Science Times/Dinosaur Sounds? Fossilized Voice Box Suggests That These Creatures Had a More Melodious, Subtle Vocal Range Than Previously Thought (3月16日記事)
 - ・ Potok Media/Шипастые бронированные анкилозавры умели щебетать как птицы (3月16日記事)
 - ・ Pulzo/¿Piensa que los dinosaurios rugían? Una nueva investigación apunta a algo distinto (3月16日記事)
 - ・ WEB.DE/Welche Laute machten Dinosaurier? Studie gibt überraschenden Hinweis (3月16日記事)
 - ・ Illustreret Videnskab/Forskere: Ikke alle dinosaurer brølede (3月16日記事)
 - ・ Novaator/Saurused võisid teha linnulikke häälotsusi (3月16日記事)
 - ・ Science Post/Les ankylosaures gazouillaient-ils comme des oiseaux? (3月16日記事)
- (キ) その他
- ・ 福島民報/論説「会津文化観光拠点 魅力ある展示で誘客を」(4月15日記事)
 - ・ 日本経済新聞社郡山支局/東北版「県立博物館 客の動き分析 会津大、福島で取り組み」(6月2日記事)
 - ・ 埴町/広報はなわ「随想りレー ハナワクジラ」(10月1日記事)
 - ・ ふくしまFM/ふくしまFM「ここからモーニング」(11月3日放送)
 - ・ 博報堂(ダスキン)/福島県民は掃除好き?(11月16日記事)
 - ・ TUF/Nスタふくしま「厄は「洗剤」で洗い流せ! 厄年に洗剤配り“箱買い”も…始まりは「紙風船」? 福島の意外な風習」(1月16日放映)
- (2) 公聴活動
- 常設展アンケートは、前年度の調査をもとに三の丸からプロジェクト・まちなか連携事業と関連する項目を新設し、企画展アンケートを統合する形態に変更した。年間を通じての項目ごとの傾向分析のほか、自由記述欄についてはテキストマイニングを試行する予定である。また、博物館で開催した次の行事について利用者に対するアンケート調査を実施した。これらの結果を分析し、事業の改善に努めた。

令和4年度 アンケート実施事業一覧

常設展	
企画展	アンモナイト合戦
	新選組展2022
	名君の大名文化
	写真展 福島、東北
講座	特別講座
	歴史講座
	保存科学講座
	美術講座
	自然史講座
	防災講座 (ゲストティーチャー)

7. 福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」

福島県立博物館では、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」に取り組んでいる。

(1) 事業の概要

ア. 事業の趣旨・経緯

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進する拠点計画及び地域計画の認定が行われた。当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画は、「会津のSAMURAI文化エリア（若松城跡）」「若松城下の商工文化エリア（会津若松市街地）」「雪国のくらしとものづくり文化エリア（奥会津）」の3つのエリア周遊を実現することにより、質の高い文化観光を提供しようとするものである。同計画の実現のため、令和2年度から5ヶ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

イ. 組織

1. 申請者：福島県（福島県立博物館）
2. 共同申請者：
会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

ウ. 助成

令和4年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

(2) 事業内容

ア. 文化資源磨き上げ事業

3エリア周遊のための文化資源の調査・撮影等調査については、絵図や古文書などから若松城下の町や商業の成り立ちを探り、地形図等の精査から城や城下町の立地の地形的な特色等について検討した。また雪国の暮らしについて、現存する建造物・古民家について

資料を集めて検討した。

撮影については、当館が収蔵する文化資源の撮影（デジタル化）を、事業に活用しうる優先度等に応じて進めた。「若松城下絵図屏風」「蒲生氏郷画像」（国重文）をはじめとして17件を対象に実施した。また、奥会津の自然環境や周遊ポイントの四季の景観等の撮影を、前年度に行った冬（雪）バージョンに続けて、春・夏・秋の各時期に実施した。

イ. 展示強化事業

博物館を起点として発信し、各エリアへの周遊を促すという目的を実現するため、西レストコーナー、部門展示室（民俗）に展開する映像コンテンツ企画の基本計画を作成した。

西レストコーナーでは、若松城の土塁に面する窓に若松城のマップアニメやドローン映像を映し「会津のSAMURAI文化」を紹介する基本計画、部門展示室（民俗）では、展示室北側に巨大スクリーンを設置し、「若松城下の商工文化」「雪国のくらしとものづくり文化」を体感できる映像空間制作を行う基本計画を作成した。

機材の選定や施工概要の検討、雪景色やものづくり現場の撮影、城下・奥会津のものづくり文化についての学芸員による解説映像の撮影、編集を経て、「会津の四季」「雪景色」「ものづくりの解説」「サイノカミ行事の解説」からなる映像を制作。部門展示室（民俗）北側に展開する幅約20mの巨大スクリーンに高輝度プロジェクター3台を用いて映写し、展示資料と映像表現や光、音を組み合わせ、城下・雪国の風土とくらし、ものづくり文化の魅力を体感することのできる空間を創出した。

ウ. 体験型プログラム提供事業

武家文化を観賞・体験する「見て触れて会津の武家文化に親しむ」と題する4つのプログラムを実施した。刀剣取扱や武家茶道などプログラムの種類を増やして実施した。

また、会津のものづくりを体験する「冬場にじっくり！会津・ものづくり体験」と題する6つのプログラムを実施した。会津塗、

会津本郷焼の制作体験のプログラムも新たに実施することができ、会津のものづくりの多様さを伝えることができた。

エ. 若松城下まちなか連携事業

「若松城下の商工文化エリア」周遊を促進するため、会津若松市街地に点在する商工文化を伝える歴史的建造物で行う連携展示（4月～5月開催、共通テーマ「まちかたの暮らしにも本郷焼」）及び連携イベント（10月～11月開催、共通テーマ「楽しむたしなみ 会津でふれる武家文化」）を各会場で開催した。連携展示の会場は、福西本店、竹藤、末廣酒造嘉永蔵、会津塗伝承館鈴善漆器店（いずれも国登録有形文化財）と当館を含めた5会場とした。連携イベントの会場は、先にあげた4ヵ所の国登録有形文化財の4会場とし、新型コロナウイルス対策で人数制限がなされる中であることからイベントの様子を動画作成しYouTubeで公開した。

また、令和4年度にリニューアル整備を行った部門展示室（民俗）と連携可能な歴史的建造物を素材にした周遊促進のためのパンフレットを作成した。このパンフレットは、当館収蔵の「若松城下絵図屏風」をナビゲート役とし、若松城下絵図屏風の該当位置に展示会場をマッピングし、さらに該当歴史的建造物の歴史や魅力、各建造物で展示している資料や若松城下の人々の暮らしぶりが伝わる資料を掲載するとともに、周遊することで得られる文化価値をわかりやすく伝えるものとし、来訪者が会津若松ならではの文化資源を体感しリアルな歴史体験へと誘導する内容とした。

オ. 多言語化事業

総合展示室の大テーマ解説年表、小テーマ解説、展示資料解説（キャプション）の英語・中国語（簡体字・繁体字）の多言語化を実施した。多言語化のテキストは、観光庁の「HowTo多言語解説文整備」に基づきネイティブライター等専門人材による現地取材・執筆・編集・監修のフローにより作成した。前年度に実施した大テーマ及び中テーマ解説多言語化に続き、今年度で総合展示室の多言語化を完了することができた。

多言語テキストに加え既存の日本語テキストを視認性やユニバーサルデザインに留意しながらデザイン委託し、成果はサインとして掲出するとともに、昨年度導入したサーバー

ネットワーク式のデジタルサイネージにて年表を追加し配信した。

カ. 利便性向上事業

（ア）情報通信環境整備

常設展示室（部門展示室）、企画展示室、講堂、視聴覚室、実習室、体験学習室へのWi-Fi環境整備を行った。

（イ）環境整備

多様な来館者による観覧の利便性向上の一環として、視覚に障がいを持つ来館者でも展示を楽しめる環境整備を行った。視覚に障がいがあっても総合展示室で同行者とともに楽しむ、また当館解説員との対話を楽しめるシステムとして視覚支援カード『さわって観るてんじカード』の製作を行った。製作にあたっては、各分野から総合展示室で観てほしい資料をピックアップしつつ、福島県点字図書館の職員、福島県立視覚支援学校の教員からのアドバイスを活かしたものとした。

また、障がいや遠距離など様々な理由で来館が難しい潜在的な博物館ユーザーに向けた遠隔観覧システムを確立するため、テレプレゼンスロボットを使用した遠隔観覧の試行を行った。1回目は福島県立会津支援学校の小学部5年生に向けて実施し、2回目はアメリカ合衆国オハイオ州コロンバス日本語補習校の教員・児童・生徒に向けて実施した。前者は、障がいを持つ観覧者が遠隔観覧システムを利用するにあたって留意すべきことを事後の振り返りでご指摘いただいた。また、後者については、海外在住の方など時差がある場所で利用するにあたって留意すべきことをご指摘いただいた。

キ. 周遊促進事業

（ア）雪国ものづくりレストラン

当館レストランを「若松城下のものづくり」「雪国のものづくり」をテーマに一新し、会津周遊へ導くゲートウェイ機能、ミュージアムショップ機能、収蔵資料を活用した小規模な展示機能を持った多機能スペースとして活用することを目標としている。

前年度にまとめた会津の「ものづくり」と「食文化」を紹介・体験することができる空間のトータルデザインに基づきながら、屋内・半屋外用の会津漆器の技法を取り入れた展示空間・販売ブースを製作。ま

た、会津漆器の工程を学べるオリジナル漆照明の製作や照明整備も行った。

会津のものづくりの歴史、伝統的技術や素材、工程がわかるカトラリーや器として、「会津塗の製作工程がわかる折敷」「会津塗の技法がわかるスプーン」などを製作した。

あわせて会津の食材や伝統食に精通した識者によるメニュー（動物性製品使用メニュー、ヴィーガンメニュー）を考案。調理・運用方法の検討の上、使用するカトラリー・器類の解説も付したメニューをデザイン・印刷した。

(イ) 雪国ものづくりマルシェ

共同申請者との協議やこれまでの当館の博物館活動に基づくネットワークにより、本事業におけるものづくり体験ワークショップの講師やマルシェへの出店者を検討。関係者との打合せにより本事業の趣旨を共有した上で、広報、マルシェの実施、振り返りを行った。

前年度の成果・課題を踏まえ、開催日程や時間帯を検討し、春・秋2回のマルシェを各2日間実施。運営委託業者、出店者、ワークショップ講師と事前にマルシェのコンセプトを共有し、内容を検討し開催した。博物館前庭及び体験学習室を会場に、会津漆器、会津木綿、会津本郷焼、編み組細工等、若松城下や奥会津のものづくりの販売ブース、会津のものづくりを体験することのできるワークショップブース、会津の農産物やそれらを用いたフード、会津の地酒を販売する食ブースを設け、食も含めた会津のものづくり文化を見て触れて体験するマルシェとした。

ク. 国内外プロモーション事業

共同申請者と本プロジェクトを通じて会津の文化資源を国内海外に発信するためのプロモーションについての協議を行い、あわせて本年度事業における実施状況を踏まえて、日本政府観光局（JNTO）より派遣いただいた同局地域連携部長に、プロモーション事業についての指導・助言をいただいた。本プロジェクトが実現しようとしている3エリア周遊を促進する文化観光拠点としての当館の整備の実績（レストラン・体験学習室）および、「会津のSAMURAI文化エリア」「若松城下の商工文化エリア」の周遊先である史跡・若松城、末廣酒造嘉永蔵・福西本店（ともに国登

録有形文化財）を周遊の視点で実見していただいた上で、本プロジェクトを国内海外発信するにあたっての考え方や手法についてレクチャー・アドバイスをいただいた。指導・助言には、共同申請者である福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）・会津若松観光ビューロー（地域DMO）・只見川電源流域振興協議会の担当者も同席し、国内海外プロモーションの試行内容を検討し、本格的に発信するための準備を行った。

ケ. 3エリア周遊促進情報発信事業

有識者として、東洋大学国際観光学部の須賀忠芳氏を招き、文化観光拠点としての当館の整備状況、各事業の実施状況の現地調査を踏まえた本プロジェクトへの助言を頂いた。また、本プロジェクトの事業効果を検証するため、株式会社リクルートによるアンケートを令和5年3月に実施した。

本プロジェクトの事業を客観的な立場から検証するため、文化施設の事業評価を専門とする大澤寅雄氏（アートNPOリンク代表理事）に事業評価を委託し、現地調査とオンラインヒアリングを元に分析・評価を頂いた。

「三の丸からプロジェクト」のビジュアルイメージを浸透させ、広報力を強化するためにロゴマークを制作したほか、会津若松観光ビューロー（共同申請者、地域DMO）が管理運営するWebサイト「会津若松観光ナビ」に「三の丸からプロジェクト」の情報を発信するページを作成・公開・運用した。

コ. 3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備

(ア) 展示室

部門展示室（民俗）を、3エリア周遊につながるゲートウェイ機能を持つ展示室として整備した。コンセプトを「雪国会津の暮らしともものづくり」にあらため、会津の雪景色・年中行事・ものづくり文化等を体感できるような仕掛け作りを目指し、会津地方を特徴づける雪景色や積雪量、雪国の特徴的な衣生活、現代まで伝わる食文化や編み組細工、年中行事などを感覚に訴えかけてより効果的に伝えることができる環境を整えた。

内容は以下の通り

- ①奥会津の積雪量を実感できる原寸大民家模型および積雪スケールの造作
- ②映像作品上映のためのPC・プロジェク

- 夕用電源設置工事スクリーンの設置
- ③作品上映用巨大スクリーンの設置
 - ④指向性が高く映像作品に干渉しない照明の導入、および照明のLED化
 - ⑤展示効果を高めるステージや展示台の製作

(イ) 無料空間

3 エリア周遊の一つ「雪国のくらしとものづくり文化エリア」周遊を促進するとともに、親子連れや未就学児などの利活用環境整備の一環となるよう、体験学習室の整備を行った。「小上がり」として床面より一段高くなっていた部分を撤去したことで、幼児や高齢者にも移動がしやすく、より広く使える開放的な空間を創出した。併せて床面を研磨し蜜蝋ワックスがけを行い、木の肌ざわりを活かせるよう整備した。

また、奥会津各町村の「市町村の木」や多用されてきた木材を利用した可動式ベンチを製作。ワークショップ等に活用するとともに、奥会津でものづくりに使用されてきた木材とその文化を紹介する機能を付した。

さらに、昔のおもちゃや絵本等を収納したり展示等で多目的に活用できる棚を新設。特に「会津木綿」を背板の代わりに使用することで、視覚的にも空間を明るく演出するとともに、その柄や肌ざわりを楽しめるようにした。加えて洗面台を自動水洗にし、バリアフリー設計で整備した。鉢の部分を「会津本郷焼」で製作。会津の郷土食である「にしんの山椒漬け」を作るために使う「鯺鉢」や調味料などの保存に用いていた「切立」に着想を得た形状にするなど、会津のものづくり文化を盛り込んだ設備とした。このほか奥会津の代表的な木材である桐を利用した看板を製作した。

8. 地域連携とネットワークの拠点

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

(1) 福島県博物館連絡協議会

ア. 事業の趣旨・経緯

当会は、福島県内の博物館及びこれに準ずる施設が相互の連絡、協働によってその機能を強化し、地方文化の振興に寄与することを目的とするもので、昭和54年から活動している。設立時より福島県立博物館は事務局を務め、他館と連携しながら会の運営を担っている。

イ. 組織

1. 理事会 南相馬市博物館（会長）、福島県立美術館（副会長）、その他11館。
2. 所属館 郡山市立美術館、その他50館。
3. 事務局 福島県立博物館

ウ. 事業内容

令和4年度は、下記の事業を実施した。

1. 福島県博物館連絡協議会一般事業
 - (1) 第1回理事会

日 時	令和4年8月10日（水）
	13時～
会 場	福島県立美術館
 - (2) 総 会

日 時	令和4年8月10日（水）
	14時10分～
会 場	福島県立美術館
 - (3) 研修会－博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会

日 時	令和4年11月25日（金）
	13時30分～16時
会 場	福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ小活動室
 - (4) 研修会－二本松歴史館見学会および講演会

日 時	令和5年2月8日（水）
	13時30分～16時
会 場	にほんまつ城報館
2. 被災博物館・被災文化財救済事業

これまでの被災博物館・被災文化財救済事業のまとめ準備作業を行った。

(2) 磐梯山ジオパーク推進事業

ア. 事業の趣旨・経緯

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質

や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立、平成27年にはユネスコの正式な事業となった。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。令和3年度には再認定審査会が実施され、第44回日本ジオパーク委員会にて再認定となった。

当館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会設立当初から協議会に参画し、館の正式な連携事業と位置づけて進めている。

イ. 組織

福島県立博物館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会に参画し、連携事業として取り組んでいる。

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、ガイド団体などの民間団体、文化・教育施設が加わっている。事務局は3町村の商工観光課が中心となり、北塩原村自然環境活用センターに置かれている。

ウ. 活動

自然分野から災害分野へと担当が変わり対応も変更している。猪苗代町の学校から依頼を受けた防災講座をジオパーク事務局と連携して対応を行った。その際には日本赤十字社福島支社や猪苗代町社会福祉協議会などと協働して講座を行うこともできた。今後も三町村での防災教育、防災講座など教育普及で協働を進めていく予定である。

(3) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、平成20年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象

として、大小様々の科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、平成23年3月11日震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。当館もこのプロジェクトに平成22年から参画して活動している。

令和4年度は新型コロナウイルスに留意しながら、サイエンス屋台村inムシテックワールドを12月11日（日）に実施した。当館でも「恐竜パズルに挑戦」というブースを出展し、150名の方に参加していただいた。



サイエンス屋台村inムシテックワールドの様子

(4) 福島芸術計画

ア. 事業の趣旨・経緯

福島芸術計画は、地域の団体と協働してアートプログラムを実施する事業。文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興を支援している。

令和4年度は芸術活動を通して被災地の地域コミュニティの支援や心の復興を図るとともに、福島の未来を担う子ども達に学校では体験できない創作の機会を提供することで、心豊かな成長を支援するため「アートによる新生ふくしま交流事業」として「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」及び「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」を行った。

イ. 組織

1. 主催 福島県
2. 運営委員会構成団体
福島県文化振興課／福島県立美術館／福島県立博物館／認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島
3. 事業受託者
認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島

ウ. 事業内容

令和4年度の福島芸術計画のうち、福島県立博物館は「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」の一環として下記の3事業の企画運営を担った。

1. 感じる漢字

- (1) 実施地域：会津若松市
- (2) アーティスト（講師）：
千葉清藍（書家）
- (3) 地域パートナー：
福島県立会津支援学校
- (4) 対象：
福島県立会津支援学校、高等部2・3年生、中学部1・2年生、小学部5年生
- (5) ワークショップ実施日：
11月29日（火）、11月30日（水）
- (6) 内容

講師を務めた千葉清藍氏と会津支援学校教諭、当館学芸員とのミーティングを重ね、書を通して、和紙や墨の質感や匂い、文字が意味することなどを五感で感じ、創造を楽しむワークショップを考案、実施した。会津支援学校内の生活体験室を会場にすることで、掛軸などを使った床飾り、香炉、盆石、花器と季節の花などを飾り、実物とそれらを表現する文字の意味を理解することを狙った。重度障がいの子や訪問学級の児童も個別対応で授業に参加した。制作した作品は体験学習室でも展示公開し、児童生徒の表現の素晴らしさを多くの方に知ってもらう機会とした。また、ワークショップの様子と成果をまとめた記録集も制作。WEB上で公開し、広く活動を知っていただけることを目指した。

2. まっくら森の音楽会

- (1) 実施地域：会津若松市
- (2) アーティスト（講師）：
シーナ・アキコ（マリンバ・ピアノ・ガラクタ演奏家）
VIVIWARE Cell講師：
VIVIWARE株式会社 山内佑輔、柏本和俊
VIVITA JAPAN株式会社 小村陽子
- (3) 地域パートナー：
福島県立会津支援学校
- (4) 協力：
いわき芸術文化交流館（アリオス）
- (5) 対象：

福島県立会津支援学校小学部5年生の児童

(6) ワークショップ実施日：

令和5年1月30日(月)

(7) 内容

前年度にオンラインで行った「音」を表現手段とするワークショップの発展形として、対面で実施。身体の動きなどに反応する「ViVi WARE cell」とiPadなどの機器類、シーナ・アキコ氏の考案によるガラクタ楽器を活用し、子どもたちが思い思いに様々な音を生み出す、音の創造を楽しんだ。人が内包する創造性と最新技術の融合に、障がいのある方たちを対象とした「音」を素材としたワークショップの可能性を見出す事業となった。ワークショップの様子は動画にまとめ、体験学習室で開催した成果展で公開し、多くの方に活動内容や障がいを知っていただく機会とした。また、ワークショップの様子と成果をまとめた記録集も制作、WEB上で公開した。

3. 写真家の村越としやさんとみんなで作る昭和村写真展

(1) 実施地域：昭和村

(2) アーティスト(講師)：

村越としや(写真家)

大里正樹(当館学芸員) * 1回目のみ

(3) 地域パートナー：昭和村教育委員会

(4) 対象：昭和村の小学生、中学生

(5) ワークショップ実施日：

①10月16日(日)、②11月5日(土)、

③11月26日(土)

(6) 内容

写真家の村越としや氏を講師に招き、参加した児童・生徒が撮影を通して自分たちが生まれ、暮らす地域を再発見することを目的に実施した。1回目は、村越氏と当館民俗分野の大里学芸員が、当館が所蔵する東北を写した写真作品などをそれぞれの視点で解説。写真の魅力や東北の美しさなどへの理解を深めた。2回目は、多様な職業の可能性を伝えるため村越氏が写真家となった理由などを聞き、その後参加者が撮影した「自分の好きな昭和村」のプリントを見比べ、視点によって異なる多様な昭和村を楽しんだ。3回目は、観光交流施設・喰丸小の1教室を会場に、参加者が写した昭和村の写真をつかって村越氏と展示をつくるワーク

ショップを行った。写真のトリミングや様々な素材でフレームをつくる手法などを村越氏から教わり、思い思いに展示をすることができた。展示は、成果展として約3週間公開。成果展も含めた活動内容をまとめた記録集も制作し、WEB上で公開した。

(5) ふくしま歴史資料保存ネットワーク

地域の歴史や文化を伝える歴史資料などの記録保存を進め、災害時には救出・保全をはかり、後世に伝えることを目的に、平成22年11月に発足した。現在の代表・事務局は福島大学(行政政策学類 阿部浩一教授)。近年は、古文書整理・撮影作業を福島大学で定期的に行いながら、歴史資料の保存を趣旨としたさまざまな催しを企画・支援している。

当館で震災直後から保管していた個人所蔵の古文書の一部の整理・撮影作業を、福島大学で継続して実施しているが、令和4年度は新型コロナウイルス拡大の影響で作業が進められなかった。

(6) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会

ア. 事業の趣旨・経緯

福島県立博物館が行う展覧会等を観光資源として生かし、博物館と自治体、商工業団体、観光団体等との連携により地域振興、観光振興を図るとともに、文化芸術の本質的価値及び社会的・経済的価値を地域社会が文化芸術の継承、発展及び創造に活用・好循環させることを目的として事業を実施している。

イ. 組織

1. 構成団体

会津若松商工会議所、(一財)会津若松観光ビューロー、福島県立博物館、会津若松市

2. 事務局 会津若松商工会議所

ウ. 事業内容

夏の企画展「新選組展2022」に協力。「新選組展」において会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会事業との連携により行った「夜間観覧」の実現を支援した。

また、令和2年度から実施している「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業 三の丸からプロジェクト」の支援も行った。

9. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれともなう津波・原発事故は、福島県内に甚大な被害を及ぼした。未だに多くの方々が避難生活を余儀なくされ、一方で復興や除染工事等により地域の景観は大きく変わりつつある。当館では平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

ア. 震災遺産保全チームの組織

令和4年度は民俗1名、歴史1名、自然1名、美術1名、災害2名の計6名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害分野担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動やポイント展を行った。

イ. 震災遺産の調査・保全

震災遺産の常設展示に向けて、ワークショップや意見交換などを行い、方向性の検討を進めている。

令和2年度末より引き続き、コロナ関連資料の収集を継続している。震災遺産類として東日本大震災との比較資料と位置づけた。収集した資料には博物館に届いた展示会の中止案内などの便りや、学芸員個人が生活の中で使用したマスクや、消毒用アルコール、アマビエ関係のものなどがあり約250件を整理した。

震災遺産の未整資料の整理を進めた。写真撮影を行い、中性紙封筒へ収めるなどした。また課題である収蔵場所として第五収蔵庫や第二収蔵庫の整理を引き続き進めている。

ウ. 他団体・他機関との連携・協力

公害資料館ネットワークが実施を予定しているシンポジウムに実行委員会として加わり、プレイベントに登壇した。博物館資料展示活用アウトリーチ事業として、磐梯山噴火記念館、東日本大震災原子力災害伝承館とと

みおかアーカイブ・ミュージアムと二回開催することができた。会津自然の家や磐梯山青少年交流の家との連携も定例化した。新たに磐梯山ジオパーク運営協議会とも教育普及活動として、連携した防災講座の運用を開始した。協力体制をとってきた筑波大学の科研費報告書作成に参加した。

エ. 普及事業

ゲストティーチャー、講師派遣、特別プログラムなどの対応回数が50回を超えた。小・中学校の教科書が改訂され、防災教育に対しての需要が増えたことも大きい。地域社会のニーズとマッチしたものと考えている。アンケート調査も行い、ニーズや課題を洗い出した。

10. 新たな博物館の役割・機能の創出

(1) 文化財・自然資料レスキュー

ア. 平成23年3月の東日本大震災に伴う活動

平成23年3月11日に起きた東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により被災した文化財・自然資料のレスキュー・保全作業を、福島県被災文化財等救援本部（以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局）に参画して実施してきた。今年度は6月29日に打ち合わせを行い、県文化財課が中心となって、これまでの活動をまとめた報告書の作成に取り組み、令和5年3月に福島県被災文化財等救援本部編『福島県被災文化財等救援本部活動報告書』として刊行した。

当館が新規に関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

イ. その他の災害発生時対応に伴う活動

令和元年度に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられた。災害時には市町村からの救援応援要請が出され、相互応援協定による支援・応援が実施されることになった。

6月29日に連絡会議を行い、7月26日に「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議がオンラインで開催された。令和4年3月に起きた福島県沖地震の被災文化財レスキュー作業に、以下の通り参加した。

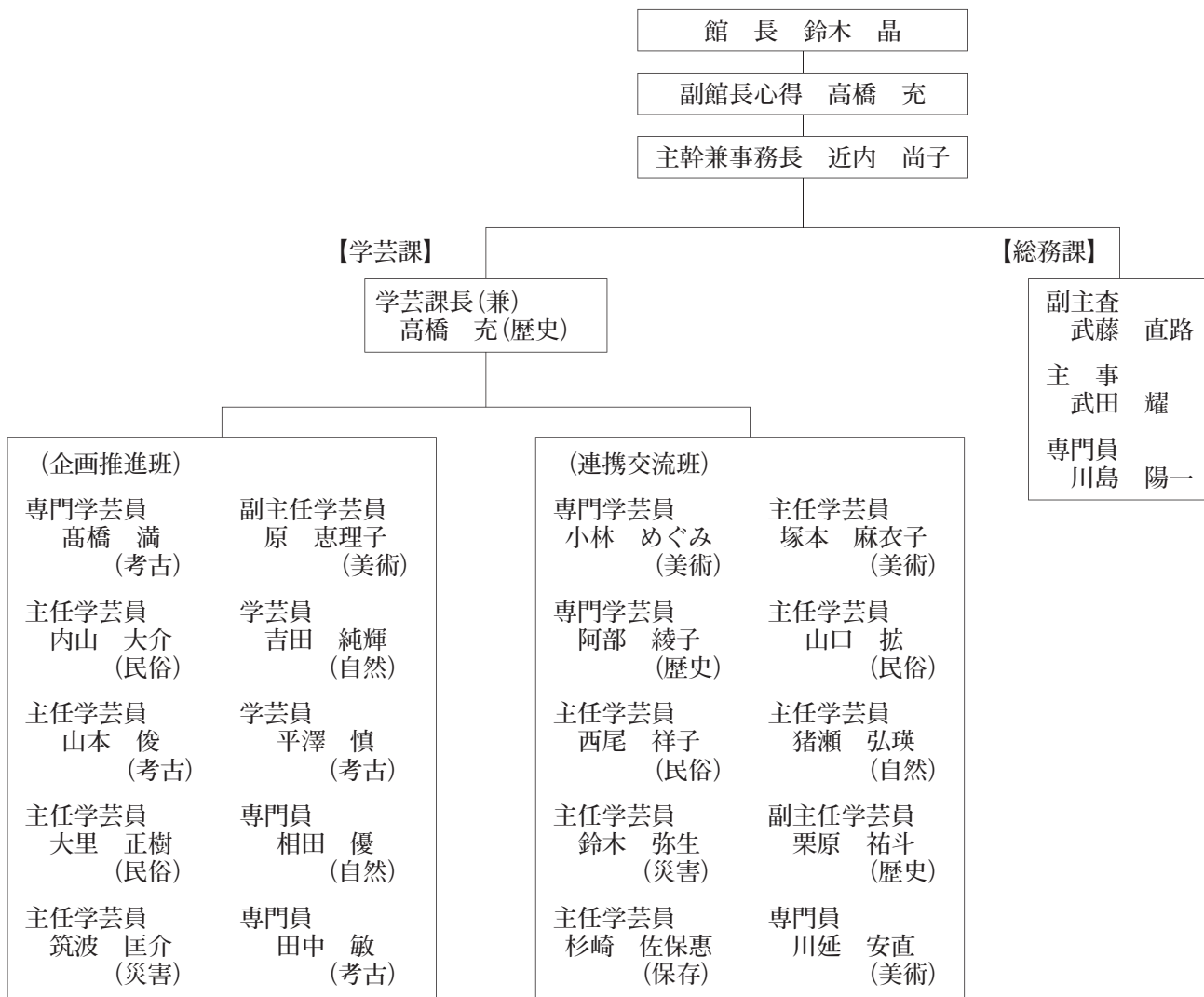
- ・ 7月18日 相馬市
内山大介 田代駒焼作業場のクリーニング
- ・ 令和5年3月5日 相馬市
内山大介・高橋充 個人宅蔵解体に伴う緊急調査

II 管理運営

1. 組織・職員

福島県立博物館の組織

(令和4年4月1日現在)



会計年度任用職員 (定数外)

- ・ 展示解説員 13名
- ・ 資料整理員 2名
- ・ 事務補助員 1名

嘱託員等名簿

職名	氏名
展示解説員	渡部 知香
	岩崎 萌
	穴澤 由美子
	佐藤 聖華
	及川 敏康
	松本 光生
	日下部 順子
	和田 光
三浦 裕子	

職名	氏名
展示解説員	湯田 守
	小原 由起
	山村 葵
	遠藤 彩楓
資料整理員	長澤 宏子
	小川 敦子
会計年度任用職員	鈴木 ゆみ子

2. 予 算

令和4年度は、下表のとおり予算を執行した。

令和4年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)			金 額
使用料及び手数料			9,272
	使 用 料		9,272
		行政財産使用料	362
		建 物 使 用 料	362
		教 育 使 用 料	8,910
		博 物 館 使 用 料	8,910
財 産 収 入			1,484
	財 産 売 払 収 入		1,484
		物 品 売 払 収 入	1,484
		自 動 車 売 払 代 金	55
		そ の 他 物 品 売 払 代 金	1,429
諸 収 入			20,140
	雑 入		20,140
		雑 入	20,140
		雑 入	20,140
	合 計		30,896

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)			金 額
総 務 費			1
	総 務 管 理 費		1
		諸 費	1
		償還金、利子及び割引料	1
教 育 費			286,704
	教 育 総 務 費		4,431
		事 務 局 費	4,431
		報 酬	1,324
		職 員 手 当 等	258
		職員手当等(児童手当等)	1,290
		共 済 費	1,536
		旅 費	23
	社 会 教 育 費		282,273
		博 物 館 費	282,273
		報 酬	25,478
		職 員 手 当 等	4,903
		共 済 費	4,157
		報 償 費	1,499
		旅 費	2,647
		需 用 費	60,296
		需 用 費 (食糧費)	4
		役 務 費	5,737
		委 託 料	154,836
		使 用 料 及 び 賃 借 料	1,699
		工 事 請 負 費	5,814
		備 品 購 入 費	713
		負担金、補助及び交付金	14,461
		公 課 費	29
	合 計		286,705

3. 運営協議会の開催

(1) 福島県立博物館運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア. 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

運営協議会委員名簿

区分	氏名	役職名
学校教育	高橋 由江	会津若松市立神指小学校長
	齊藤 恵子	福島県立郡山支援学校校長
社会教育	会長 長野 隆人	いわき芸術文化交流館副館長
	副会長 佐藤 公	磐梯山噴火記念館館長
家庭教育	滝澤 玲子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会津さざなみの会会員
学識経験者	川口 立喜	公立大学法人会津大学 グローバル推進本部国際戦略室長・准教授
	四家 久央	合名会社四家酒造店代表社員
	大越 章子	日々の新聞社記者
	岩崎 和美	書道家
公募	町田 久次	公募委員

イ. 会議

第1回 令和4年7月15日(水)

議題

- ①令和3年度博物館入館者数について
- ②第3期中期目標の進捗状況について
- ③Innovate MUSEUM事業「ふくしま・創造・博物館」について
- ④博物館が抱える課題について
 - ・施設の老朽化、収蔵庫の逼迫について
 - ・ボランティア・利用者支援・協働について

第2回 令和5年2月28日(火)

議題

- ①令和4年度事業報告について
 - ・福島県立博物館事業の概要
 - ・入館者・利用者数(12月末現在)
 - ・文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」事業実施状況
 - ・中期目標(第3期)中間報告(12月末現在)
- ②令和5年度事業計画(案)について

(2) 入館者の推移
入館者の推移(年度別・月別)

(単位:人)

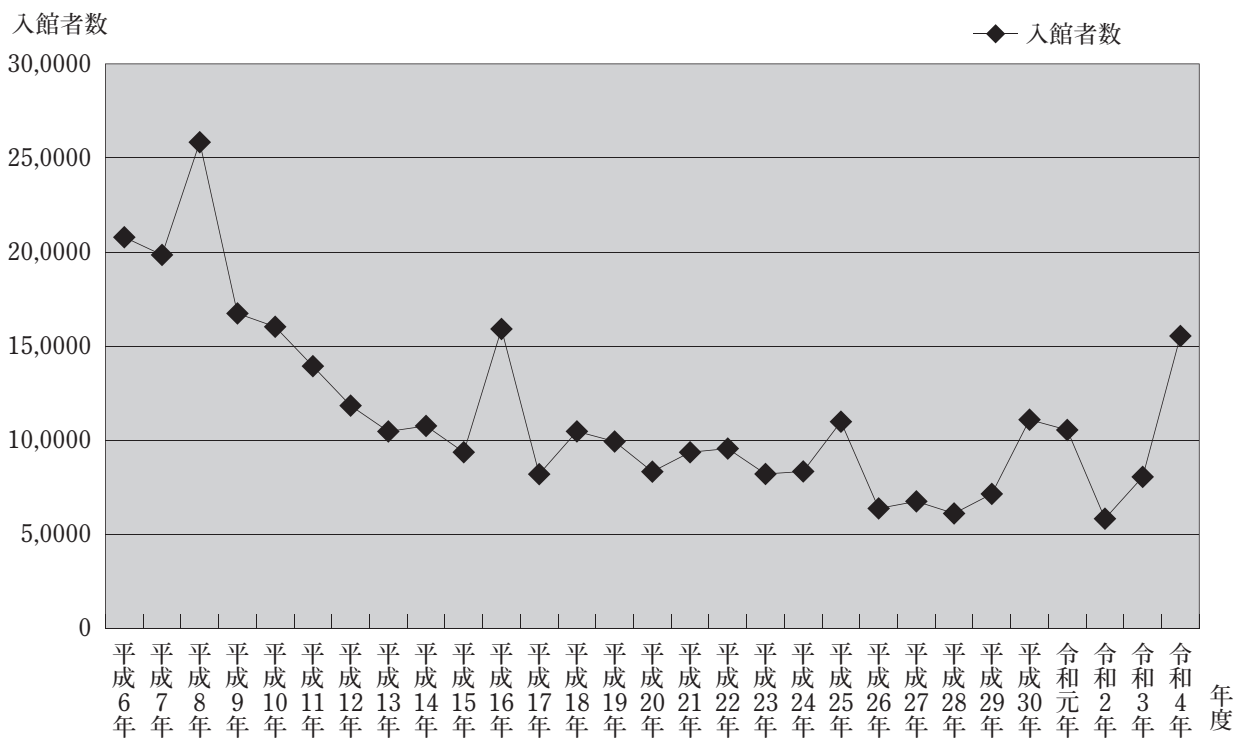
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計
昭和61年							31,758	49,868	8,860	6,531	13,614	11,850	122,481	133	921	20,414	122,481
62年	25,919	48,367	17,831	23,356	40,749	24,259	27,099	27,082	5,548	4,010	7,653	7,878	259,751	297	875	21,646	382,232
63年	20,561	35,853	14,823	22,651	32,396	20,198	29,648	21,234	4,512	4,959	6,350	4,405	217,590	296	735	18,133	599,822
平成元年	25,699	52,872	20,356	18,456	31,127	18,248	26,832	16,058	3,369	4,048	6,986	4,873	228,924	299	766	19,077	828,746
2年	22,750	50,265	19,043	24,050	34,218	17,008	34,201	18,482	2,303	3,813	5,982	7,115	239,230	299	800	19,936	1,067,976
3年	22,851	52,723	23,592	20,340	33,257	21,882	21,851	15,682	3,618	8,675	7,006	6,530	238,007	298	799	19,834	1,305,983
4年	16,637	56,983	23,841	22,800	37,431	20,334	18,565	17,592	4,028	5,073	9,096	7,606	239,986	297	808	19,999	1,545,969
5年	17,975	50,452	29,319	21,138	28,490	18,285	20,022	15,629	6,989	4,993	9,137	8,640	231,069	293	789	19,256	1,777,038
6年	15,320	38,693	20,737	12,328	25,837	16,551	28,034	19,857	7,839	4,732	9,197	8,742	207,867	296	702	17,322	1,984,905
7年	16,571	42,832	28,622	15,340	23,785	16,428	20,252	15,096	2,048	2,701	7,631	7,160	198,466	298	666	16,539	2,183,371
8年	12,433	40,138	18,185	9,725	21,495	15,879	64,772	50,811	9,473	3,141	6,700	5,616	258,368	294	879	21,531	2,441,739
9年	13,521	39,844	22,279	8,036	15,803	13,082	26,015	10,290	2,125	2,111	7,578	6,686	167,370	295	567	13,948	2,609,109
10年	14,922	34,430	24,933	9,541	16,208	13,794	18,431	9,061	2,395	3,218	9,770	3,575	160,278	295	474	13,357	2,769,387
11年	13,456	30,999	23,659	9,051	13,607	12,175	15,696	7,937	1,582	2,714	4,795	3,676	139,347	294	393	11,612	2,908,734
12年	10,539	21,341	18,775	7,127	13,184	12,794	15,609	8,120	1,801	829	5,353	2,897	118,369	301	393	9,864	3,027,103
13年	8,473	20,267	16,475	5,682	8,451	13,423	12,192	5,825	5,797	1,412	3,836	2,818	104,651	303	345	8,721	3,131,754
14年	8,028	19,242	17,211	4,706	14,702	19,901	10,688	5,265	1,078	1,196	3,183	2,386	107,586	306	352	8,966	3,239,340
15年	4,899	13,884	12,884	8,732	10,630	12,525	13,000	7,693	1,665	1,235	3,733	2,734	93,614	302	310	7,801	3,332,954
16年	8,770	19,287	16,768	20,318	34,732	35,813	11,227	5,440	2,192	855	2,019	1,690	159,111	302	527	13,259	3,492,065
17年	8,440	14,548	12,008	7,507	7,157	8,787	11,972	4,374	926	1,159	2,815	2,262	81,955	305	269	6,830	3,574,020
18年	7,019	11,381	14,151	5,246	10,548	13,405	25,464	9,029	1,989	1,468	2,928	2,058	104,686	310	338	8,724	3,678,706
19年	7,419	12,271	25,016	6,808	7,148	10,084	12,495	8,261	1,938	1,627	2,943	3,290	99,300	306	325	8,275	3,778,006
20年	6,521	10,730	13,011	7,401	8,582	10,326	11,388	6,798	1,558	1,037	2,193	3,730	83,275	306	272	6,940	3,861,281
21年	7,977	13,060	11,912	7,356	14,280	16,864	9,211	6,761	1,383	1,127	1,815	1,850	93,596	306	306	7,800	3,954,877
22年	11,669	15,085	16,283	10,472	11,658	9,513	8,522	6,280	1,637	1,947	1,796	694	95,556	293	326	7,963	4,050,433
23年	2,292	6,582	4,990	5,557	11,047	15,972	9,465	6,399	3,159	4,280	7,087	5,218	82,048	305	269	6,837	4,132,481

24年	8,940	9,350	6,912	7,532	12,764	10,702	10,683	6,438	2,316	1,551	3,173	3,040	83,401	306	273	6,950	4,215,882
25年	6,523	11,722	25,363	9,013	20,966	12,299	11,802	4,025	2,736	1,617	1,463	2,309	109,838	309	355	9,153	4,325,720
26年	4,972	7,374	7,677	4,250	5,845	7,457	4,549	8,878	3,815	1,036	3,765	4,121	63,739	309	206	5,312	4,389,459
27年	5,215	12,117	10,507	3,520	4,873	7,621	5,375	4,543	1,552	2,492	4,502	5,173	67,490	309	218	5,624	4,456,949
28年	5,006	7,101	9,290	4,037	5,551	14,131	5,014	2,792	1,082	886	2,512	3,671	61,073	303	202	5,089	4,518,022
29年	5,020	8,018	10,104	4,156	8,932	9,709	7,339	4,774	2,555	3,716	3,365	3,775	71,463	306	234	5,955	4,589,485
30年	4,898	8,589	13,353	14,686	24,285	22,000	10,084	4,762	1,416	915	2,090	3,825	110,903	306	362	9,242	4,700,388
令和元年	5,208	8,390	9,519	26,572	25,878	10,974	6,739	5,325	1,135	1,094	2,314	2,291	105,439	307	343	8,787	4,805,827
2年	551	609	2,546	2,232	8,162	13,219	12,748	10,096	875	1,346	2,277	3,623	58,284	283	206	4,857	4,864,111
3年	2,593	2,028	5,931	10,272	15,619	12,337	10,916	11,155	3,248	1,292	2,601	2,515	80,507	304	265	6,709	4,944,618
令和4年	3,977	9,589	11,838	13,840	41,232	38,852	11,802	11,833	2,948	1,712	3,805	3,951	155,379	301	516	12,948	5,099,997
平均	10,655	23,250	16,104	11,495	18,906	15,745	17,066	12,150	3,067	2,609	4,948	4,440	137,838	297	469	11,762	

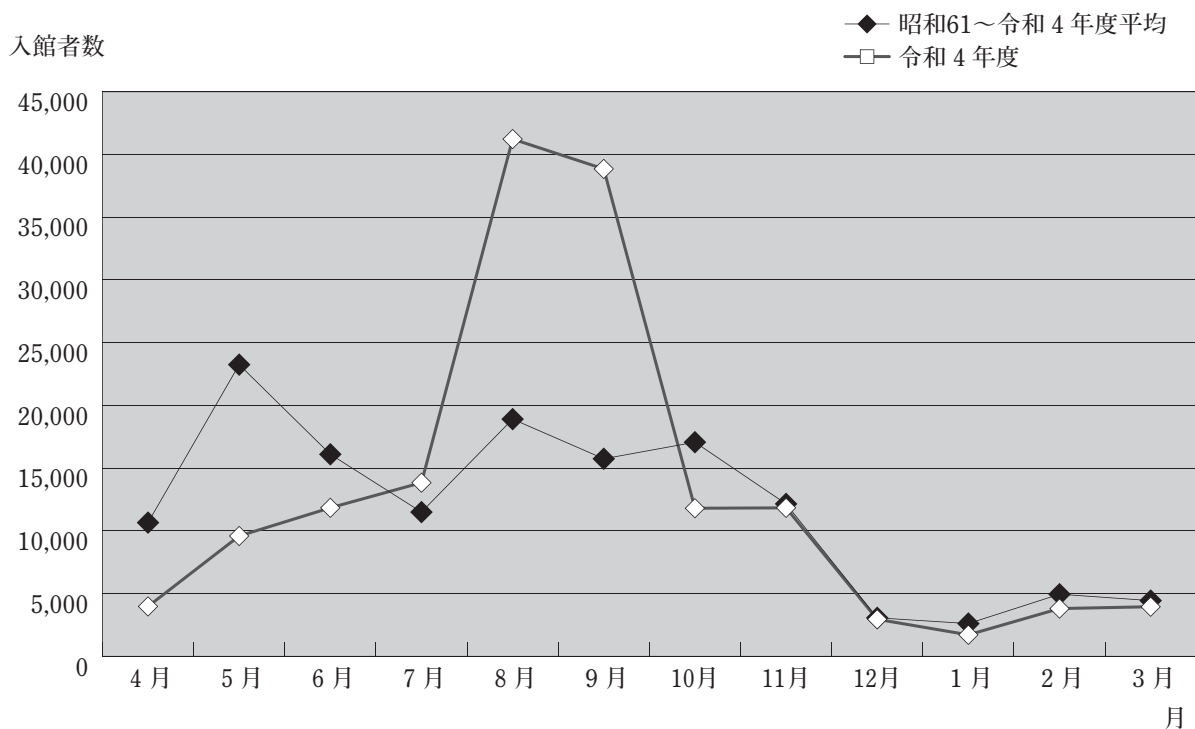
入館者の推移グラフ（年度別月別）

利用
状況

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鋳物の世界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	亜欧堂田善とその系譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鋳山のあゆみ	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘ふくしま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探検員化石ワールド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875
8	福島の山岳信仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44	8,931	976	12,432	22,339
	地震・火山・津波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近代子どもの世界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
9	縄文たんけん	9. 4.19～9. 6. 8	43日	5,282人	1,164人	23,052人	29,498人
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本の美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発掘ふくしま3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川將軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹と竹	19. 7.21～19. 9.17	52	1,987	44	429	619	3,079
	わくわく!化石大集合	19.10. 6～19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19～20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香村	20.10.11～20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10～21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17~22. 5.30	39日	6,077人	27人	489人	985人	7,578人
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26~22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9~22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8~23.11.27	43	4,908	28	188	0	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18~24. 3.31	36	2,523	21	271	0	2,815
	計		79	7,431	49	459	0	7,939
24	小さなもの集まれ	24. 4. 1~24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐竜時代のふくしま	24. 7.14~24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会津の寺宝	24.10. 6~24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158
25	八重の桜	25. 4.17~25. 7. 3	46	13,146	130	5,462	875	19,613
	対決！恐竜展	25. 7.27~25. 9.16	46	9,948	273	5,033	2,648	17,902
	考古学からの挑戦	25.10. 5~25.12. 1	50	1,955	11	85	872	2,923
	計		142	25,049	414	10,580	4,395	40,438
26	東北-風土・人・暮らし	26. 4.19~26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	アイヌの工芸	26. 7.19~26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	みちのくの観音さま	26.11. 1~26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673
27	ふるさと会津の人と四季	27. 5. 2~27. 6.21	44				5,992	5,992
	被災地からの考古学	27. 7.18~27. 9.13	51	1,518	39	221	362	2,140
	相馬中村藩の人びと	27.10.10~27.11.29	38	1,406	8	34	317	1,765
	計		133	2,924	47	255	6,671	9,897
28	大須賀清光の屏風絵と番付	28. 4.23~28. 6.12	45	2,254	14	201	486	2,955
29	自然をうつす	29. 4.29~29. 6. 4	32	1,291	45	620	483	2,439
	ふくしま5億年の自然史	29. 7.15~29. 9.18	59	3,457	138	2,037	1,005	6,637
	発掘ふくしま4	29.10. 7~29.11.26	44	1,305	455	1,475	506	3,741
	山水憧憬	30. 1.13~30. 2.18	32	3,012	42	209	433	3,696
	計		167	9,065	680	4,341	2,427	16,513
30	匠のふるさと会津	30. 4.28~30. 6.24	50	2,004	134	4,294	625	7,057
	美しき刃たち	30. 7.13~30. 8.19	34	21,581	841	2,853	2,006	27,281
	戊辰戦争150年	30. 9. 1~30.10.14	38	10,544	179	5,412	1,310	17,445
	日本のわざと美	30.10.27~30.12. 2	32	2,298	36	357	486	3,177
	計		154	36,427	1,190	12,916	4,427	54,960
元	とりもどすぎずなつながるみらい	31. 4.27~元. 6. 9	39	1,138	44	2,920	608	4,710
	興福寺と会津	元. 7. 6~元. 8.18	39	35,926	353	1,807	3,125	41,211
	あにまるず	元. 9. 7~元.11.17	63	3,511	345	4,009	843	8,708
	計		141	40,575	742	8,736	4,576	54,629
2	ふくしまの旅	2. 4.29~ 2. 6.28	38	1,031	14	85	201	1,331
	会津のSAMURAI文化	2. 8. 1~ 2. 9.22	47	4,581	109	1,037	1,053	6,780
	発掘された日本列島2020	2.10.10~ 2.11.15	32	4,063	169	882	1,042	6,156
	震災遺産を考える	3. 1.16~ 3. 3.21	54	2,364	49	462	390	3,265
	計		171	12,039	341	2,466	2,686	17,532
3	会津の絵画	3. 4.24~ 3. 6.27	56	1,486	55	607	514	2,662
	あはひのクニ あやかしのクニ	3. 7.17~ 3. 9.26	63	11,784	362	3,281	2,058	17,485
	ふくしま 蕁の文化	3.10. 9~ 3.12.19	62	2,806	112	3,567	1,045	7,530
	計		181	16,076	529	7,455	3,617	27,677
4	アンモナイト合戦	4. 4.23~ 4. 6.26	56	4,039	103	3,507	1,279	8,928
	新選組展2022	4. 7.23~ 4. 9.19	51	36,920	0	4,158	2,595	43,673
	名君の大名文化	4.10. 7~ 4.12. 4	50	7,492	1,822	39	1,058	10,411
	写真展 東北 福島	5. 1.21~ 5. 3.19	49	1,853	691	32	457	3,033
	計		206	50,304	2,616	7,736	5,389	66,045

*平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武家の文化	600	0	0	0	5	17	10	4	6	0	0	0	0	42	12,600
ふくしまの顔	500	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1,500
陸奥の古瓦	400	0	0	1	0	1	2	0	5	0	0	0	0	9	3,600
鉱物の世界	400	0	0	1	1	0	2	1	0	0	0	0	1	6	2,400
縄文の四季	500	0	0	2	1	1	2	1	0	0	1	1	0	9	4,500
まちの成立とにぎわい	500	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	1,000
亜欧堂田善とその系譜	1,000	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000
太古の生きものたち	500	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,000
日本の音色	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シルクロード紀行	1,000	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	3,000
縄文絵巻	800	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	2,400
浜通りの仏像	500	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	1,500
ふくしま鉱山のあゆみ	800	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	4	3,200
マンガ文化の源流	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐竜のあるいた道	500	1	7	12	0	0	1	0	0	0	0	0	1	22	7,000
定信と文晁	1,000	0	1	0	0	0	2	0	0	3	0	1	1	8	8,000
明治はじめて物語	500	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1,000
稲とくらし	800	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3	2,400
東北からの弥生文化	800	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	800
会津の自然史	800	2	16	15	0	2	1	9	1	1	0	1	1	49	26,000
玉堂と春琴・秋琴	1,100	0	0	0	0	0	2	9	2	2	0	0	0	15	10,500
げんき・病・元気	800	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	1,600
村芝居の世界	900	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	4	3,600
探検員化石ワールド	800	0	18	16	0	0	4	0	0	0	0	0	0	38	16,800
海のまくあけ	800	0	0	0	3	4	4	0	0	0	0	0	0	11	4,400
福島1000年時のかたち	900	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	900
いにしえの木匠	600	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1,200
福島の山岳信仰	800	0	1	0	1	0	3	0	0	1	0	1	3	10	8,000
地震・火山・津波	500	2	1	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0	10	5,000
近代子どもの世界	900	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	900
縄文たんけん	900	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	5	4,500
日本の魚学・水産学事始め	500	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1,000
染める	600	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	4	2,400
遠澤と探幽	1,300	0	0	0	0	0	1	1	1	2	1	0	1	7	6,700
天の絹絲	1,300	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	4	5,200
日本の美	800	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	2,400
氷河時代	700	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,400
新弥生紀行	1,100	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1,100
生の中の死	900	0	0	1	0	0	4	0	1	0	0	0	0	6	5,400
豊かなる世界へ	600	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	600
集古十種	1,100	0	2	0	1	2	3	6	4	3	1	0	2	24	19,900
海獣パレオパラドキシア	600	1	22	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0	36	11,100
英雄たちの系譜	500	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1,000
食と考古学	500	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	3	1,500
肖像にみる福島を築いた人々	900	0	0	0	0	0	0	5	10	4	2	6	7	34	17,000
武者たちが通る	400	1	1	0	16	41	20	0	0	0	0	0	0	79	16,400
発掘ふくしま3	600	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	5	3,000
笑いの想像力	1,000	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1,000
老い	1,000	0	0	0	0	0	0	3	3	2	0	1	3	12	6,000
婚禮	800	0	0	0	0	0	0	4	6	4	1	3	3	21	8,400
馬と人との年代記	800	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	800
布の声をきく	700	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	5	3,500
樹と竹	600	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3	6	12	24	8,700
わくわく!化石大集合	400	5	23	21	1	1	1	0	0	0	0	0	0	52	11,000
遠藤香村	800	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	4	3,200

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
岡本太郎の博物館	500	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	5	2	11	3,900
千少庵と蒲生氏郷	250	0	1	0	0	0	0	13	17	4	0	0	0	35	7,050
漆のチカラ	400	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	4	1,600
保科正之の時代	500	3	6	1	22	53	51	29	25	9	0	1	1	201	63,100
恐竜時代のふくしま	300	6	57	46	3	10	8	6	1	1	1	1	2	142	31,900
会津の寺宝	500	0	9	10	10	13	9	6	8	3	0	2	2	72	36,000
八重の桜	2,000	0	0	0	39	68	57	0	0	0	0	0	0	164	165,000
対決!恐竜展ガイドブック	300	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	600
考古学からの挑戦	900	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4	3,600
アイヌの工芸	1,000	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2,000
文化の力	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ポケットミュージアム	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
被災地からの考古学1	200	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	600
相馬中村藩の人びと	700	0	0	0	12	39	26	1	0	0	0	0	0	78	31,500
大須賀清光の屏風絵と番付	700	1	0	0	11	14	12	0	0	1	3	0	1	43	19,000
自然をうつす	900	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	1,800
ふくしま5億年の自然史	600	9	56	44	1	6	6	2	1	0	0	0	0	125	42,300
発掘ふくしま4	900	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	3	7	6,300
山水憧憬	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
匠のふるさと会津	800	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	5	4,000
日本のわざと美	2,000	0	1	0	0	0	0	2	5	1	0	0	0	9	10,000
あにまるず	500	0	1	6	3	0	3	1	1	0	1	0	0	16	8,000
ふくしまの旅	800	0	0	0	0	1	2	0	2	0	0	1	1	7	5,600
震災遺産を考える	800	4	1	3	4	8	8	2	2	2	1	5	4	44	35,200
会津の絵画	800	3	1	8	2	2	3	25	8	2	1	0	1	56	31,200
ふくしま 薫の文化	500	1	8	4	6	6	3	6	0	4	1	2	3	44	22,000
アンモナイト合戦	700	39	134	125	5	7	9	4	15	4	5	3	5	355	248,500
写真展 東北 福島	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	20	47	103	41,200
博物館学習指導の手引き(小)	400	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	1	6	2,400
福島の古墳	600	2	4	9	6	4	4	4	2	1	0	1	3	40	24,000
図説 戦時下の福島	400	0	1	1	2	3	2	1	1	0	1	2	1	15	6,000
図説 福島県の化石	800	3	33	27	2	3	4	2	0	3	0	0	2	79	38,000
福島の年中行事	600	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	5	3,000
常世原田遺跡	300	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	6	1,800
ふくしまの農具	500	0	1	1	0	3	3	1	1	0	1	2	3	16	8,000
福島の仏像(仏像図説)	700	0	1	1	2	1	3	2	2	0	0	0	5	17	11,900
遠藤香村クリアファイル	200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
絵葉書(バラ売り)	50	0	0	1	0	0	15	0	4	1	0	0	0	21	1,050
絵葉書(セット)	300	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	600
一筆箋	350	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	700
齋藤清絵はがきセット	350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐竜展2011 ポプラディア完全ガイド	500	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,000
恐竜博2011 公式図録	2,000	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4,000
体験学習材料	350	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10	3,500
会津の絵画クリアファイル	200	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	5	1,000
会津の絵画一筆箋	500	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	5	2,500
会津の絵画絵はがき	50	8	0	0	0	0	1	10	1	0	2	0	3	25	1,250
じみふかいセット	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
勾玉セット	200	0	0	0	0	8	0	0	25	0	0	0	14	47	9,400
文化の力	1,500	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	3,000
クリアホルダー	200	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	800
材料追加	150	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1,050
報告書		8	27	23	20	21	29	23	9	18	12	10	19	219	
報告書(金額)		4,300	12,500	8,800	10,200	12,500	16,500	14,500	5,300	8,500	5,400	5,300	11,000		114,800
紀要		42	18	0	6	9	15	2	6	3	2	10	16	129	
紀要(金額)		26,460	12,020	0	3,600	6,100	11,100	2,300	4,100	2,400	1,500	7,000	11,900		88,480
合計		151	471	405	218	371	353	194	183	94	81	93	190	2,804	1,429,180

※割引販売等の関係で、単価×販売数と合計金額は一致しない。

IV 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年 3 月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館として、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成9年条例第52号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成11年条例第93号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成15年条例第53号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成25年条例第119号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成28年条例第53号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成30年条例第46号)

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年条例第48号）

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

附 則（令和2年条例第25号）

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和5年条例第32号）

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

区 分	普通観覧料の額 （一人当たり）		特別観覧料の額	年間観覧料の額（同一人が 有効期間内に利用する場合）	共通観覧 料の額
	個人	団体			
一般（大学生を含む。）	280円	220円	その都度知事が定める額	3,300円の範囲内で知事が定める額	220円
高校生及びこれに準ずる者			その都度知事が定める額	1,980円の範囲内で知事が定める額	
中学生、小学生及びこれら に準ずる者			その都度知事が定める額	1,320円の範囲内で知事が定める額	

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品を観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは企画による展示品を観覧する場合（常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。）の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいい、「共通観覧料」とあるのは常設展の展示品及び規則で定めるものを併せて観覧する場合の観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

（昭和61年3月25日 条例第31号）

（設 置）

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第23条第1項の規定に基づき、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組 織）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、10人以内とする。

（委員の任命及び任期）

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（庶 務）

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

（雑 則）

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成24年条例第43号）

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に改正前の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命されている福島県立博物館運営協議会の委員は、その残任期間中は、改正後の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命された福島県立博物館運営協議会の委員とみなす。

附 則（令和5年条例第33号）

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例施行規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第5号)

(休館日)

第1条 福島県立博物館（以下「博物館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

- 1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。
- 2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日になるときに除く。
- 3 1月1日から同月4日まで
- 4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（様式第1号）を交付するものとする。

2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（様式第1号の2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券の交付の日から起算して1年とする。

2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。

3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額（引率者にあつては全額）
3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。

(観覧料の返還)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額

2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

(博物館資料の特別利用)

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

(教育長への委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和61年4月1日から施行する。(令2教委規則8・旧附則・一部改正)
- 2 第3条の2第1項の有効期間中に工事により休館する期間がある場合は、その期間を1年に加算した期間を同項の有効期間とする。(令2教委規則8・追加)
 - 附 則 (昭和63年教委規則第9号)
この規則は、昭和63年4月1日から施行する。
 - 附 則 (平成4年教委規則第14号)
この規則は、平成4年9月1日から施行する。
 - 附 則 (平成7年教委規則第15号)
この規則は、平成7年4月1日から施行する。
 - 附 則 (平成8年教委規則第16号)
この規則は、平成8年4月1日から施行する。
 - 附 則 (平成8年教委規則第20号)
この規則は、平成8年10月1日から施行する。
 - 附 則 (平成12年教委規則第16号)
この規則は、平成12年4月1日から施行する。
 - 附 則 (平成14年教委規則第14号)
この規則は、平成14年4月1日から施行する。
 - 附 則 (平成15年教育委員会規則第3号)
この規則は、平成15年4月1日から施行する。
 - 附 則 (平成30年教育委員会規則第7号)
この規則は、平成30年4月1日から施行する。
 - 附 則 (令和2年教委規則第8号)
この規則は、令和2年4月1日から施行する。
 - この規則は、平成30年4月1日から施行する。
 - 附 則 (令和2年教委規則第8号)
この規則は、令和2年4月1日から施行する。
 - 附 則 (令和3年教委規則第15号)
この規則は、令和3年4月1日から施行する。
 - 附 則 (令和5年教委規則第6号)
この規則は、令和5年4月1日から施行する。

様式第1号 (第3条関係)

観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額) 福島県立博物館	観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額) 福島県立博物館
---	---

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第1号の2 (第3条の2関係)
(表)

年間観覧券 福島県立博物館

(裏)

(交付番号) (観覧者の区分)

(有効期間)

御利用に際して

- 1 福島県立博物館が主催する展覧会のみ有効です。
- 2 下記に署名された御本人以外の方は使用できません。
- 3 御購入後の紛失等による再発行はいたしません。

(氏名)

(学校名) (学年)

福島県立博物館

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

法
規

様式第2号(第4条関係)

福島県立博物館長

住所又は所在地
氏名又は名称及び代表者の氏名

申請者

観覧料免除申請書

年 月 日

印

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり承認してよろしい。				第 年 月 日
館長	副館長	総務課長	主任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号

年 月 日

様

福島県立博物館長

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
注意事項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第6条関係)

福島県立博物館長

住所又は所在地
氏名又は名称及び代表者の氏名

申請者

観覧料返還申請書

年 月 日

印

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年 月 日			
既納観覧料の 区分及び金額	区	分	人	数
				金 額
				人
				円
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり返還してよろしい。				
館長	副館長	総務課長	主任	
受付月日	・	・	決裁月日	・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年 3月25日 教育委員会規則第6号)

(目 的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の收受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館 長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課 長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 前項に規定するもののほか、課長は、課の事務を点検する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主 幹	上司の命を受け、特に指示された事務を掌理する。
事 務 長	上司の命を受け、副館長を補佐し、博物館の事務を処理する。
主 任 主 査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理し、並びに担当する事務を取りまとめ、及び整理する。
主 査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副 主 査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専 門 員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成6年教委規則第4号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成13年教委規則第6号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第8号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第11号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（令和2年教委規則第5号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

- 2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
- 4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

- 2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。
- 3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

- 2 展示委員は次の任務を遂行する。
 - （1）展示計画原案の作成
 - （2）展示計画作成のための基礎的資料の収集
 - （3）展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

(1) 調査員

- イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。
- ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

(2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

- 2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
 - ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
 - ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
 - ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
 - 3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。

- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

会 長	1名
副 会 長	若干名
幹 事 長	1名
会 計	2名
幹 事	若干名(各サークルの代表者は、本会の幹事となる。)
監 事	2名

- 2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

- 2 補欠のため任ぜられた役員は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 幹事長は、本会の会務並びに実務を主となって処理する。
- 4 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。
- 6 会計は、本会の会計業務一切を主務とする。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

- 2 役員会は、必要のつど会長が招集する。
- 3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。
- 4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

- 2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

- 2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)
- 3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)
- 4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)
- 5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)
- 6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)
- 7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)
- 8 この規約は、平成27年3月26日から施行する。(第6条、第8条第3項・4項関係)
- 9 この規約は、平成28年4月1日から施行する。(第6条第1項関係・第8条3項関係)
- 10 この規約は、平成30年3月17日から施行する。(第6条第1項・第8条第6項関係)
- 11 この規約は、令和2年3月22日から施行する。(第11条、第12条、第14条関係)

V 施設の概要

1. 建築概要

設計者	(株)佐藤武夫設計事務所
工事監理	福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所
施工者	建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株)共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備)工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株)共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備)工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)
面積	敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1 階 9,980.45㎡ 2 階 1,090.99㎡
建築事業費	6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739
規模	地上2階
最高の高さ	20.6m
最高の軒高	13.6m
地域地区	住居地域 風致地区第1種

構造	主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭
外部仕上げ	屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャストコンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ
内部仕上げ	(エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40m/m 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ(総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12m/m 天井 アルミ特殊ルーバー天井(講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ(第1・3・6収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12m/m 壁 杉板厚12m/m ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12m/m 本実張(第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板(第4収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12m/m 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板(第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板
工期	着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日

施設の概要

2. 設備

電気設備	1. 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz 変圧器容量(業務用) 1575KVA (冬季用) 400KVA 2. 非常用電源 発電機 3相3線式 6.6KV 50Hz 400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ AH-PE200AH86セル 3. その他 電話設備、インターホン設備、TV共同 視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸 等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放 送設備、I T V監視設備 4. 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデッキ、音響総合ラック
空調設備	1. 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファンコ イル ユニット方式 2. 熱源設備 ガス直焚冷温水発生器(150RT)×2 ガス 焚鉄銹セクショナルボイラー(396.00Kcal/H) 水冷式チーリングユニット(120RT)
衛生設備	1. 給水 市水道 受水槽：50㎡ 2. 消火設備 (屋内)スプリンクラーとハロン消化設備 の併用、(屋外)野外消火栓
昇降機設備	油圧式エレベーター定格荷重：3 t 1基 油圧 式リフト 定格荷重：2 t 1基
融雪設備	ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・ ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪 感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組 み合わせにより自動運転または手動運転。
監視設備	分散形総合監理制御システムにより、受電設 備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・ 庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う。
電話設備 火災報知設備	電子交換外線3回線 内線64回線 受信盤P型1級 60回線(自火報)33回線(防排 煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、 排煙区画8系統、平面地図盤(照光式)により表 示
防犯設備	電波センサー・電子サイン・I T Vを必要箇所 に設置し、監視制御システムと併用

各室面積表

室名	面積 (㎡)	備考	室名	面積 (㎡)	備考
収蔵スペース	2,294.8 (㎡)		応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.0		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
民俗作業室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用(1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース	788.3 (㎡)		機械スペース	1,253.1 (㎡)	
研究室	238.4		空調機室1F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室2F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電機室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
歴史作業室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース	693.1 (㎡)		ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース	2,507.54 (㎡)	
教育普及スペース	693.1 (㎡)		エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(展示)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース	719.5 (㎡)		その他	1,202.64	
事務室	166.1		計	11,071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子 駐車場 2 台分）（～9.3.19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13.1.9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11.20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16.1.8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12.17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.3.18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10.4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～3.17） スプリンクラーヘッド交換工事（～3.17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～3.23）
平成19年 2月 1日	1階床張替え補修工事（～3.23）
平成19年 2月21日	ウォッシュレット取付け工事（～3.19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～3.24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換 2 回（～12.25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22.2.26）
2月17日	企画展示室改修工事（～3.29）
11月16日	中央監視システム更新工事（～23.4.25）
11月26日	空調熱源機器改修工事（～23.4.22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～4.25）
平成27年 9月 1日	冷房暖房設備改修工事（～11.24）
平成27年 9月 2日	シャッター撤去・新設工事（～10.15）
平成28年 9月13日	冷却塔外改修工事（～29.3.10）
平成29年11月 1日	非常用電気設備触媒栓交換修繕（～12.27）
平成30年 3月27日	屋根等改修工事（～30.12.14）
平成30年 9月11日	温水ボイラー修繕（～30.9.27）
平成30年 9月15日	中央監視システム修繕（～30.11.1）
令和元年 8月19日	自動火災報知器設備更新工事（～2.1.9）
令和 2年11月11日	非常放送設備更新工事（～3.3.5）
令和 2年11月17日	点字ブロック改修工事（～3.3.30）
令和 3年 9月 1日	空調自動制御機器更新工事（～4.3.30）
令和 3年 9月15日	構内情報通信網設備工事（～3.11.16）
令和 3年11月 2日	キャッシュレス決済用LAN配線工事（～3.12.1）
令和 3年11月24日	防火扉修繕工事（～4.3.4）
令和 4年 6月10日	構内情報通信網設備工事（～4.7.26）
令和 4年 6月10日	体験学習室整備工事（～4.7.7）
令和 5年 2月16日	民俗部門展示室電気設備工事（～5.3.23）
令和 5年 3月 1日	レストラン照明設備工事（～5.3.28）

5. 沿 革

《開館にいたるまで》

昭和52年	5月13日	文化を考える県民会議の設置
	6～8月	文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年	1月24日	文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
	7月26日	第1回文化振興会議開催
昭和54年	2月2日	文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
	3月19日	文化施設等整備基金条例制定
	4月1日	福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
	2月24日	福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年	4月1日	福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年	1月26日	県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
	2月3日	県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年	2月18日	県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年	7月30日	建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所） 展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年	6月8日	建設工事契約（株清水建設仙台支店・株会津土建・株秋山建設による共同企業体）
	7月7日	県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
	7月10日	展示工事委託契約（株トータルメディア開発研究所・株乃村工藝社・株丹青社による共同企業体）
	7月13日	展示工事着工（～61.9.10）
昭和61年	3月25日	県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
	3月31日	県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
	4月1日	県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
	10月1日	展示解説員19名採用
	10月18日	県立博物館開館

《開館してから》

昭和61年	11月28日	登録博物館の指定（第10号）
昭和63年	8月21日	入館者50万人達成
平成元年	3月10日	友の会設立
平成2年	10月7日	入館者100万人達成
平成4年	3月31日	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成5年	4月1日	展示解説員22名となる
平成7年	5月5日	入館者200万人達成
平成8年	10月5日	開館10周年記念式典を催す
平成12年	10月15日	入館者300万人達成
平成13年	1月25日	博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年	3月25日	博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
平成15年	3月24日	博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
	3月28日	高橋富雄館長「金曜講座」第393回目開催
	3月31日	高橋富雄館長退任
	4月1日	赤坂憲雄が県立博物館長に就任 前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年	4月8日	赤坂憲雄館長・学芸員「木曜の広場」第1回開催
平成17年	5月6日	入館者350万人達成
平成18年	9月29日	博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年	7月	福島県立博物館の使命を策定し公表

平成19年 7月21日	当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹 一列島の文化 北から南から」を開催
平成20年 7月19日	磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
平成22年 6月26日	県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶーふくしまの森林文化ー」を開催
平成23年 3月11日	宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館
平成24年 5月15日	「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。8月～11月にかけて、東京電力福島第1原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
平成25年 5月17日	2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催
11月27日	「博物館ニュース」創刊から400号達成
平成27年 5月 2日	福島県立博物館と福島県立美術館が美術館移動展示「ふるさと会津の人と四季ー福島県立美術館名品展ー」を共催
平成28年10月15日	博物館開館30周年記念式典を開催 開館30周年記念特集展「収蔵庫からこんにちは」を開催
平成29年 3月26日	福島県財務規則の改訂により博物館資料「震災遺産類」追加される
令和元年10月12日	令和元年東日本台風（令和元年台風19号）
令和 2年 3月19日	赤坂憲雄館長 最後の「館長講座」開催
3月31日	赤坂憲雄館長退任
4月 1日	鈴木晶が県立博物館長に就任
4月21日	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため臨時休館開始
5月16日	臨時休館から再開館
11月18日	当館と共同申請者が策定、申請した「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」が文化庁より認定を受ける。 「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を開始する。
令和 4年 8月31日	入館者500万人達成

VI 利用案内

●開館時間

午前 9 時30分～午後 5 時（最終入館は午後 4 時30分まで）

●休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内メンテナンスのために臨時に休館することがあります。

●観覧料

- ◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金
一般・大学生280円（220円） 高校生以下は無料
- ◎企画展 そのつど定めます。
- ◎年間パスポート（購入日より1年間有効）
一般・大学生2,000円

★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は事前の申請により常設展料金の減免を受けることができます。

★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料
また1種（精神障害者保健福祉手帳にあっては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。

★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は常設展のみ無料。

★展示室以外の入館は無料。

●常設展無料開放日

5月5日（こどもの日）／8月21日（県民の日）／9月19日（敬老の日）／11月3日（文化の日）

●交通案内



◎会津若松駅より約 3 km

◎市内バス利用の場合

- ①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分
- ②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分

●体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

●講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第37号

令和5年9月29日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<https://general-museum.fcs.ed.jp/>

印刷 北斗印刷株式会社

〒965-0052 会津若松市町北町大字始字深町67-2

TEL (0242) 32-2366

この年報の本文は再生紙を使用しています。

